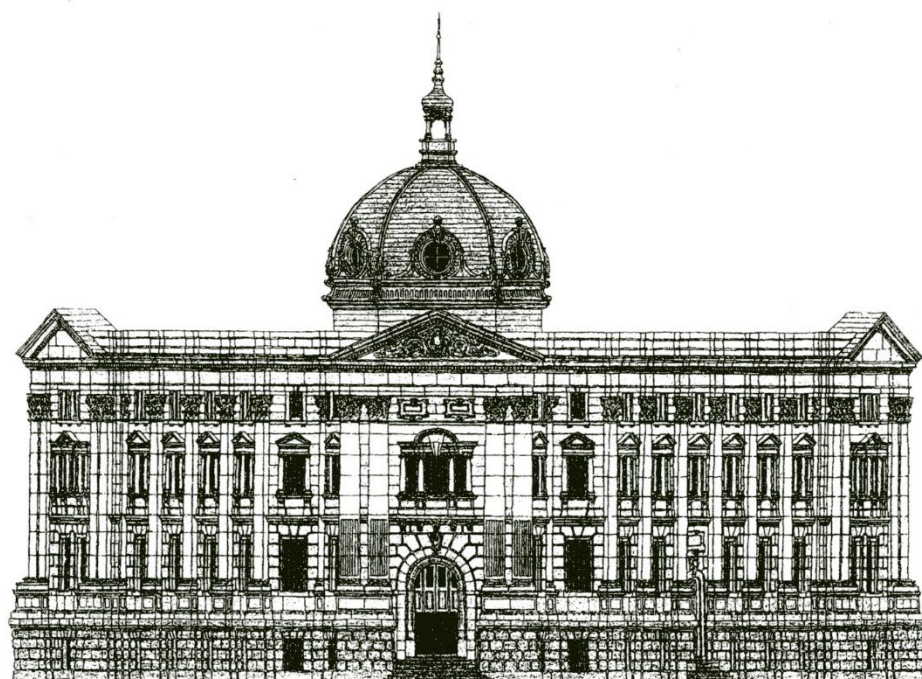


神奈川県立歴史博物館年報

令和6年度



神奈川県立歴史博物館

はじめに

神奈川県立歴史博物館では、「神奈川の文化と歴史」に関する資料の収集、保管並びにこれに関する調査研究、情報提供を行い、県民の学習支援に努めています。

当館の建物は、国指定の重要文化財である旧館部分の建物が竣工して 121 年、博物館としてリニューアル開館して 58 年が経過し、設備等改修工事のため令和 7 年 1 月から令和 8 年 9 月（予定）までの長期休館に入りました。休館期間中も、資料収集・保存、調査研究、館外での催し物開催や出張講座などの学習支援、WEB サイト・SNS による情報発信などを継続して実施しています。

令和 6 年 4 月から 12 月までの展示活動としては、常設展の他に特別展を 3 回、コレクション展を 2 回開催しました。

特別展「近代輸出漆器のダイナミズム」では、近代横浜とかかわりの深い輸出用漆器に着目し、国内有数の個人工芸品コレクションにより小箱やアルバムから飾り棚などの大型家具までの作品を展示し、その全貌とダイナミックな魅力を伝えました。

特別展「かながわへのまなざし」は、幕末・明治初期に来日した西洋人が当時のかながわをどのように見て、伝えたのか、絵画や旅行記から辿る企画で、ペリー来航に関わる横浜上陸など 6 つの場面の石版画を特別展担当者ほか 2 人の研究者が異なる視点で解説しました。

特別展「仮面絢爛」は、仮面の造形的な特徴や面白さを紹介するだけでなく仮面をかぶって行う音楽儀礼が鎌倉御家人を通じて全国に伝播していく過程や、権力と文化の関わりまで見通した展示でした。

コレクション展「おひろめ！」は、博物館活動の重要な役割の一つである資料の収集活動への理解を促す企画で、当館が近年収集した各分野の資料を収集理由とともに一堂に展示しました。

コレクション展「横浜正金銀行」では、横浜国立大学の建築系の大学院生と協働し、竣工 120 年を迎えた当館建物の魅力と当時そこで働く行員たちの姿をわかりやすく展示しました。

各学芸員は専門分野の調査研究活動を着実に進め、その成果を展示に反映させるとともに「神奈川県立博物館研究報告—人文科学—」をはじめとした様々な媒体により発表しました。

また、学習支援活動では、特別展にあわせた講演会や参加体験型行事、展示解説、学芸員が学校へ出向く出張講座や学校団体の展示見学受入などを実施し、生涯学習の機会を提供しました。併せて、収蔵資料情報を検索・閲覧できるよう「神奈川県立歴史博物館デジタルアーカイブ」を公開しています。加えて、ミュージアムライブラリーでは、図書の閲覧やきめ細やかなレファレンスサービスによる情報提供を行いました。

さらに、当館の運営に不可欠なボランティアの方々には多大な協力をいただき展示解説や行事補助活動に取り組んでいただきました。

当館は、地域における社会教育と文化振興を担う施設として、今後も皆様に必要とされる存在であり続けるよう、その価値と魅力を分かち合える博物館活動に努めてまいります。

神奈川県立歴史博物館

目 次

はじめに

1 沿革・理念

- (1) 沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (2) 神奈川県立歴史博物館の理念・・・・ 4
- (3) 神奈川県立歴史博物館の運営方針・・ 5
- (4) 神奈川県立歴史博物館の今後の取組
・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

2 管理運営

- (1) 組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - ア 組織及び分掌
 - イ 職員名簿
- (2) 歳入・歳出・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - ア 歳入
 - イ 歳出
- (3) 入館者状況・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - ア 入館者数
 - イ 有料入館者内訳
 - ウ 無料入館者内訳
 - エ 特別展の入館者状況
- (4) 広報・・・・・・・・・・・・・・ 10
 - ア 広報実績
 - イ ホームページアクセス件数
 - ウ SNS 投稿数・フォロワー数
- (5) 事業評価・・・・・・・・・・・・・・ 11
- (6) 施設概要・・・・・・・・・・・・・・ 11
 - ア 概要
 - イ 館内施設
 - ウ 館外施設
 - エ 外部協力
 - オ 平面図

3 調査・研究

- (1) 館独自の研究事業費によるもの・・ 15
 - ア 総合研究
 - イ 連携研究
 - ウ 個別研究
 - エ 調査研究成果報告会
- (2) 日本学術振興会科学研究費助成事業
によるもの・・・・・・・・・・・・・・ 20
- (3) その他外部研究資金によるもの・・ 23
- (4) 個人研究活動・・・・・・・・・・・・ 23
 - ア 研究報告書
 - イ 個人研究活動

4 資料収集・修理・保管・利用

- (1) 考古資料・・・・・・・・・・・・・・ 37
- (2) 歴史資料・・・・・・・・・・・・・・ 38
- (3) 美術資料・・・・・・・・・・・・・・ 41
- (4) 民俗資料・・・・・・・・・・・・・・ 51
- (5) 写真資料・・・・・・・・・・・・・・ 52
- (6) 資料の燻蒸等・・・・・・・・・・・・ 52
- (7) その他資料の利用・・・・・・・・・・ 52
 - ア 図書
 - イ 写真
 - ウ 情報システム

5 展示・教育普及・学習支援・他機関との連携

- (1) 総合テーマ展示(常設展)・・・・・・・・ 56
 - (2) 特別展・・・・・・・・・・・・・・ 57
 - (3) コレクション展・・・・・・・・・・・・ 66
 - (4) その他の展示・・・・・・・・・・・・ 68
 - (5) 教育普及・学習支援事業・・・・・・・・ 69
 - ア 県立社会教育施設公開講座
 - イ 特別展等関連行事
 - ウ 学芸員による展示解説
 - エ ミュージアムトーク「今月の逸品」
 - オ その他の行事
 - カ 子ども・青少年向け教育普及事業
 - キ 学校連携事業の状況
 - (6) ミュージアムライブラリー・・・・・・・・ 83
 - (7) 普及印刷物・・・・・・・・・・・・・・ 84
 - ア 図録
 - イ 広報印刷物
 - ウ 神奈川県立歴史博物館だより
 - (8) ボランティアの活動・・・・・・・・・・ 84
 - ア 活動状況及び実績
 - イ 専門研修
 - ウ その他の研修
 - (9) 博物館実習生の受入れ・・・・・・・・ 86
 - ア 見学実習
 - イ 実務実習
 - (10) 他機関との連携・・・・・・・・・・・・ 87
- #### 6 資料
- (1) 条例・規則・・・・・・・・・・・・・・ 88
 - ア 神奈川県立の博物館条例
 - イ 神奈川県立の博物館組織規則
 - ウ 神奈川県立の博物館の利用等に関する
規則
 - (2) 利用案内・・・・・・・・・・・・・・ 92

1 沿革・理念

(1) 沿革

- 昭和 38 年 6 月 神奈川県教育庁に博物館準備事務室を設置
- 昭和 41 年 11 月 神奈川県立博物館条例の制定により、神奈川県立博物館を設置
神奈川県立博物館組織規則の制定により、庶務部、学芸部の 2 部を置く
- 昭和 42 年 3 月 神奈川県立博物館開館（20 日）
- 4 月 附属機関の設置に関する条例の一部改正により、神奈川県博物館協議会を設置
（委員 20 名）
- 6 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、庶務部に庶務課、経理課の 2 課を
置く
- 昭和 43 年 4 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部に学芸課、人文課、自然課の
3 課を置く
- 5 月 登録博物館に認可（1 日）
- 昭和 44 年 3 月 旧館である旧横浜正金銀行本店が国の重要文化財に指定される
- 7 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、庶務部を管理部に、庶務課を管理課
に名称変更
- 昭和 47 年 8 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部の各課の名称を廃し、企画調
整課、学芸第一課、学芸第二課及び学芸第三課の 4 課を置く
- 昭和 49 年 8 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、管理部に施設保全課を置く
- 昭和 52 年 5 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部の各課を廃止
- 昭和 53 年 9 月 文部省学術研究機関の指定を受ける
- 昭和 55 年 2 月 入館者数 100 万人達成
- 昭和 62 年 4 月 第 2 次新神奈川計画の重点政策「文化施設 21 世紀構想」の一環として、博物館再
編整備事業策定
- 昭和 63 年 12 月 神奈川県立博物館整備構想懇談会が「神奈川県立博物館整備構想に関する提言－
自然系博物館・人文系博物館の基本的な考え方－」を提出
- 平成 2 年 3 月 人文系博物館の整備計画・展示計画策定
- 平成 3 年 3 月 博物館総合情報システム整備計画、資料収集計画を策定
- 平成 4 年 3 月 展示基本設計
- 平成 5 年 3 月 改修工事基本・実施設計、展示工事実施設計
- 4 月 県立博物館休館（～7 年 3 月）
- 10 月 改修工事及び展示工事開始
- 平成 6 年 11 月 改修工事終了
- 平成 7 年 1 月 神奈川県立博物館条例改正に伴い、「神奈川県立博物館」は「神奈川県立歴史博物
館」と名称変更、神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、企画情報部に企画
普及課及び情報資料課の 1 部 2 課を置き、管理部の施設保全課を廃止
- 3 月 展示工事終了、博物館情報システムの一部稼働開始
神奈川県立歴史博物館開館（18 日）
- 6 月 国の史跡に指定される
- 平成 9 年 7 月 博物館ボランティアが活動を開始
- 平成 11 年 2 月 金銅装笈・椿彫木朱漆笈・清拙正澄墨跡・石室善玖墨跡・源頼朝袖判下文・源頼家
袖判下文が県の重要文化財に指定される
神奈川の職人の道具（17 職種 1,982 点）が県の有形民俗文化財に指定される

- 4 月 重要文化財の公開承認施設として文化庁から承認される（現在まで更新中）
- 平成 13 年 1 月 三浦市間口洞窟遺跡出土品（450 点）が県の重要文化財に指定される
- 3 月 附属機関の設置に関する条例の一部改正により、神奈川県博物館協議会を廃止
- 平成 18 年 4 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、管理部管理課と経理課を統合し管理課に改め、企画情報部企画普及課、情報資料課及び学芸部の 2 部 3 課となる
- 平成 19 年 11 月 旧館である旧横浜正金銀行本店が、経済産業省により近代化産業遺産（横浜港周辺の関連建築物群）に認定される
- 平成 21 年 8 月 入館者数 200 万人達成
- 平成 28 年 6 月 空調設備等改修工事のため休館（～平成 30 年 4 月）
- 9 月 事務室を（宇徳ビル 6 階に）移転
- 10 月 空調設備等改修工事開始
- 平成 29 年 12 月 空調設備等改修工事終了
- 平成 30 年 4 月 空調設備等改修工事終了に伴い、博物館業務を再開
- 令和 6 年 2 月 改正博物館法第 14 条の規定に基づき、博物館登録（6 日）
- 3 月 五姓田義松作品（五姓田義松旧蔵作品群を含む）（72 点）が県の重要文化財に指定される
- 令和 7 年 1 月 設備改修工事のため休館（～令和 8 年 9 月（予定））

(2) 神奈川県立歴史博物館の理念

神奈川県立歴史博物館の前身は昭和 42 年開館の神奈川県立博物館である。昭和 62 年から自然系と人文系が分離分館する再編整備の検討が行われ、平成 7 年のリニューアル開館に至るまで、3 回にわたって博物館活動の理念やテーマが検討・提案された。

ア 検討・提案の経緯

- (ア) 昭和 63 年 12 月、神奈川県立博物館整備構想懇談会から提出された「神奈川県立博物館整備構想に関する提言―自然系博物館・人文系博物館の基本的な考え方―」（以下「提言」という。）
- (イ) 平成 2 年 3 月に策定された「神奈川県立人文系博物館（仮称）整備計画」（以下「整備計画」という。）
- (ウ) 平成 7 年 3 月の再編整備時に作られた「神奈川県立歴史博物館概要説明」（以下「概要」という。）

イ 活動理念・テーマ

- (ア) 「提言」における活動理念・テーマ

a 人文系博物館の「意義」（「提言」を要約、抜粋）

- (a) 文化の視点からの未来の探求
- (b) 考古、歴史、美術、民俗等を統合化した新しい文化史の創造
- (c) 歴史的、文化的特色による神奈川のアイデンティティーの探求
- (d) 振幅の大きな神奈川の歴史にみる人々の生き方の探求
- (e) 神奈川の文化と内外の文化との交流や相互関係の探求
- (f) 文化史的意義のある資料の集積と後世への継承

b 「基本テーマ」等の設定

- (a) 基本テーマ：「文化の交流と変容」

上記の意義を踏まえ、また、神奈川の文化と歴史を専門的かつ学際的な観点から総合的にとらえる唯一の博物館として活動していくため、基本テーマが設定された。

- (b) サブテーマ：「神奈川の文化と歴史を考える」「日本・世界の神奈川を考える」

空間的、時間的な広がりのある視点や、先人から受け継がれた地域の固有性をとらえる視点に
立って2つのサブテーマが設定された。

(c) 展開の視点

これらの基本テーマ、サブテーマを、展示をはじめとした様々な博物館活動に反映させるため、次のような展開の視点が設けられた。

〔継 承〕 各時代の文化と時代を超えて継承される文化を歴史の流れの中でとらえる

〔交 流〕 他の国や他の地域との文化交流を空間的、時間的広がりの中でとらえる

〔変 容〕 文化の変容をダイナミックにとらえる

〔風 土〕 文化の特色を地域風土を通してとらえる

(イ) 「整備計画」における活動理念・テーマ

上記「提言」を受け、平成2年に「整備計画」が策定され、再編整備の具体的な内容がまとめられたが、「提言」における博物館の意義、性格、基本テーマなどは、歴史博物館のあるべき姿を示す目標・指針として継承されることとなった。

(ウ) 「概要」における活動理念・テーマ

平成7年のリニューアル開館に際して作成された「概要」では、当館を「かながわの文化と歴史」を総合的に扱う博物館と位置付けて博物館活動の基本テーマとし、展示テーマを「文化の交流と変容」とすることが示された。

(3) 神奈川県立歴史博物館の運営方針（令和5年12月策定）

神奈川県立歴史博物館は、自然科学及び人文科学に関する総合博物館であった県立博物館（1967年（昭和42年）3月開館）を前身とし、1995年（平成7年）3月に人文系の博物館として再編整備し開館した。かながわの文化と歴史を通史的・総合的に扱う唯一の博物館として、かながわの先史・古代から現代に至るまでの歴史・美術・考古・民俗に関する貴重な資料を収集し、適切に保存・活用して未来へつなぐとともに、専門性を発揮した調査研究活動を着実に進め、当館の特色を生かした魅力ある展示や講座などによりその成果を公開し、県民の生涯にわたる学びを支援していく。

また、すべての人びとに開かれた社会教育施設として、資料の価値やそれに関わる人の活動などの情報が広く共有されるよう、公開と発信に取り組むとともに、開館以来蓄積してきた活動や資源を基盤として、他博物館や関係機関、地域のさまざまな団体等と相互に連携して地域の活力の向上に取り組み、多様化・高度化する博物館の役割を果たしていく。

こうした活動の基盤として、1904年（明治37年）に竣工した歴史的建造物である当館建物（国指定重要文化財「旧横浜正金銀行本店本館」）を適切に保存・活用し未来へ継承することはもとより、運営を支える人材の確保・育成と財源の確保に努め、持続可能な博物館活動に取り組んでいく。

(4) 神奈川県立歴史博物館の今後の取組（令和6年3月策定）

ア 期間 令和6年度から令和10年度の5年間

イ 使命

神奈川の文化及び歴史に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。また、博物館や学校をはじめ多様な主体の団体と相互に連携を図りながら協力し、地域の活力の向上に取り組むこと。

ウ 目標

使命を実現するため、設定した取組項目に取り組み、計画期間の令和10年度には、「神奈川の歴史と文化」を通史的・総合的に扱う唯一の博物館として、県民や利用者が「かながわ」への理解を深め、「かながわ」に魅力を感じ、「かながわ」の新たな価値を見出すことができる博物館活動を積極的に進めていくことを目指していく。

エ 取組項目

文化審議会答申「博物館法制度の今後の在り方について」で示された役割・機能を柱として設定

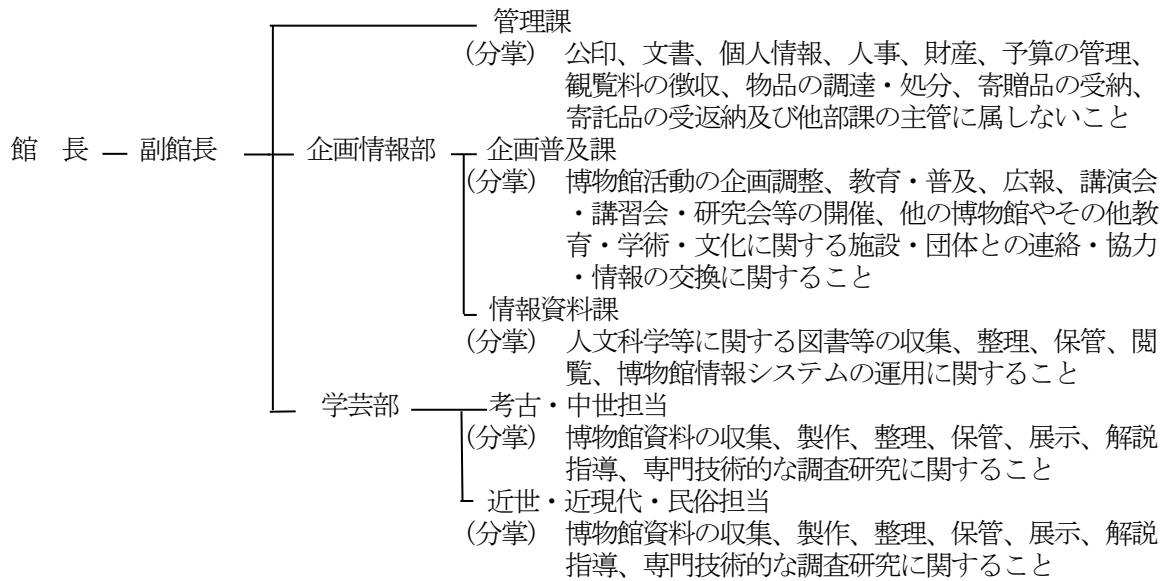
- (ア) 資料の収集・保管・蓄積と文化の継承（守り、受け継ぐ）
- (イ) 資料の展示、情報の発信と文化の共有（わかちあう）
- (ウ) 多世代への学びの提供（育む）
- (エ) 社会や地域の課題への対応（つなぐ、向き合う）
- (オ) 専門的人材の確保、持続可能な活動と経営の改善向上（営む）
- (カ) その他 利用の促進

2 管理運営

(1) 組織

(令和6年4月1日現在)

ア 組織及び分掌



イ 職員名簿

館長	望月 一樹	非常勤資料整理員	梶谷 陽子
副館長兼管理課長	星 孝樹	非常勤事務補助員	三瓶 裕子
管理課 副主幹	秋元 潤子	非常勤事務補助員	神津 由紀子
主査	大貫 宗大	非常勤事務補助員	鈴木 智枝
主任主事	佐藤 由梨江	非常勤図書整理員	深野 亜希子
主事	大塔 桃子	非常勤図書整理員	島 晴美
臨時主事	石井 亜砂	非常勤図書整理員	森 由紀
非常勤事務補助員	竹内 廣一	学芸部長	丹治 雄一
非常勤事務補助員	西村 純子	非常勤事務補助員	新井 実
非常勤事務補助員	森 久利子	非常勤事務補助員	杉山 誠
非常勤事務補助員	佐々木 誠	非常勤資料整理員	吉澤 智恵子
非常勤自動車運転員	大塚 清志	非常勤資料整理員	椎橋 郁実
企画情報部長	荒 裕絵	(考古・中世担当)	
企画普及課長	桑山 童奈	主任学芸員	神野 祐太
企画普及課 主任主事	廣瀬 啓	学芸員	橋本 遼太
主事	久保田 亜紀	学芸員	渡邊 浩貴
学芸員 (兼務)	鈴木 愛乃	学芸員	梯 弘人
主事 (専門員)	若杉 恵子	学芸員	鈴木 愛乃
非常勤博物館学習指導員	柳原 正広	学芸員	佐藤 兼理
非常勤事務補助員	松井 礼子	臨時学芸員	樋口 美咲
非常勤事務補助員	野島 愛子	(近世・近現代・民俗担当)	
非常勤資料整理員	渡邊 実華子	主任学芸員	嶋村 元宏
非常勤学芸員	市野 悦子	主任学芸員	角田 拓朗
非常勤学芸員	大柳 麻美	主任学芸員	新井 裕美
非常勤学芸員	金子 あゆみ	学芸員	武田 周一郎
情報資料課長	高橋 裕子	学芸員	寺西 明子
情報資料課 主事	臼井 裕太郎	非常勤学芸員	根本 佐智子
主任専門員	小松 晶子	非常勤学芸員	三浦 麻緒
業務専門員	能勢 悦子	非常勤学芸員	山口 希
非常勤司書	鈴木 隆雄	非常勤学芸員	山下 春菜
非常勤写真職	荒井 孝則	非常勤学芸員	小川 咲良
非常勤資料整理員	檜皮 千穂		

(2) 歳入・歳出

ア 歳入

(単位：千円)

科 目	金 額	内 訳
教育使用料	17,670	観覧料収入、目的外使用許可使用料
教育費国庫補助金	2,385	国庫補助金
芸術文化振興基金助成金	3,000	芸術文化振興基金助成金
財産貸付収入	3	著作権料
公有財産売却収入	370	ぐるっとパス精算金
教育事業収入	3,840	図録販売収入
教育受講料収入	116	県立社会教育施設公開講座受講料
教育立替収入	444	ミュージアム・ショップ、喫茶等の光熱水費
雑入	205	複写代、授業目的公衆送信補償金
合 計	28,033	

イ 歳出(人件費含まず)

(単位：千円)

事 業 名	金 額	内 訳
教育施設維持修繕費	1,215	施設・設備の修繕
県立社会教育施設公開講座事業費	135	講座の開催
維持運営費	93,066	維持管理(電気、ガソリン代を除く)・事業運営
博物館事業費	31,861	展示事業、調査研究、資料整備、学習支援等
情報システム整備費	51,684	システム運用、データ入力等
合 計	177,961	

(3) 入館者状況

ア 入館者数

(単位：名)

月	展示室入館者			フリーゾーン 利用者	合 計
	有料入館者	無料入館者	小 計		
4	4,128	1,308	5,436	2,997	8,433
5	6,528	3,414	9,942	4,752	14,694
6	8,513	4,475	12,988	2,208	15,196
7	3,454	1,440	4,894	3,611	8,505
8	7,515	1,825	9,340	2,794	12,134
9	6,673	2,390	9,063	1,956	11,019
10	4,400	2,474	6,874	2,960	9,834
11	6,234	12,820	19,054	2,960	22,014
12	3,812	2,203	6,015	3,869	9,884
1					
2			休館		
3					
合計	51,257	32,349	83,606	28,107	111,713

イ 有料入館者内訳

(単位：名)

月	個人				団体(団体扱い含む)				合計
	20歳以上	20歳未満	高校生	65歳以上	20歳以上	20歳未満	高校生	65歳以上	
4	2,046	138	270	1,058	491	24	0	101	4,128
5	2,171	279	663	1,357	1,243	116	0	699	6,528
6	2,570	331	166	2,442	1,540	234	0	1,230	8,513
7	2,144	222	98	639	326	25	0	0	3,454
8	3,252	294	307	1,075	1,966	131	0	490	7,515
9	2,594	310	106	1,199	1,656	170	0	638	6,673
10	1,943	166	99	1,058	709	46	0	379	4,400
11	2,295	209	135	1,426	1,471	116	0	582	6,234
12	1,799	246	96	842	607	47	0	175	3,812
1									
2									
3									
合計	20,814	2,195	1,940	11,096	10,009	909	0	4,294	51,257

ウ 無料入館者内訳

(単位：名)

月	条例別表備考欄指定の無料入館者				減免による無料入館者							合計
	未就学 幼児	小学生	中学生	特別 支援 学校	高校生	生徒 引率 者	優待券	招待券	障が い者	ぐるっ とパス 入場券	その 他	
4	35	251	229	6	90	14	9	152	160	91	271	1,308
5	14	118	1,290	0	268	40	19	906	230	226	303	3,414
6	37	481	701	42	447	67	11	1,938	255	286	210	4,475
7	37	620	313	0	20	45	5	67	116	101	116	1,440
8	80	389	314	0	4	5	11	299	221	160	342	1,825
9	81	298	584	0	79	14	16	755	236	134	193	2,390
10	30	741	498	0	245	72	9	469	148	106	156	2,474
11	25	1,508	1,272	0	31	142	16	9,089	267	198	272	12,820
12	40	460	616	0	13	28	24	614	141	173	94	2,203
1												
2												
3												
合計	379	4,866	5,817	48	1,197	427	120	14,289	1,774	1,475	1,957	32,349

※招待券—11月は無料観覧日入館者を含む。

エ 特別展の入館者状況(前掲表内数)

(単位：名)

特 別 展 名	有料入館者	無料入館者	合 計
近代輸出漆器のダイナミズム	7,175	7,577	14,752
かながわへのまなざし	6,135	4,103	10,238
仮面絢爛	4,287	9,970	14,257
合 計	17,597	21,650	39,247

(4) 広報

特別展・コレクション展の開催、常設展示の展示替えや講演会・体験参加型行事などの学習支援活動などを広く周知し、来館・参加を呼びかけ、当館の認知度向上を図るべく広報活動を実施した。

ア 広報実績

令和6年度の広報実績は次のとおり(館のPR、特別展・テーマ展、催しもの等)。

(単位：件)

媒体別	紙媒体				電波媒体		インター ネット	計
	新聞	雑誌	単行書	その他	テレビ	ラジオ		
件数	57	27	1	8	7	2	127	229

イ ホームページアクセス件数

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
HP	291,817	653,533	1,698,348	341,026	350,264	386,492	343,297	400,000	290,377	257,307	378,548	311,713	5,702,722

参考 (内数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
デジタル ミュージアム	1,094	1,377	1,122	1,189	1,275	1,234	1,177	1,224	4,012	918	870	809	16,301
デジタル アーカイブ	5,553	10,775	9,601	7,926	12,723	11,241	8,998	8,481	6,349	11,214	5,559	4,411	102,831
おうちでか ながわけん ぱく	3,906	3,687	3,653	4,523	5,207	5,043	5,192	5,180	4,506	5,387	5,221	4,808	56,313

ウ SNS 投稿数・フォロワー数

(ア) X (旧 Twitter) 投稿数・フォロワー数

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
投稿数	29	29	33	27	34	30	33	29	30	20	19	12	325
フォロワー数	12,635	12,710	12,760	12,808	12,878	13,040	13,133	13,202	13,274	13,281	13,336	13,353	-

(イ) Instagram 投稿数・フォロワー数

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
投稿数	6	8	16	6	12	8	10	6	10	8	2	5	97
フォロワー数	78	112	135	141	149	155	168	181	194	220	243	266	-

(5) 事業評価

平成 30 年度から、県立社会教育施設 6 館（県立図書館、県立川崎図書館、金沢文庫、近代美術館、生命の星・地球博物館、当館）において、事業評価を実施することとし、全館共通の評価項目による「社会教育施設評価書（目標設定・実施結果）」（以下、全館共通評価）による事業評価を毎年実施し、館のホームページで公開している。また、令和元年度からは、全館共通評価に加えて、「神奈川県立歴史博物館評価書（社会教育施設個別評価）」（個別評価）を作成し、当館が独自に設定した評価指標による「神奈川県立歴史博物館評価書（社会教育施設個別評価）」による事業評価を毎年実施している。

令和 6 年度における事業評価の概要は次のとおりである。

- ・全館共通項目の評価結果

評価項目 18 項目中、達成（目標値以上）は、16 項目

- ・個別評価項目の評価結果

評価項目 34 項目中、達成（定量：目標値以上、定性：チェックリストクリア 90%以上）は、29 項目

(6) 施設概要

ア 概要

(ア) 施設の規模

敷地面積	4,160.82 m ²
構造	石・煉瓦造り（一部鉄骨鉄筋コンクリート造り）地上 3 階・地下 1 階
延床面積	10,565.47 m ²
部門別面積	展示部門＝約 3,896 m ² 、学習支援部門＝約 386 m ² 、収蔵部門＝約 619 m ² 研究部門＝約 1,306 m ² 、サービス部門＝約 438 m ² 、管理部門＝約 1,251 m ² その他共用部分＝約 2,670 m ²

(イ) 建物の特徴

旧館部分	旧横浜正金銀行本店本館(明治 37 年(1904)竣工、設計：妻木頼黄) ネオ・バロック様式
新館部分	神奈川県立博物館として新築(昭和 42 年(1967))
指定状況	国指定重要文化財(建物旧館部分・昭和 44 年(1969)3 月 12 日指定) 国指定史跡(平成 7 年(1995)6 月 27 日指定)

(ウ) 施設の状況

1 階：【展示室、学習支援関係諸室】

特別展示室、コレクション展示室、
ミュージアムライブラリー、ミュージアムショップ、喫茶室、情報処理室等

2 階：【展示室、管理課・企画情報部関係諸室】

総合テーマ展示室(テーマ 3、4、5〔近世、近代、現代・民俗〕)
館長室、管理課、企画情報部、応接室、図書整理室、書庫 等

3 階：【展示室、学芸部関係諸室】

総合テーマ展示室(テーマ 1、2〔古代、中世〕)
学芸部、資料整理室、保存修復処置室/印刷室、作業室 等

地下 1 階：【講堂、バックヤード諸設備】

講堂、写場、写真整理室、その他機械室 等

イ 館内施設

1 階のフリーゾーンには来館者のために次の施設がある。

(ア) ミュージアムショップ

当館の刊行物(展示解説書、特別展図録)をはじめ、神奈川の文化や歴史に関する書籍、所蔵資料の絵はがき、博物館見学の記念になるような品々を販売する。運営は民間の企業が行っている。

(イ) 喫茶室（喫茶ともしび）

来館者に休憩してもらえるように喫茶室がある。喫茶の他、軽食を提供し、店内には県内の福祉施設で作られた品々も販売されている。運営は「社会福祉法人 県央福祉会」が行い、障がい者の就業の場ともなっている。

(ウ) ミュージアムライブラリー

県民の学習活動を支援する場として設置している。図書、情報システム端末（デジタルミュージアム・蔵書検索・デジタルアーカイブ用）などがあり、展示を中心とした神奈川の歴史や文化について学ぶことが出来る。

ウ 館外施設

昭和 42 年(1967)の開館以来継続的に収集してきた資料により、館内の収蔵庫の狹隘化が進行してきたため、現在、神奈川県教育委員会教育局生涯学習部文化遺産課が所管する「文化遺産課収蔵センター」（旧神奈川県立野庭高等学校校舎）の一角を「野庭収蔵庫」（旧体育館、面積 3,100.84 m²）として占有し、民俗資料等の一部を収蔵している。

エ 外部協力

神奈川県立歴史博物館には、県内の博物館の質的向上や文化財に対する普及啓発を行う次の外部団体の事務局が設置されている。

(ア) 神奈川県文化財協会

昭和 29 年(1954)から活動している任意団体である。現在は会員に対しての講演会、見学会など文化財に関する知識の啓発活動を中心に活動している。協会員数 187 人(令和 6 年 4 月 1 日現在)。

事務局長	副館長	星 孝樹
事務局次長	学芸部長	丹治 雄一
事務局員	企画普及課長	桑山 童奈
〃	学芸員	梯 弘人
〃	学芸員	鈴木 愛乃
〃	主任主事	佐藤 由梨江
〃	非常勤事務補助員	新井 実

(イ) 神奈川県博物館協会

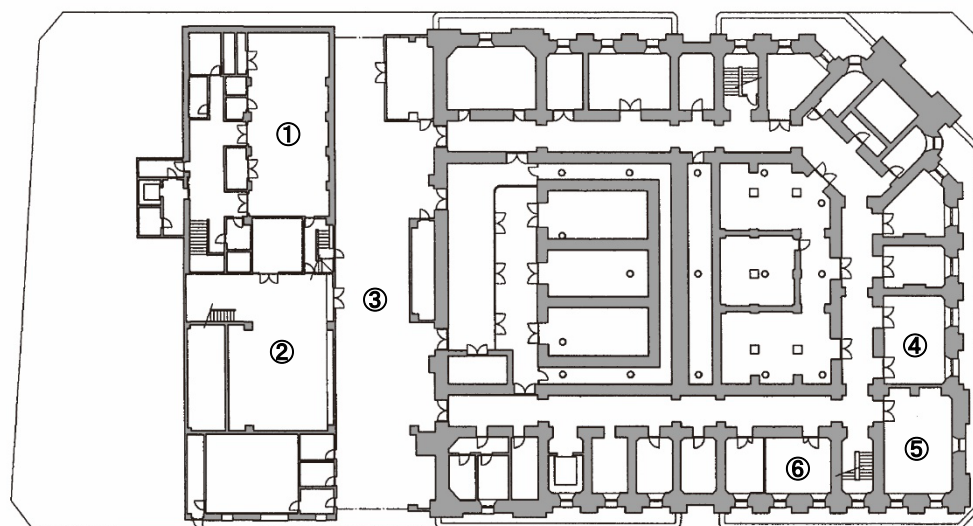
昭和 30 年(1955)から活動している県内博物館施設の任意団体で、博物館の PR、職員の研修、会報の発行など各種活動を行っている。加盟館園数 100 館(令和 6 年 4 月 1 日現在)。

会長	館長	望月 一樹
事務局長	副館長	星 孝樹
事務局次長	学芸部長	丹治 雄一
機能研究部会幹事	学芸員	武田 周一郎
事務局員	主任専門員	竹内 廣一
〃	非常勤事務補助員	杉山 誠

オ 平面図

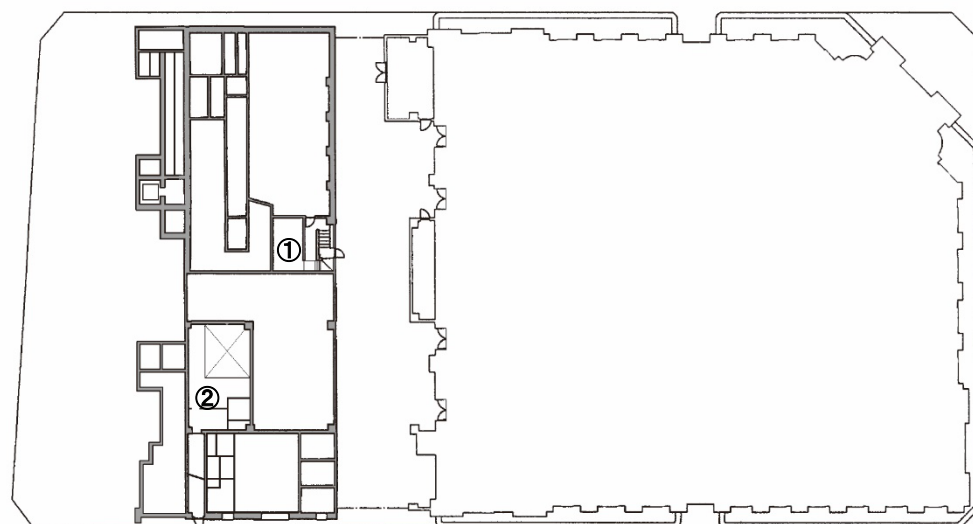
地階

- ①講堂
- ②空調機械室
- ③サービスヤード
- ④展示準備室
- ⑤写場
- ⑥写真整理室



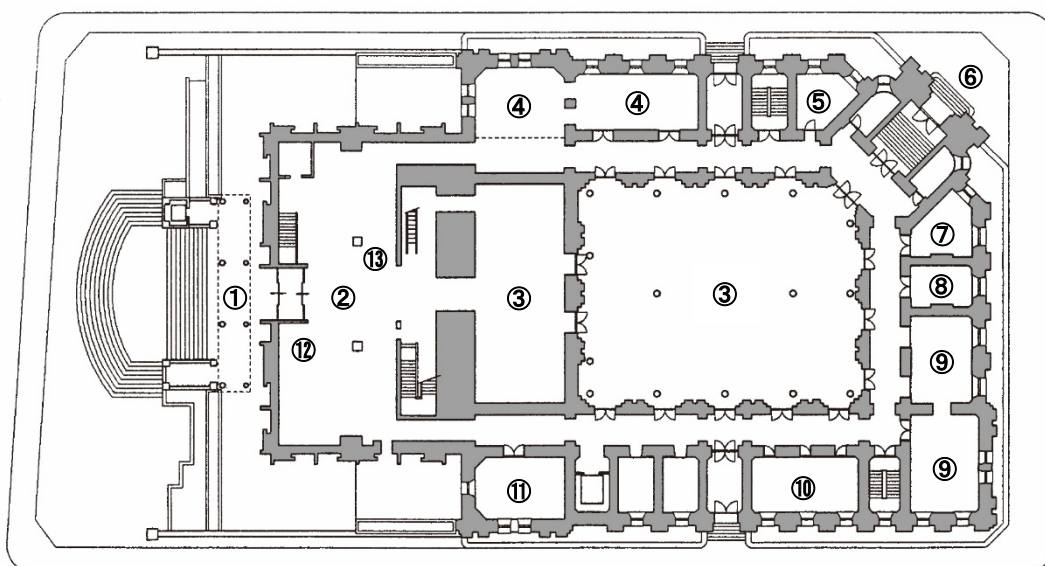
中1階

- ①映写室
- ②中央監視室



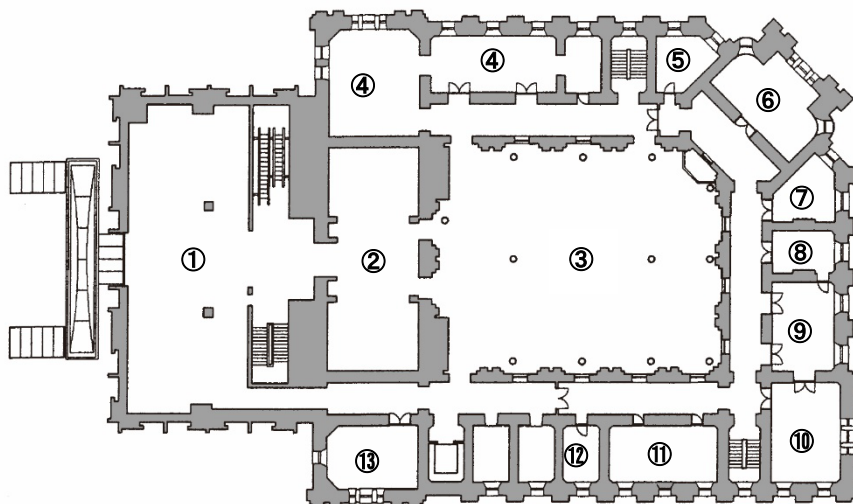
1階

- ①正面玄関
- ②エントランスホール
- ③特別展示室
- ④コレクション展示室
- ⑤ボランティアルーム
- ⑥馬車道玄関
- ⑦情報処理室
- ⑧書庫
- ⑨ミュージアム
ライブラリー
- ⑩会議室
- ⑪喫茶室
- ⑫ミュージアム
ショップ
- ⑬総合受付



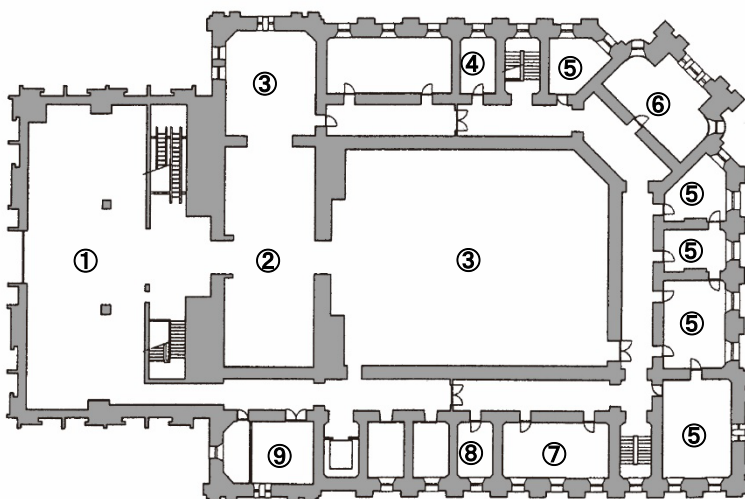
2階

- ①総合テーマ展示室 テーマ3
- ②総合テーマ展示室 テーマ4
- ③総合テーマ展示室 テーマ4/5
- ④総合テーマ展示室 テーマ5
- ⑤図書整理室
- ⑥書庫
- ⑦電話交換室
- ⑧館長室
- ⑨応接室
- ⑩管理課室
- ⑪企画情報部室
- ⑫第2 応接室
- ⑬空調機械室



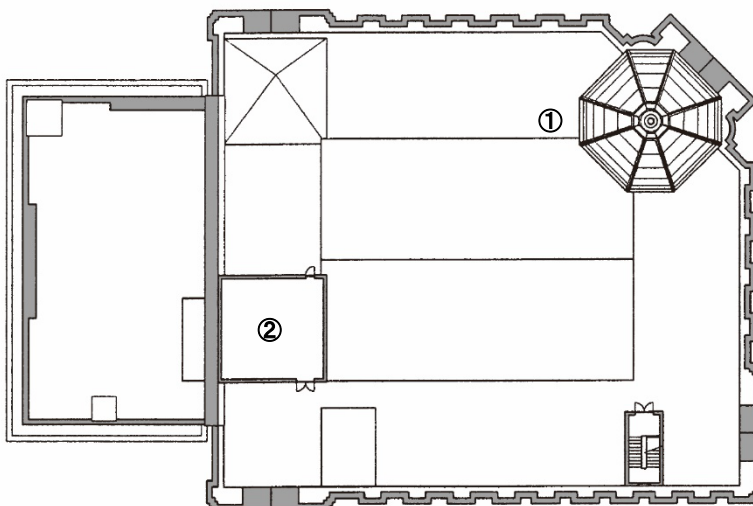
3階

- ①総合テーマ展示室 テーマ1
- ②総合テーマ展示室 テーマ1/2
- ③総合テーマ展示室 テーマ2
- ④畳敷作業室
- ⑤資料整理室
- ⑥保存修復処置室／印刷室
- ⑦学芸部室
- ⑧共同作業室
- ⑨空調機械室



屋上

- ①ドーム
- ②空調機械室



3 調査・研究

(1) 館独自の研究事業費によるもの

ア 総合研究

(ア) 研究課題：箱根・伊豆・三島文化圏と鎌倉幕府成立の学際的研究

—箱根山麓・狩野川流域をめぐる文化交流と東国武士本拠を事例に—

研究代表者：学芸員 渡邊 浩貴

研究分担者：伊豆の国市教育委員会 池谷 初恵 氏、愛川町郷土資料館 岩田 慎平 氏、藤沢市教育委員会 宇都 洋平 氏、鎌倉市教育委員会 押木 弘己 氏、沼津市教育委員会 木村 聡 氏、かながわ考古学財団 高橋 香 氏、鎌倉考古学研究所 松吉 大樹 氏、株式会社博通 松吉 里永子 氏

研究期間：令和6～8年度

概要：狩野川下流域に立地する駿河国八条院領大岡牧（荘）および同国香貫郷は、源頼朝の挙兵に際して重要な軍事基盤となった地域である。当該地には、大岡牧（荘）に北条氏と血縁関係にある牧一族が拠点を置き、香貫郷には頼朝亡父義朝の股肱の臣である鎌田正清の拠点も存在しており、これらの地域基盤の実相を明らかにする作業は畢竟、鎌倉幕府成立・形成を支えた地域諸勢力の解明へと結実しよう。本年度では、天神洞遺跡（香貫山麓）出土の尾張産瓦を含む中世瓦の整理・分類・検討を実施し、また大岡牧（荘）の景観を復原すべく、水利灌漑調査を実施した。関連する研究成果として渡邊浩貴「初期鎌倉幕府の文化源流としての伊豆・駿東地域—伊豆狩野氏の拠点とその周辺から—」（貴田潔・湯浅治久編『東海道中世史研究1 諸国往反の社会史』高志書院、2024年10月）がある。

(イ) 研究課題：南足柄市における矢倉沢往還関連資料の基礎的研究—田代家文書を中心として—

研究代表者：学芸員 寺西 明子

研究分担者：非常勤学芸員 根本 佐智子、南足柄市郷土資料館非常勤職員 飯岡 葉子 氏

研究期間：令和5～9年度

(ウ) 研究課題：博学協働による博物館資料の教材化

研究代表者：学芸部長 丹治 雄一

研究分担者：主任学芸員 嶋村 元宏、学芸員 渡邊 浩貴、学芸員 梯 弘人、学芸員 寺西 明子、学芸員 佐藤 兼理、臨時学芸員 樋口 美咲、県立総合産業高校 高橋 俊介 氏、県立足柄高校 桐生 海正 氏、鎌倉学園高校 風間 洋 氏

研究協力者：企画普及課長 桑山 童奈、資料整理員 椎橋 郁実

※研究会はオープン形式とし、随時参加可能。

研究期間：令和6～8年度

概要：博物館資料について専門知識を有する学芸員と授業を実際に行う教員と、異なる立場から博物館資料を検討することで、実際に授業で利用可能な教材及び授業案を作成し、博学協働の実践的事例を蓄積することを目的としている。本年度は、各学芸員が担当する博物館資料を紹介し、それらの資料をいかに教員が教材化できるかという観点で議論した。

イ 連携研究

(ア) 研究課題：「かながわの浮世絵」の総合的研究—東海道揃物と江の島—

研究代表者：企画普及課長 桑山 童奈

研究分担者：学芸員 寺西 明子、非常勤学芸員 山口 希

研究期間：令和4～6年度

概要：東海道が通り、江戸近郊の名所として親しまれた神奈川県域（武蔵国の一部、相模国）は東京都（江戸）に次いで浮世絵に描かれた“県”である、という錦絵の出版状況を背景に、当館丹波コレクションを基礎として現在の神奈川県域が描かれた“浮世絵”を網羅するDBを構築することを目的とした。常設展示で定期的な展示を

行いながら、錦絵の基本データを収集した。今後も所蔵しない錦絵の情報を収集し、DBの構築を継続する。

- (イ) 研究課題：多摩川流域における水と人の生活文化史
研究代表者：学芸員 寺西 明子
研究分担者：主任学芸員 新井 裕美、学芸員 渡邊 浩貴、非常勤学芸員 根本 佐智子、
非常勤学芸員 三浦 麻緒
研究期間：令和4～7年度（2期目へ継続）

ウ 個別研究

- (ア) 研究課題：旧横浜正金銀行本店本館の保存と活用に関する調査研究
研究代表者：学芸部長 丹治 雄一
研究期間：令和5～6年度
- (イ) 研究課題：錦絵に描かれたかながわ
研究代表者：企画普及課長 桑山 童奈
研究期間：令和6～7年度
- (ウ) 研究課題：農耕開始期における住まいの研究 ～関東を中心に～
研究代表者：学芸員 佐藤 兼理
研究期間：令和6～7年度
- (エ) 研究課題：鎌倉幕府の文化形成と東山道・東海道地域の交流に関する歴史学的研究
研究代表者：学芸員 渡邊 浩貴
研究期間：令和5～8年度
- (オ) 研究課題：戦国大名北条氏による五山寺院に対する祈祷依頼の位置づけについて
研究代表者：学芸員 梯 弘人
研究期間：令和5～6年度
- (カ) 研究課題：足柄地方の毘沙門天像に関する基礎的研究
研究代表者：主任学芸員 神野 祐太
研究期間：令和5～6年度
- (キ) 研究課題：近代横浜における洋家具制作の基礎的研究
研究代表者：学芸員 鈴木 愛乃
研究期間：令和6～8年度
- (ク) 研究課題：近世兵学における「相州鎌倉之図」
研究代表者：学芸員 寺西 明子
研究期間：令和5～6年度
- (ケ) 研究課題：当館所蔵『浩然随筆』の基礎的研究
研究代表者：主任学芸員 嶋村 元宏
研究期間：令和4～7年度
- (コ) 研究課題：当館所蔵青木文庫の公開・活用に向けての基礎的研究
研究代表者：主任学芸員 角田 拓朗
研究期間：令和5～7年度

(サ) 研 究 課 題：横浜歴史 GIS の構築
研究代表者：学芸員 武田 周一郎
研 究 期 間：令和 6～8 年度

(シ) 研 究 課 題：神奈川県内の降雨祈願の山について
研究代表者：主任学芸員 新井 裕美
研 究 期 間：令和 6～8 年度

エ 調査研究成果報告会

開催日時：5 月 28 日（火）

内 容：総合研究および個別研究の成果などについて報告した。（令和 5 年度分）

《口頭報告》

(ア) 個別研究

a 発表者：学芸員 鈴木 愛乃

テーマ：近代輸出漆器の意匠について

概 要：近代に輸出された漆器の制作背景について、その意匠から検討を試みた。特に輸出品に特化した新興の産地である横浜の漆器に着目し、多くの実例から造形的な特徴を整理した上で、技法との関連から特徴的な表現が生まれた背景を考察した。また、異なる器種の漆器において同じ意匠の表現が散見され、そこに用いられる技法と素材が限定的であることを指摘し、分業による量産における効率化を確認した。

b 発表者：主任学芸員 新井 裕美

テーマ：多摩川流域の民俗―流域の開発・生業・治水・災害・信仰―

多摩川流域における雨乞い習俗について

概 要：多摩川流域の民俗として、流域の開発・生業・治水・災害・信仰など多彩な視点があるが、今回は多摩川流域の雨乞い習俗に着目し、各地の事例を収集して若干の分析を行った。

(イ) 新人報告

a 発表者：臨時学芸員 樋口 美咲

テーマ：コレクション研究 1―大勝金剛像の位置と価値―

概 要：本報告では仁和寺僧・恵什（1060～1145）の事績を整理し、東密系焰魔天曼荼羅の成立背景にその存在がうかがえることを指摘した。また当館所蔵大勝金剛像の図像の典拠が恵什撰『十卷鈔』に求められることから、小野流（狭義）のなかで制作された可能性を提示した。

(ロ) 自由論題

a 発表者：学芸員 佐藤 兼理

テーマ：弥生時代の水田稲作技術と生産性推定のための実験考古学的研究―横浜市舞岡公園の実践事例

概 要：横浜市舞岡公園で実施されている古代の水田実験の概要及び成果を報告する（研究代表者 東京都立大学 山田 昌久 氏）。本研究は弥生時代から古墳時代にかけての出土生産工具を復元して、従来具体的な水田開発可能地や生産量について数値提示ができていなかった部分を明らかにする。具体的には、水田を開墾し、田植の様子までの実践報告を行った。木製の工具を利用した場合、金属農耕具よりも利便性が認められる点があることを示した。

《紙上報告》

a 発表者：館長 望月 一樹

テーマ：在村知識人のネットワークについて―白牛飼育と白牛洞―

概 要：享保期に渡来した象が江戸で飼育された際、その尿と白牛散を合わせて疱瘡の薬が作られ

ている。これを製菓したのが菅生村の田沢源兵衛であり、また同じ橘樹郡大師河原村の名主で新田開発に従事した池上幸定は、幕府から白牛を下賜され飼育していたことが知られる。さらに多摩郡押立村名主で後に代官となる川崎平右衛門定孝も、享保 15 年に麻疹が流行した際、白牛洞の販売に関与している。彼らは、いずれも在村の有力者であり、相互にさまざまなネットワークの中で結ばれていた。当時将軍吉宗は薬種の拡大と普及といった医薬政策を積極的に行っており、その下で彼ら在村知識人も深く関与していたのではないかと推測される。そこで、まずは調査を進める中で蓄積してきた関連資料についてまとめた。

b 発表者：企画普及課長 桑山 童奈

テーマ：明治期の政府高官を描いた錦絵について—館外での調査結果から—

概要：これまで継続している明治期に政府高官の肖像を描いた錦絵の研究のために、令和 5 年は館外 2 箇所を対象となる作品調査をさせていただいた。ある作品は出版に際しての「御届」の年月を確認し、政府高官の似顔絵を描いた錦絵として最初期のものではないか、と推測できた。また別の例では紙のつなぎ方から貴顕の顔面につなぎ目とならないように敢えて手間のかかる紙のつなぎ方としたのではないかと推測できるなど、有意義な知見を得た。

c 発表者：主任学芸員 嶋村 元宏

テーマ：幕末における海外情報の入手実態—鍋島茂義の場合—

概要：「鎖国」政策をとる幕府においても、外国の動向を知るうえで『オランダ別段風説書』をはじめとする海外情報は重要なものであった。その海外情報の入手の実態を明らかにするため、佐賀藩武雄鍋島家・鍋島茂義が隠居して後書き残し始めた「長崎地控」と題された発注・納品記録を分析した。その結果、長崎地役人、オランダ通詞（通訳）など、出島への出入りが許されているものを通じて、本来幕府しか知りえないはずのアヘン戦争情報をはじめとした海外情報について入手していることを明らかにした。

d 発表者：主任学芸員 角田 拓朗

テーマ：山本芳翠研究—五姓田派の絵師/画家としての位置づけ—

概要：山本芳翠は多岐にわたる活動が報告されている。ただ、いずれもが、五姓田派に原点をもとめることができ、その意味で、間違いなく五姓田派の一員だといえる。具体例として、活人画、パノラマなどを挙げる。またそのような多角的な視野と活動は、初代五姓田芳柳に学んだ姿勢だと指摘した。

e 発表者：主任学芸員 神野 祐太

テーマ：箱根町・阿弥陀寺の菩薩面について—新発見の平安時代墨書銘—

概要：箱根町阿弥陀寺に伝わる菩薩面に関する新発見の墨書銘について紹介した。本面は神奈川県内の在銘彫刻の中では最も古い承安 4（1174）年の紀年銘を有する仮面である。ただ、そのすべての文字が解読されているわけではない。そこで特別展「足柄の仏像」に出品されたのを契機に、赤外線カメラによる墨書銘の再調査を実施した。その結果、これまで読めていなかった文字が読めるようになり、その中に長久 3（1071）年の紀年銘が見つかった。おそらく、長久 3 年が造像銘とみられ、これまで知られていた承安 4 年は修理銘の可能性が高いと思われる。これまでよりも約 100 年遡ることになり、全国的に見ても 11 世紀の紀年銘を持つ彫刻作品は極めて少なく、さらに重要な資料と位置づけることができよう。

f 発表者：学芸員 武田 周一郎

テーマ：横浜歴史 GIS の構築と発信—1880 年代の関内地区を対象に—

概要：都市横浜の時空間情報を蓄積した横浜歴史 GIS の構築を企図し、これまでに蓄積した情報をウェブサイトで発信するための手法を探究した。GIS ソフトの QGIS を用いて、「横浜実測図」をベースマップとして商工録の情報を重ね合わせた試作版のウェブサイトを作成し、その基本的な手順を把握した。

g 発表者：学芸員 渡邊 浩貴

テーマ：遠江国の中世仮面と武士勢力—津毛利神社の「王の舞面」を事例に—

概要：本報告は、中世音楽文化の地域的展開について遠江国を事例に検討を加えるものである。具体的には津毛利神社（静岡県浜松市）所蔵の「王の舞面」、賀久留神社（同）所蔵の陵王・納曾利・獅子頭など、遠江国内の鎌倉・室町時代制作の舞楽面・行道面を中心に、それらがどのような勢力によって地域にもたらされ、またいかなる流転を経て現況の民俗芸能へと再生していくのかを追っていく。なお本報告は、神奈川県立歴史博物館の令和6年度秋季特別展「仮面絢爛」の調査準備過程で得た知見に基づく。

h 発表者：学芸員 梯 弘人

テーマ：北条氏康による足利義氏饗応の食材(海産物)調達について

概要：戦国大名北条氏の3代氏康が古河公方の5代足利義氏を迎えた際の祝膳を対象に、食膳の献立、食材を確認し、そこに使われた海産物の確保について検討を行った。食材の大半が北条領内で獲れる海産物であったため、それらは領内の村々から上納させていたと考えられる。一方、領内では獲れない鮭や鱈も献立の中にみられたが、これらは贈答の記録や「鱈買銭」が税として課されていた形跡があることから、贈答や購入によって確保されたものとみられることが分かった。

i 発表者：学芸員 寺西 明子

テーマ：近世兵学における「相州鎌倉之図」

概要：「相州鎌倉之図」はこれまで鎌倉絵図等案内図の延長において語られてきた。しかし、当館所蔵「相州鎌倉之図」に「積徳堂」の蔵書印が確認されることから、山鹿流兵学・古学の道場である積徳堂所蔵資料であり、兵学教導のため作成・使用されたと考えられる。研究初年度の令和5年は、本図の来歴を再考し、本図の翻刻や基礎的整理を行った。また、「相州鎌倉之図」の類図の調査を行った。

j 発表者：非常勤学芸員 根本 佐智子

テーマ：『松平造酒助江戸在勤日記』に見る庄内藩江戸市中取締

概要：本稿では、当館所蔵『松平造酒助江戸在勤日記』、鶴岡市郷土資料館所蔵「松平武右衛門文書造酒助書簡」の記述をもとに、庄内藩による江戸市中取締の実態に迫った。第一に、それまで複数藩で担当した江戸市中取締が庄内藩一手持ちとなるにあたり、庄内藩は幕府大目付より留守中は厳重に廻るようにとの沙汰を受けている。その対策として造酒助が、江戸市中取締の新しい体制を整備したことを明らかにした。次に、造酒助が直面した江戸市中取締の事件を取上げ、町奉行所との関係の変化を示した。

k 発表者：非常勤学芸員 三浦 麻緒

テーマ：高座郡小出村遠藤の山講について—慶応3年～昭和35年の「山講中連名控帳」から—

概要：当館で所蔵する藤沢市遠藤の山の神講の資料を基に、当地で実施されていた山の神講の様相を報告した。資料は、慶応3年から昭和35年までの93年間125回にわたる山の神講実施の記録である。本報告では、各年代の山の神講の実施状況について確認し、その様子について紹介した。

1 発表者：非常勤学芸員 山口 希

テーマ：川俣絹布整練株式会社 錦絵カレンダー —2024年資料調査報告—

概要：川俣絹布整練株式会社は、真砂町1丁目7番地に本店を構え、横浜港より羽二重の輸出貿易を行っていた絹織物の商店である。本商店は、明治42年から45年（1909～12）の4年の間、海外向けの企画として図に錦絵を使用したカレンダーを作成していた。そのうち当館は、小林清親の図を使用した明治43（1910）年のカレンダーを収蔵しているが、本発表では、その関連資料である、池田輝方「江戸の錦」図使用明治42年カレンダー、楊洲周

延「真美人」図使用明治43年カレンダー、河鍋晩翠「大和錦絵」図使用明治44年カレンダー、3件についての調査内容を報告した。

m 発表者：非常勤学芸員 山下 春菜

テーマ：慰霊空間と党派性—明治・大正期における佐賀の政治情勢と慰霊祭—

概要：明治・大正期期の佐賀の乱慰霊祭については江藤新平慰霊のあり方の変遷から政治が慰霊空間に与えた影響について、佐賀県における慰霊祭は当事者が行い旧藩の士族的結合、さらに中央政党という党派性で結合した点、東京における慰霊祭は非当事者性が強く対外硬派という思想の下で幅広い所属の人間が結合した点を明らかにした。

n 発表者：非常勤学芸員 小川 咲良

テーマ：明治の輸出陶磁制作から個人作家へ—井上良斎の三代にわたる作陶

概要：井上良斎は三代続いた陶芸家で、初代、二代は東京浅草にて輸出陶磁器制作で活躍し、三代は横浜へ出て「神奈川焼」と称する陶磁器を制作した。初代から三代までの作陶について、明治東京の輸出陶磁—初代の隅田焼、ジャポニスムからアール・ヌーヴォーの時代へ—二代の釉下彩、職人から個人作家へ—三代の神奈川焼として紹介した。また、宮川香山と井上良斎の工房規模と高浮彫の比較、南区永田に残る窯場、三代良斎の地域とのかかわり、盆栽器、茶道具の制作についても紹介した。

(2) 日本学術振興会科学研究費助成事業によるもの

神奈川県立博物館であった昭和53年度から、文部省学術研究機関の指定を受け、科学研究費補助金が交付されるようになった。神奈川県立歴史博物館に機構変更後も継続して指定されている。令和6年度の採択は15件である。

ア 研究種目名：基盤研究(B)

課題番号：22H01007

研究課題：明治・大正・昭和戦前期図画手工教科書データベースの拡充とその活用に向けた調査研究

研究代表者：岡山大学 教授 赤木 里香子 氏

研究分担者：主任学芸員 角田 拓朗

研究期間：令和4～6年度

研究実績概要：引き続きデータベース構築のためのデータ採集をおこなった上で、最終年度にあたり、報告書を刊行した。

イ 研究種目名：基盤研究(B)

課題番号：23H00585

研究課題：日本所在の中国木彫仏像の調査研究

研究代表者：横浜美術大学 教授 濱田 瑞美 氏

研究分担者：主任学芸員 神野 祐太

研究期間：令和5～9年度

ウ 研究種目名：基盤研究(B)

課題番号：23H00587

研究課題：近代日本美術史における美術商に関する基礎的研究

研究代表者：主任学芸員 角田 拓朗

研究分担者：学芸員 鈴木 愛乃

研究期間：令和5～7年度

エ 研究種目名：基盤研究(B)

課題番号：24K00117

研究課題：国衙文書と本拠から解き明かす国衙系領主の統治技術と実態
研究代表者：日本大学 教授 田中 大喜 氏
研究分担者：主任学芸員 神野 祐太、学芸員 渡邊 浩貴
研究期間：令和6～9年度

オ 研究種目名：基盤研究(C)

課題番号：21K00824

研究課題：開国期・「虚構」による日本観の形成に関する基礎的研究：その方法論を中心に

研究代表者：主任学芸員 嶋村 元宏

研究期間：令和3～6年度（1年延長）

研究実績概要：画像史料に史料批判を加えることで、すべてが実像を伝えるものではなく、虚像も含まれていることを明確にし、虚像にもとづき欧米における日本観が形成されていったことを検証することで、史料批判にもとづく画像史料を利用した新たな方法論を提示すること、を本研究の目的とした。その結果、改めてその虚構性について明らかにするとともに、『日本遠征画集』所収大型石版画については、(1)三層構造で描いていること、(2)コラージュの手法がとられていること、(3)部分は事実であるが、それを集合させた全体としては「虚像」となっていること、(4)「歴史的瞬間にふさわしい」場面を意図して描かれていること、(5)一種の図鑑としての役割を果たしていること、(6)まなざしの交差がみられること、(7)人種に対する認識が確認できること、を明らかにした。また、日本イメージの伝播の実態について、19世紀半ばの欧米で人気のあった娯楽の一つであるムービング・パノラマにより、『遠征記』の公刊よりも先に、大衆が日本イメージを得る機会があったことも明らかにできた。

カ 研究種目名：基盤研究(C)

課題番号：22K00173

研究課題：足柄地方の宗教彫刻に関する基礎的研究

研究代表者：主任学芸員 神野 祐太

研究期間：令和4～7年度（1年延長）

研究実績概要：本年度は、松田町に所在する仏像悉皆調査を実施した。松田町に限定すると12か所に所在する48件79軀の仏像の調査・撮影を行った。中にはこれまで知られていなかった鎌倉時代の仏像や室町時代の頂相彫刻が含まれる。また、京都・西往寺宝誌和尚像の附属文書2点の資料紹介を『研究報告』等に掲載した。

キ 研究種目名：基盤研究(C)

課題番号：22K00869

研究課題：甲州道中における「合宿」形態の解明—相模国小原・与瀬宿と村落との関係から—

研究代表者：学芸員 寺西 明子

研究協力者：非常勤学芸員 根本 佐智子

研究期間：令和4～7年度

研究実績概要：令和4年度に引き続き当館所蔵坂本家文書の整理、撮影を進めた。また、相模原市立博物館所蔵甲州道中小原本陣清水家文書中の大型絵図撮影を行い成果の一部を常設展示室において展示した。

ク 研究種目名：基盤研究(C)

課題番号：22K00885

研究課題：神奈川県域における江戸幕府評定所裁許絵図の基礎的研究

研究代表者：非常勤学芸員 根本 佐智子

研究協力者：元学芸員 古宮 雅明 氏、学芸員 寺西 明子

研究期間：令和4～7年度

- ケ 研究種目名：基盤研究(C)
課題番号：23K00852
研究課題：明治前期における知識人官僚・高橋健三の総合研究—その思想と行動—
研究代表者：中央大学 教授 北井 辰弥 氏
研究分担者：主任学芸員 角田 拓朗
研究期間：令和5～8年度
- コ 研究種目名：基盤研究(C)
課題番号：23K00965
研究課題：歴史的鳥瞰図と衛星画像による宙瞰図の比較研究による博物館アーカイブズの構築
研究代表者：神奈川県立生命の星・地球博物館 主任学芸員 新井田 秀一
研究分担者：学芸員 武田 周一郎
研究期間：令和5～8年度
研究実績概要：本研究の目的は、主に神奈川県域を描いた鳥瞰図を対象として、時代背景や名所旧跡等を網羅的に把握し、それら情報を博物館での学習ツールとして広く活用できるように整理・構築することである。本年度は、当館所蔵の「神奈川県鳥瞰図」の構図について研究代表者と検討し、その成果を共同で口頭発表した。
- サ 研究種目名：基盤研究(C)
課題番号：23K02805
研究課題：地域地質資源の発掘と調査、普及を通じたプログラムの開発と試行
研究代表者：神奈川県立生命の星・地球博物館 企画普及課長 山下 浩之
研究分担者：学芸部長 丹治 雄一
研究期間：令和5～8年度
- シ 研究種目名：基盤研究(C)
課題番号：24K04220
研究課題：水利資料群の研究資源化による中世～現代荘園地域の社会構造研究
研究代表者：学芸員 渡邊 浩貴
研究期間：令和6～10年度
研究実績概要：本研究は、近江国柏木御厨故地（滋賀県甲賀市水口町）を対象に①水資源利用・開発に関する中世～現代に至るあらゆる水利資料群の情報をGIS上に記録し、時代毎のレイヤーに重ね合わせ統合することで研究資源化すること、②上記データを踏まえ、水資源に基づく柏木御厨内で起きた中世から現代にいたる社会集団の形成と展開の歴史的様相を、「水利」をキー概念として把握し考察することを目的とする。本年度は柏木御厨を構成する植・酒人地区にて現地調査を行い、その成果の一部をまとめた（渡邊浩貴・土山祐之「近江国柏木御厨故地現地調査報告Ⅰ—甲賀市水口町植地区における聞き書き集—」『淡海文化財論叢』16、2024年10月）。
- ス 研究種目名：挑戦的研究(開拓)
課題番号：24K21174
研究課題：中世農業生産・流通量推計方法の構築
研究代表者：慶應義塾大学 教授 中島 圭一 氏
研究分担者：学芸員 渡邊 浩貴
研究期間：令和6～11年度
- セ 研究種目名：研究活動スタート支援
課題番号：24K22435
研究課題：杉浦非水と雑誌に関する調査研究

研究代表者：非常勤学芸員 山口 希

研究期間：令和6～7年度

ソ 研究種目名：研究活動スタート支援

課題番号：24K22458

研究課題：近代陶磁史における横浜・東京の作陶―初代から三代の井上良斎を中心に―

研究代表者：非常勤学芸員 小川 咲良

研究期間：令和6～7年度

(3) その他外部研究資金によるもの

ア 助成内容：公益財団法人横浜学術教育振興財団 2024 研究助成

研究課題：弥生時代における洞穴利用の解明―三浦半島の手掘り洞穴を対象に―

研究代表者：学芸員 佐藤 兼理

研究期間：令和6年度

研究実績概要：神奈川県三浦半島に群在する手掘り洞穴遺跡はこれまで、洞穴内部の調査・研究が中心であったため、本研究では前庭部が現存する間口洞穴遺跡の手掘り調査を実施した。本年度は地層の堆積状況を確認する試掘調査であり、鎌倉時代末～南北朝時代の堆積層が厚く、予想より深く掘削する必要があることが判明した。

イ 助成内容：公益財団法人河川財団 令和6年度河川基金助成事業 研究者・研究機関部門

研究課題：野洲川流域における地域的水利秩序と水利組織の形成に関する歴史学的研究

研究代表者：学芸員 渡邊 浩貴

研究協力者：甲賀市教育委員会 佐野 正晴 氏、甲賀市教育委員会 水谷 光希 氏

研究期間：令和6～7年度

研究実績概要：野洲川流域にある近江国柏木御厨を事例に、中世～現代にかけての水利組織の歴史的変遷・形成過程を、文献史料・聞き書き・地質調査などから学際的に明らかにしていくことを目指す。本年度は柏木御厨内の流域界を引き、明治～現在の水資源利用の実態を踏査・聞き書きから明らかにした。

(4) 個人研究活動

ア 研究報告書

(ア) 『神奈川県立博物館研究報告―人文科学―』第51号 令和7年1月21日発行

a 種別：論文

表題：備後国地毗荘山内首藤氏本拠の水利復原研究―圃場整備完了地域（本郷・殿垣内地区）の実践事例から―

筆者：学芸員 渡邊 浩貴

要旨：本稿は、相模国出身の西遷御家人山内首藤氏が本拠とした備後国地毗荘本郷の故地を事例に、中世の水利秩序を復原するため、荘園現地調査や文献資料の分析、さらには水理学（土木工学の一分野）の研究手法を援用し学際的かつ適時的に景観復原を施し検討を行うものである。対象の地毗荘故地は圃場整備完了地域であるが、圃場整備以後の現況水利灌漑と圃場整備以前のそれとを丁寧に比較検討すると、圃場整備事業が決して既存の水利慣行や水利系統を破壊したものではなく、既存秩序を補完して実施されたことが明らかとなった。圃場整備の手が入った地域でも、現地調査と水利秩序の復原は可能なのである。さらに水利関係の近世地方文書が見出せない当該地では、水理学の手法で集水域を作成し前近代の水利秩序と灌漑範囲の復原を試みた。かかる適時的水利復原を経て、地毗荘本郷の中世水利秩序を分析した。結果、南北朝期まで別所谷を水源とする「別所池」「大野池」による親池―子池の灌漑体系が当該地での主要な水利であり、南北朝期の水害被害による河道変遷の結果溜池が消失し、谷川による河川灌漑へと移行したことを明らかにし、山内首藤氏による別所谷奥の谷戸開発の進展にも触れた。さらに集水域を踏まえこれらの水利秩

序には下流地域（紺屋谷・滑良谷）のなかで依存度に濃淡があることを見出し、水利ユニットは一樣でなく、その内部に差違（格差）があることも明瞭になった。

キーワード：水利灌漑 景観復原 圃場整備 備後国地毗荘 山内首藤氏

b 種 別：論文

表 題：『松平造酒助江戸在勤日記』に見る江戸市中取締

筆 者：非常勤学芸員 根本 佐智子

要 旨：幕末の庄内藩の江戸市中取締について、神奈川県立歴史博物館所蔵『松平造酒助江戸在勤日記』、鶴岡市郷土資料館所蔵「松平武右衛門文書」を素材に検討したものである。慶応元年五月、第二次長州征伐を契機に江戸市中取締が庄内藩一手持となったことに伴い、庄内藩御家中組による市中取締の体制が変化したことを明らかにした。さらに、『日記』に記載される江戸市中取締に関わる事件を取上げ、町奉行所との関係の変化を示した。

キーワード：松平造酒助 庄内藩 江戸市中取締 元治元年～慶応元年

c 種 別：研究ノート

表 題：享保一四年における象の多摩川渡河について

筆 者：館長 望月 一樹

要 旨：享保3年に交趾国（現・ベトナム）より渡来した象は、翌年に長崎を出発、その後、江戸まで2ヶ月以上をかけ歩いて旅をした。その間、河川では歩行渡し、あるいは船渡しで渡河した。多摩川では船橋を利用したということが、これまでの見解の主流であった。しかし近年発見された新資料をもとに、多摩川では船に乗っての渡河が確実になったことから、その実態について明らかにした。

キーワード：享保の象 多摩川 六郷の渡し 川崎宿

d 種 別：資料紹介

表 題：京都西往寺宝誌和尚像附属文書「誌公観世音縁起」の翻刻と紹介

筆 者：主任学芸員 神野 祐太

要 旨：京都西往寺宝誌和尚像に附属する「誌公観世音縁起」を紹介する。「誌公観世音縁起」は、元禄2年（1689）に西往寺四世念蓮社専誉が記した西往寺像に関する縁起である。二部構成で、前半に中国における宝誌和尚の説話について諸書を引用しながら紹介し、後半では西往寺像の由来について記す。真偽不明の言説を含めて、奈良時代から江戸時代に至る西往寺像の逸話が多く載せられる。最も注目すべき内容は、西往寺像の伝来である。西往寺像は伊豆国庭冷山の小堂に安置されており、疱瘡除けの利益があった。江戸時代前期にはかなり損傷を受けていたらしく、優婆塞光舟が発見し伊豆国から西往寺に移したという。

キーワード：伊豆国 南禅寺 庭冷山 天嶺山 浄土宗

e 種 別：資料紹介

表 題：当館所蔵 松本コレクションにみる三代井上良斎の特徴

筆 者：非常勤学芸員 小川 咲良

要 旨：井上良斎は三代続いた作陶家で、初代、二代は東京浅草にて輸出陶磁器制作で活躍し、三代は横浜へ出て「神奈川焼」と称する陶磁器を生産した。三代井上良斎の作品について、当館所蔵の松本コレクションから器種、文様、釉薬、器形の4点について整理しその特徴を検討した。

キーワード：三代井上良斎 近現代陶磁器 神奈川焼

f 種 別：論文

表 題：土器の使用からみた弥生時代における洞穴利用—神奈川県間口洞穴を例に—

筆 者：学芸員 佐藤 兼理（白石 哲也 氏、宮田 佳樹 氏と共著）

要 旨：本研究は、神奈川県三浦半島に群在する海蝕洞穴遺跡のひとつである三浦市間口洞穴遺跡

の利用に関して、弥生土器の脂質分析を主として、土器の使用痕分析を加え、検証を行なった。結果として、出土土器からは通常の煮炊きとは異なる使用痕跡と陸獣の利用が確認された。当初、筆者らは海蝕洞穴遺跡という遺跡の性質から積極的な魚介類など水棲生物の利用を想定していたが、予想とは異なる結果を得た。加えて、試験的に実施した弥生時代の混貝灰層の分析からは、炭酸カルシウムを多く含む生物の灰の可能性が提示され、弥生時代の主要穀物であるイネ科などの植物珪酸体はなく、炭化材片や貝殻の極細片などが確認された。以上のことから、間口洞穴の利用に関しては、骨角器などの製作場や製塩の場としての利用が示唆された。

キーワード：弥生時代 洞穴 脂質分析 利用 灰層 土器

g 種 別：論文

表 題：19 世紀における日本イメージの伝播に関する一試論：ヴィルヘルム・ハイネ作大型石版画の分析を通して

筆 者：主任学芸員 嶋村 元宏

要 旨：『日本遠征画集』に含まれる大型石版画 6 枚を分析し、(1) 三層構造で描いていること、(2) コラージュの手法がとられていること、(3) 部分は事実であるが、それを集合させた全体としては「虚像」となっていること、(4) “歴史的瞬間にふさわしい” 場面を意図して描かれていること、(5) 一種の図鑑としての役割を果たしていること、(6) まなざしの交差がみられること、(7) 人種に対する認識が確認できること、を明らかにした。

キーワード：虚像 ムービング・パノラマ 物語論 史料論

h 種 別：資料紹介

表 題：川俣絹布整練株式会社刊行 小林清親図使用明治 43 年カレンダー

筆 者：非常勤学芸員 山口 希

要 旨：川俣絹布整練株式会社は、真砂町 1 丁目 7 番地（現・横浜市中区真砂町）に本店を構え、横浜港より羽二重の輸出を行っていた絹織物の商店であり、明治 42～45（1909～12）年の 4 年間、海外の顧客へ向けて図版に錦絵を使用したカレンダーを刊行している。そのうち、当館が所蔵する明治 43 年のカレンダーには、小林清親「花模様」の図が使用されていることがわかった。本論では、カレンダーの基礎情報と、国立国会図書館が収蔵する同カレンダーも含めた記載情報を提示し、カレンダーの図に見られる原図からの変更点と、その根拠を明らかにした。

キーワード：川俣絹布整練株式会社 羽二重 カレンダー 秋山武右衛門 小林清親

イ 個人研究活動

〈凡例〉（刊行年などは西暦で統一）

氏名（職名・専門分野等）

(ア) 著作

a 単著・共著・学術論文

b 書評・余録

c 資(史)料紹介

(イ) 学術口頭報告

(ウ) 図録執筆・解説書執筆

(エ) 新聞・雑誌等への寄稿

(オ) 各種調査委員会等

(カ) 講師等

a 外部依頼講座講師等

b 当館主催講座等講師

c 当館出張講座講師

d 大学等非常勤講師

(キ) ここ 1 年間の課題・研究テーマ

望月 一樹（館長・歴史）

- (ア)a 「享保一四年における象の多摩川渡河について」（『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第51号、pp. 39-46、神奈川県立歴史博物館、1月）
「石井泰助の事績と人物像—「石井泰助伝」の再録と解題—」（『川崎市文化財調査集録』第59集、pp. 1-50、川崎市教育委員会、3月）
「神奈川県博物館協会の総合防災計画とその活動」（『第10回全国史料ネット研究交流集会報告書』デジタル版、pp. 40-44、人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクト、3月）
- b 「2024年は2つのコレクション展を開催！」（『神奈川県立歴史博物館だより』通巻226号、pp. 6-7、神奈川県立歴史博物館、5月）
- (イ) 「在村知識人のネットワークについて—白牛飼育と白牛洞—」（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月）
- (オ) 神奈川県博物館協会会長、神奈川県文化財協会常任理事、日本博物館協会参与、棚橋賞・博物館活動奨励賞選考委員、あつぎ郷土博物館協議会委員、シルク博物館運営委員会委員、江戸東京博物館運営委員会委員、川崎市史市制100周年記念版編集懇談会委員
- (カ)a 21世紀川崎教育フォーラム講演「川崎市初代市長・石井泰助氏について」（武蔵小杉ユニオンビル、4月13日）
かわさき市民アカデミー前期歴史（川崎学）講座第5回「沿岸地域の埋立と工業都市川崎の形成」（川崎市生涯学習プラザ、5月18日）
川崎地名塾第2回「王禅寺と王禅寺村」（川崎市生活文化会館、9月14日）
宮前市民館市民自主学級講座第2回「『律令制』における橘樹郡の様相」（川崎市宮前市民館、10月13日）
かわさき市民アカデミー後期学び・歩くかわさき（川崎学）講座第3回「安藤安一近代中原地域の発展に尽力」（川崎市生涯学習プラザ、10月16日）、第5回「現地を訪ねる」（武蔵小杉～多摩川界限、11月6日）
- b 館長トーク「古代南武蔵の様相—橘花屯倉と橘樹郡—」（7月21日）
館長トーク「近代の川崎・鶴見の産業史～川崎運河をさぐる」（鶴見公会堂、1月28日）
館長と散策！「かながわの“平安・京”～川崎運河の遺構を歩く」（3月13日）
ボランティア総会館長講話「絵図・地図にみる開港地」（波止場会館、3月22日）
- (キ) 昭和5年に『川崎評論』に連載された「石井泰助伝」27回分について書き起こし作業を行い、記載された人物の索引を作成するとともに、『川崎評論』という雑誌とその発行人である坪井竹子について調査、検討を行った。

丹治 雄一（学芸部長・近代・歴史）

- (ア)b 「真鶴町民俗資料館が果たしてきたこと」（『真鶴町文化財だより』第37号、pp. 2-3、真鶴町教育委員会、3月）
- (イ) 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院オープンイノベーション・シンポジウム「関内のまちの未来」「オープンイノベーション教育プロジェクト報告 神奈川県立歴史博物館および横浜市歴史博物館との博学連携活動」へのコメント（横浜国立大学、3月2日）
- (オ) 茅ヶ崎市博物館協議会委員、首都圏形成史研究会常任委員
- (カ)a 一般社団法人赤煉瓦倶楽部半田総会特別講演会「旧横浜正金銀行本店本館と半田赤レンガ建物—文化財建造物の保存と活用をめぐる—」（半田赤レンガ建物、6月8日）
真鶴町民俗資料館の存続を求める会講演会「石材企業家・土屋大次郎の事業活動と旧土屋家住宅（真鶴町民俗資料館）について」（真鶴町民センター、9月7日）
神奈川県文化財協会第7回見学会「コレクション展 本店本館創建120周年記念 横浜正金銀行」（神奈川県立歴史博物館、12月18日）
- b ミュージアムトーク「今月の逸品」（「横浜正金銀行建築要覧」、5月）
旧横浜正金銀行本店本館建物見学会（7月14日）
- c 「かながわの地質と歴史を学ぶ」（平塚市立大原小学校、10月29日）

- (キ) 当館建物である旧横浜正金銀行本店本館の改修工事予定箇所等の躯体や内装の調査を行うとともに、建築関係資料の再調査を実施して、資料の一部をコレクション展「本店本館創建 120 周年記念 横浜正金銀行」にて展示・公開した。

桑山 童奈（企画普及課長・近世・美術[絵画]）

- (イ) 「明治期の政府高官を描いた錦絵について一館外での調査結果から一」（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5 月）
- (エ) 「鉄道を描いた錦絵を読み解く」（『紫明』第 55 号、pp. 2-7、黎明会、10 月）
「版元のお仕事」（『有鄰』第 596 号、p. 4、有隣堂、1 月）
- (オ) 国際浮世絵学会常任理事・企画委員長、藤沢市藤澤浮世絵館運営委員、公益財団法人氏家浮世絵コレクション評議員
- (カ)a 講演会「〈役者見立東海道〉の魅力」（藤沢市明治公民館、6 月 29 日）
2024 年鶴見歴史の会主催つるみ歴史講座「見て きいて 鶴見再発見 錦絵でたどる開港場への道～東海道から横浜道へ」（横浜市寺尾地区センター、9 月 15 日）
横浜シティガイド協会定例会「川崎宿から戸塚宿の浮世絵」（神奈川県立かながわ労働プラザ、2 月 8 日）
- b ミュージアムトーク「今月の逸品」（「歌川国貞 風景への挑戦」、4 月）
高校生向け講座「浮世絵に親しむ」（8 月 3 日）
- c 「江戸時代の浮世絵を学ぶ」（大和市立緑野小学校、7 月 9 日）
「江戸時代の浮世絵を学ぶ」（茅ヶ崎市立汐見台小学校、9 月 27 日）
「江戸時代の浮世絵を学ぶ」（神奈川県立横浜南支援学校小学部、1 月 14 日）
- (キ) 錦絵に描かれた明治政府高官の肖像に関する研究。

（古代）

佐藤 兼理（学芸員・考古）

- (ア)a 「宮ノ台式土器分布圏における竪穴住居の規格性の検討―鶴見川・早渕川流域を中心に―」（『考古学集刊』第 20 号、pp. 15-31、明治大学考古学研究室、8 月）
「土器の使用からみた弥生時代における洞穴利用―神奈川県間口洞穴を例に―」（『神奈川県立博物館研究報告―人文科学―』第 51 号、白石哲也・宮田佳樹と共著、pp. 112-99、神奈川県立歴史博物館、1 月）
「中里遺跡における竪穴住居の類型試案―南関東における弥生中期竪穴住居の系譜関係」（『斗酒百篇―弥生時代探求―』、pp. 147-160、石川日出志 明治大学教授定年退職記念論集刊行会、3 月）
- b 「弥生時代の「食」の研究の最前線―稲作を中心に―」（『神奈川県立歴史博物館だより』通巻 228 号、pp. 2-5、神奈川県立歴史博物館、2 月）
「住居 房総半島の竪穴住居と仮家塚遺跡が重要な理由」（『仮家塚遺跡！ 南房総最古の農村を探して』、pp. 38-43、文学通信、3 月）
- (イ) 「弥生時代の水田稲作技術と生産性推定のための実験考古学的研究」（調査研究成果報告会、神奈川県立歴史博物館、5 月 28 日）
「千葉県仮家塚遺跡の調査成果報告（2021 年度～2023 年度）」共同発表（日本考古学協会第 90 回総会（ポスター）、千葉大学、5 月 26、27 日）
「竪穴住居からみた南関東の弥生社会」（西相模考古学研究会、海老名市文化会館、9 月 16 日）
- (オ) 神奈川県考古学会役員
- (カ)a 山形大学講座「人と住まいの環境適応」（山形大学、10 月 31 日）
- b 講演会「間口洞穴掘ってみた」（ヴェルクよこすか、3 月 29 日）
ミュージアムトーク「今月の逸品」（「弥生土器からのメッセージ」、6 月）
高校生インターンシップ（8 月 2 日）
- c 「知っているようで知らない考古学の世界」（川崎市立西御幸小学校、6 月 25 日）
「知っているようで知らない考古学の世界」（川崎市立東小田小学校、7 月 10 日）
「知っているようで知らない考古学の世界」（横浜市立浅間台小学校、9 月 12 日）

- (イ) 南関東の弥生時代中期後葉～後期の竪穴住居内の空間利用について研究を行った。横浜学術教育振興財団の支援をいただき、三浦市間口洞穴の前庭部の発掘調査を実施した。また、南関東の初期農耕集落の調査として千葉県南房総市仮家塚遺跡の発掘調査、洞窟遺跡の調査として三浦市白石洞穴の発掘調査に参加した。これらの調査より先史時代の住まいの研究を進めていった。

(中世)

渡邊 浩貴 (学芸員・歴史)

- (ア) a 「武士本拠を〈荘厳〉する―都市鎌倉の音楽と三浦氏本拠―」 (『日本宗教文化史研究』28 巻 1 号、pp. 1-18、日本宗教文化史学会、5 月)
「初期鎌倉幕府の文化源流としての伊豆・駿東地域―伊豆狩野氏の拠点とその周辺から―」 (貴田 潔・湯浅治久編『東海道中世史研究 1 諸国往反の社会史』、pp. 77-113、高志書院、10 月)
「日本中世音楽社会史論序説―音と音楽、そして仮面から―」 (特別展図録『仮面絢爛―中世音楽と芸能があらわす世界―』、pp. 3-15、神奈川県立歴史博物館、10 月)
「女が創る武士本拠の文化基盤―女房・遊女・白拍子の事例から―」 (『日本宗教文化史研究』28 巻 2 号、pp. 17-34、日本宗教文化史学会、11 月)
「備後国地岬山内首藤氏本拠の水利復原研究―園場整備完了地域 (本郷・殿垣内地区) の実践事例から―」 (『神奈川県立博物館研究報告―人文科学―』第 51 号、pp. 1-24、神奈川県立歴史博物館、1 月)
「神輿渡御と中世武士本拠―安芸国沼田荘故地の神輿渡御が表象する歴史性―」 (『西郊民俗』270 号、pp. 6-14、西郊民俗談話会、3 月)
「道観長者とは何者か―東大寺お水取りと伊賀ノ井松明講の伝説―」 (地方史研究協議会編『地方史はおもしろい 07 だから地方史研究はやめられない』、pp. 104-117、文学通信、3 月)
「佐原氏本拠の文化環境と威信競合―瓦・仏像・寺院から―」 (『三浦一族研究』第 29 号、pp. 5-26、三浦一族研究会、3 月)
b 「『博物館×観光』による特別展関連のバスツアー企画」 (『月刊文化財』730 号、pp. 1-2、文化庁、7 月)
「中世古墳と在地領主の言説形成」 (古墳の履歴書研究会編『古墳の履歴書調査研究報告書―古墳に由来する文化的景観の総合的研究―』、pp. 199-200、群馬県立女子大学群馬学センター築瀬大輔研究室刊、6 月)
「神奈川県立歴史博物館令和 4 年度特別展「源頼朝が愛した幻の大寺院 永福寺と鎌倉御家人―荘厳される鎌倉幕府とそのひろがり―」 (『月刊文化財』730 号、pp. 30-33、文化庁、7 月)
「列島の鎌倉御家人と中世仮面 ―特別展「仮面絢爛―中世音楽と芸能があらわす世界―」を楽しむために―」 (『神奈川県立歴史博物館だより』通巻 227 号、pp. 2-5、神奈川県立歴史博物館、8 月)
「歴史シンポジウム「後鳥羽上皇が造った都市 水無瀬離宮を考える」に参加して」 (『地方史研究』74 巻 5 号、pp. 73-77、地方史研究協議会、10 月)
「高橋傑 著『中世荘園の検注と景観』」 (『新しい歴史学のために』304 号、pp. 86-93、京都民科歴史部会、11 月)
「高橋秀樹 著『三浦義村』(人物叢書 321)」 (『日本歴史』919 号、pp. 94-96、日本歴史学会、12 月)
「鎌倉御家人の迎講と仮面」 (『三浦一族研究』第 29 号、pp. 1-2、三浦一族研究会、3 月)
c 「近江国柏木御厨故地現地調査報告 I ―甲賀市水口町植地区における聞き書き集―」 (『淡海文化財論叢』16 号、土山祐之氏と共著、pp. 183-188、淡海文化財論叢刊行会、10 月)
(イ) 「中世遠江国の仮面群と武士勢力―津毛利神社の「王の舞面」とその周辺から―」 (民俗芸能学会第 198 回例会報告、早稲田大学演劇博物館、5 月 18 日)
「遠江国の中世仮面と武士勢力―津毛利神社の「王の舞面」を事例に―」 (調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5 月)
「武士の館と宿に集う女性たち―女房・遊女・白拍子の事例から―」 (鎌倉御家人研究会 6 月例会報告、神奈川県立歴史博物館、6 月 16 日)
「中世前期の沼津と大岡牧 (荘) ・香貫郷」 (天神洞遺跡調査第 1 回研究会、沼津市文化財センター、7 月 28 日)

「絵画資料「頬焼阿弥陀縁起」にみる初期鎌倉交流圏」（鎌倉御家人研究会 11 月例会報告、神奈川県立歴史博物館、11 月 24 日）

「中世仮面の地域的展開と鎌倉幕府権力―特別展「仮面絢爛」での研究成果を踏まえて―」（令和 6 年度 民俗芸能学会・神奈川大会、伊勢山皇大神宮、12 月 1 日）

- (ウ) 特別展図録『仮面絢爛―中世音楽と芸能があらわす世界―』（神奈川県立歴史博物館、10 月）

- (エ) 第 198 回研究例会発表要旨「中世遠江国の仮面群と武士勢力―津毛利神社の「王の舞面」とその周辺から―」（『民俗芸能学会会報』118 号、p. 3、民俗芸能学会、4 月）

「神奈川県立歴史博物館特別展「仮面絢爛」」（『民俗芸能学会会報』118 号、p. 3、民俗芸能学会、4 月）

「神奈川県立歴史博物館特別展「仮面絢爛」（民俗芸能学会 HP 掲載、4 月 2 日更新）

「神奈川県立歴史博物館特別展「仮面絢爛―中世音楽と芸能があらわす世界―」（『民具マンスリー』第 57 巻 6 号、神奈川大学日本常民文化研究所、9 月）

令和 6 年度民俗芸能学会神奈川大会報告要旨「中世舞楽面・行道面の地域的展開と鎌倉幕府権力―特別展「仮面絢爛」での研究成果を踏まえて―」（『民俗芸能学会会報』120 号、p. 4、民俗芸能学会、1 月）

「特別展 仮面絢爛―中世音楽と芸能があらわす世界―①「琴の音は神の託宣/梵鐘 名を刻み支配可視化」（『毎日新聞 神奈川版』、11 月 6 日）

「特別展 仮面絢爛―中世音楽と芸能があらわす世界―②「武士の権力誇示手段/菩薩面用い「迎講」の儀礼」（『毎日新聞 神奈川版』、11 月 13 日）

「特別展 仮面絢爛―中世音楽と芸能があらわす世界―③「歴史と記憶 幾重にも/破損や修復で解釈上書き」（『毎日新聞 神奈川版』、11 月 20 日）

- (オ) 地方史研究協議会常任委員

- (カ) a 「津毛利神社の中世仮面と甲斐源氏一族―仮面調査の現場から―」（古都鎌倉の歴史と文化、鎌倉 ICP（大路ビル）、5 月 26 日）

「鎌倉御家人の造寺活動と氏寺機能」（鎌倉禅研究会第 207 回公開講座、3 月 24 日）

神奈川県文化財協会第 6 回見学会「特別展「仮面絢爛―中世音楽と芸能があらわす世界―」（神奈川県立歴史博物館、11 月 27 日、28 日）

- b 展示解説 特別展「仮面絢爛」（10 月 26 日、30 日、11 月 20 日、23 日、12 月 7 日）

特別展「仮面絢爛」入門講座「日本中世の音と音楽と仮面の世界」（11 月 2 日）

特別展「仮面絢爛」連続講座「仮面と音楽の地域史」「音楽で治める―中世武士団と音楽―」（11 月 9 日）

鎌倉御家人サミット―鎌倉御家人について語りつくそう―「武士本拠とは何か？」（神奈川県庁本庁舎、2 月 16 日）

ミュージアムトーク「今月の逸品」（「戦国遺臣たちの再就職活動―我等はしりめぐり之覚から―」、3 月）

- c 「中世武士の鎌倉」（フェリス女学院中学校・高等学校、2 月 7 日）

- d 慶應義塾大学非常勤講師 「歴史Ⅰ・Ⅱ」

- (キ) 平安末・鎌倉初期～南北朝内乱期における列島各地の武士本拠を対象に、主に学際的な現地調査手法を用いて復原研究を継続している。本拠研究では主に開発・親族構造・流通（交通）・文化・宗教の観点からアプローチし、最近では本拠文化論として音楽芸能に着目して研究を進めてきた。武士研究・地域社会論・中世音楽史を連動させた成果は令和 6 年度特別展「仮面絢爛―中世音楽と芸能があらわす世界―」にて披露した。

梯 弘人(学芸員・歴史)

- (ア) c 「駒林川田家文書について」（『小田原地方史研究』32 号、pp. 95-105、小田原地方史研究会、7 月）

- (イ) 「北条氏康による足利義氏饗応の食材（海産物）調達について」（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5 月）

「鎌倉における太閤検地の裏面―帰源院文書にみる寺社の動き―」（日本史談話会、筑波大学、8 月 4 日）

- 「『談柄』における小田原北条氏関連記事について」（小田原地方史研究会、小田原市民交流センター、2月22日）
- (カ) a 鎌倉禅研究会「帰源院文書を通してみた鎌倉における太閤検地—天下人を動かした人々—」（建長寺応供堂、5月20日）
 神奈川県文化財協会総会「伊豆長浜城と戦国大名北条氏」（神奈川県立歴史博物館、5月23日）
 アーカイブズカレッジ施設訪問「神奈川県立歴史博物館ガイド」（神奈川県立歴史博物館、9月6日）
 大磯町郷土資料館ワークショップ「甲冑を着てみよう！～日本の甲冑のお話と模擬甲冑の試着～」
 （大磯町郷土資料館、10月12日）
 玉縄歴史の会公開講座「戦国大名北条氏にとっての西相模・伊豆地域の重要性」（玉縄学習センター分室、11月4日）
 玉縄すこやかセンター歴史講座「戦国大名北条氏と鶴岡八幡宮（寺）」（玉縄すこやかセンター、2月26日）
 玉縄歴史の会公開講座「西相模・伊豆地域の海から戦国大名北条氏へもたらされたもの」（玉縄学習センター分室、3月2日）
 玉縄すこやかセンター歴史講座「戦国時代の鎌倉と小田原北条氏—円覚寺との関わりを中心に—」（玉縄すこやかセンター、3月12日）
- b 展示解説 特別陳列「戦国大名北条氏と西相模・伊豆」（4月4日、13日）
 博物館入門講座（7月7日）
 ミュージアムトーク「今月の逸品」（「戦国大名北条氏歴代当主の判物—北条氏によって守られた「須崎大慶寺分」—」、11月）
- (キ) 昨年度末から引き続き年度当初に特別陳列「戦国大名北条氏と西相模・伊豆」を担当（令和6年3月16日～4月14日）している。今年度は北条氏による儀式・儀礼に関する研究を進めた。

神野 祐太（主任学芸員・美術〔彫刻〕）

- (ア) a 「京都西往寺宝誌和尚像附属文書「誌公像賛」・宝誌和尚画像と黄檗僧高泉」（『美術史研究』第62冊、pp.89-102、12月）
 「研究ノート 横浜市栄区・證菩提寺阿弥陀三尊像の調査報告—中尊阿弥陀如来像の構造技法について—」（『横浜市歴史博物館紀要』第29号、花澤明優美氏と共著、pp.24-32、公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団、3月）
 『松田町の仏像』（pp.1-64、松田町教育委員会、3月）
- b 「青葉区域の仏像」（『よこはま青葉の歴史を歩く～7つの探訪コース～』編集委員会編『よこはま青葉の歴史を歩く～7つの探訪コース～』、pp.8-9、横浜市青葉区役所地域振興課、5月）
 「常設展からのメッセージ」（『ボランティアニュース』95号、pp.6-7、7月）
- c 「堺市博物館観音菩薩立像、大和文華館如来立像—日本所在の中国木彫仏像の調査記録—」（『美術史研究』第62冊、濱田瑞美・一本崇之・萩谷みどり・大島幸代の各氏と共著、pp.103-114、早稲田大学美術史学会、12月）
 「京都西往寺宝誌和尚像附属文書「誌公観世音縁起」の翻刻と紹介」（『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第51号、pp.47-62、神奈川県立歴史博物館、1月）
 「四万十市横瀬観音堂（高尾寺）・同古津賀観音堂（観音寺）・高知市観音正寺仏像調査報告」（『高知県立歴史民俗資料館研究紀要』第29号、那須望氏と共著、pp.1-22、高知県立歴史民俗資料館、3月）
 「毘沙門天像（高知県長法寺）」（水野敬三郎他編『日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代造像銘記篇』第17巻、分担執筆、pp.45-48、中央公論美術出版、3月）
- (イ) 「箱根町・阿弥陀寺の菩薩面について—新発見の平安時代の墨書銘—」（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月）
- (ウ) 図版解説6件（神奈川県立歴史博物館編『仮面絢爛—中世音楽と芸能があらわす世界—』図録、神奈川県立歴史博物館、10月）
- (エ) 館山市文化財審議委員（6月～）
- (カ) a 青葉区郷土史の会「青葉区域の仏像と鑑賞の仕方」（横浜市青葉公会堂2階会議室、9月21日）

小田原北条の会「戦国時代の仏像と小田原北条氏」（おだわら市民交流センターUMECO（会議室7）、1月24日）

- b 大学生向け体験講座「博物館の裏側を知ろう」（6月30日）
特別展「仮面絢爛」連続講座「仮面と音楽の地域史」（11月16日）
- c 「鎌倉大仏をもっと知る！」（逗子市立沼間中学校、6月28日）
「鎌倉大仏をもっと知る！」（大和市立福田小学校、7月5日）
「鎌倉大仏をもっと知る！」（横須賀市立長浦小学校、7月11日）
「鎌倉大仏をもっと知る！」（鎌倉市立第一小学校、7月12日）
「鎌倉大仏をもっと知る！」（川崎市立四谷小学校、9月12日）
- (キ) 本年度は松田町の仏像悉皆調査を実施した。また、特別展「仮面絢爛」のサブ担当として、これまで彫刻史ではあまり注目されてこなかった仮面類の調査を実施した。

樋口 美咲（臨時学芸員・美術〔絵画〕）

- (イ) 「コレクション研究1—大勝金剛像の位置と価値—」（調査研究成果報告会、神奈川県立歴史博物館、5月28日）
「東密諸流派で相伝された大勝金剛像の図像に関する一考察」（密教図像学会第44回学術大会、大正大学、11月30日）
- (カ)a 横浜美術大学生涯学習講座2024年前期「日本美術史 源氏物語絵巻とその展開」（横浜美術大学、5月18日、6月8日、22日、29日、7月6日）
横浜美術大学生涯学習講座2024年後期「日本美術史 墨の美—白描画と水墨画—」（横浜美術大学、9月21日、10月19日、11月2日、23日、12月14日）
「絵解き地獄絵図」（大和市桜丘学習センター、2月1日、8日、22日、3月1日、15日）
- b ボランティアフォローアップ研修「神奈川県立歴史博物館の中世絵画—仏教美術と絵巻物—」（波止場会館、1月15日、18日）
- (キ) 平安～鎌倉時代に重んじられた大勝金剛に関する絵画作例について、図像と受容をテーマとし当館所蔵大勝金剛像や京都・悲田院所蔵大勝金剛曼荼羅などの実見調査を行い、口述発表を行った。

鈴木 愛乃（学芸員・美術〔工芸〕）

- (ア)a 「「横浜芝山漆器」の実像—歴史・技法・背景—」（特別展図録『近代輸出漆器のダイナミズム—金子皓彦コレクションの世界—』、pp.225-234、神奈川県立歴史博物館、5月）
- (イ) 「「横浜芝山漆器」の実像—歴史・技法・背景—」（明治美術学会、神奈川県立歴史博物館、4月28日）
「近代輸出漆器の意匠について」（調査研究成果報告会、神奈川県立歴史博物館、5月28日）
- (ウ) 特別展図録『近代輸出漆器のダイナミズム—金子皓彦コレクションの世界—』（共編著、神奈川県立歴史博物館、5月）
- (エ) 「特別展 近代輸出漆器のダイナミズム—金子皓彦コレクションの世界—これも漆器？近代輸出漆器の世界」（『新美術新聞』、5月1日）
「特別展 近代輸出漆器のダイナミズム—金子皓彦コレクションの世界—①ジャポニスム追い風に/大きな家具から小箱まで」（『毎日新聞 神奈川版』、5月15日）
「特別展 近代輸出漆器のダイナミズム—金子皓彦コレクションの世界—②飛び出すような象嵌/桜や富士山モチーフに」（『毎日新聞 神奈川版』、5月22日）
「特別展 近代輸出漆器のダイナミズム—金子皓彦コレクションの世界—③細部まで工芸技術結集 西洋文化とも融合も」（『毎日新聞 神奈川版』、5月29日）
「特別展 近代輸出漆器のダイナミズム—金子皓彦コレクションの世界—④外国の需要反映し進化 イメージ覆す用途や意匠」（『毎日新聞 神奈川版』、6月5日）
- (カ)a 神奈川県博物館協会第1回研修会「特別展 近代輸出漆器のダイナミズム—金子皓彦コレクションの世界—」（神奈川県立歴史博物館、5月10日）
神奈川県文化財協会第2回見学会「特別展「近代輸出漆器のダイナミズム—金子皓彦コレクションの世界—」（神奈川県立歴史博物館、6月19日、20日）

横浜ボランティアガイド協議会 ホスピタリティ講座「横浜で花開いた眞葛焼」(かながわ県民センター、11月18日)

ICP 講座「特別展「近代輸出漆器のダイナミズム」を振り返って—横浜写真アルバムにみる輸出漆器研究の展望—」(大路ビル、1月26日)

- b 特別展記念講演会「展覧会ができるまで—産地への旅と金子皓彦コレクションの修復—」(5月19日)
展示解説 特別展「近代輸出漆器のダイナミズム—金子皓彦コレクションの世界—」(5月18日、6月7日、12日、15日、22日、23日、29日、30日)
- c 「博物館・学芸員の仕事」(厚木市立上依知小学校、9月10日)
- (キ) 館所蔵・保管資料(中世工芸および近代工芸)に関する調査研究、整理作業と、近代の横浜における輸出工芸について調査研究を行った。4月から6月にかけて、「特別展 近代輸出漆器のダイナミズム—金子皓彦コレクションの世界—」を開催した。

(近世)

寺西 明子(学芸員・歴史)

- (イ) 「近世兵学における「相州鎌倉之図」」(調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月)
- (エ) 「農民が残した幕末期の日記」(『公明新聞』、5月3日)
- (カ)a 東京ミロク会計人会神奈川地区会定期総会基調講演「租税資料からみる江戸時代のかながわ」(東京ミロク会計人会主催、HOTEL PLUMM、7月10日)
アーカイブズカレッジ講座 常設展示解説、コレクション展「おひろめ!」展示解説(国文学研究資料館主催、9月6日)
健康都市大学「古文書で知る地震、洪水、噴火」、①「幕府の対応と現状把握—富士山噴火と砂降りの村々—」、②「情報共有と相互協力—江戸地震、多摩川洪水と人々—」(やまとみらい主催(文化創造拠点等 指定管理者)／大和市生涯学習センター、大和市文化創造拠点シリウス、10月21日、28日)
- b 総合研究 博学協働による博物館資料の教材化「当館近世資料紹介」(5月29日)
ミュージアムトーク「今月の逸品」(「海の村の年貢」、10月)
連続古文書講座 博物館の古文書を読む「幕末の日記 ①幕末 農民の日記」(10月12日)
- (キ) 甲州道中と瀬宿坂本家文書、矢倉沢村田代家文書の撮影を進めた。令和4年寄託資料城ヶ島村年貢関係資料についても整理を行い、浦方年貢について展示、講演を行った。また、「鈴木藤助日記」についても特に家業を中心に調査を継続した。

根本 佐智子(非常勤学芸員・歴史)

- (ア)a 「『松平造酒助江戸在勤日記』に見る江戸市中取締」(『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第51号 pp. 25-38、神奈川県立歴史博物館、1月)
- (イ) 「『松平造酒助江戸在勤日記』に見る庄内藩江戸市中取締」(調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月)
- (エ) 「民謡をたずねて新島村若郷ヤカミ衆御歌を聴いて」(『令和六年度新島村生活調査 NHK FM 放送【民謡をたずねて】特別号』、p. 7、新島村博物館、5月)
- (カ)b 連続古文書講座 博物館の古文書を読む「幕末の日記 ②幕末 武士の日記」(10月19日)
ミュージアムトーク「今月の逸品」(「旗本の家」、12月)
- c 「絵図で見る江戸時代」(大和市文ヶ岡小学校、10月29日)
- (キ) 神奈川県内における幕府評定所裁許絵図の研究。常設展示トピック展にてその成果の一部を発表した。総合研究の矢倉沢村田代家文書の整理、写真撮影を進めた。

山口 希(非常勤学芸員・美術[絵画])

- (ア)a 「川俣絹布整練株式会社刊行 小林清親図使用明治43年カレンダー」(『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第51号、pp. 69-82 (31-44)、神奈川県立歴史博物館、1月)

- (イ) 「川俣絹布整練株式会社 錦絵カレンダー —2024 年資料調査報告—」（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5 月）
- (カ)c 「江戸時代の浮世絵を学ぶ」（大和市立緑野小学校、7 月 9 日）
- (キ) 常設展示、トピック展示に向け収蔵資料の情報の整理と研究を行った。また、個人の研究としては、当館所蔵の川俣絹布整練株式会社カレンダーをはじめとした明治後期に出版された錦絵の調査、ならびに公益財団法人鹿島美術財団の「美術に関する調査研究」助成を取得し、題目「杉浦非水と明治時代の雑誌図案」「書籍装幀雑誌表紙図案展覧会」展示作品を中心に」の調査研究に当たった。

(近代)

嶋村 元宏（主任学芸員・歴史）

- (ア)a 「19 世紀における日本イメージの伝播に関する一試論：ヴィルヘルム・ハイネ作大型石版画の分析を通して」（『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第 51 号、pp. 98(15)–83(30)、神奈川県立歴史博物館、1 月）
「『多声的、キャプションによる資料解説の試み—フォーラムとしてのミュージアムとパブリック・ヒストリー—」（『神奈川県博物館協会会報』第 96 号、pp. 41–45、3 月）
展示ノート「開国期における日本観の形成に関するひとつの『物語』：特別展「かながわへのまなざし」がめざしたもの」（『明治維新史研究』第 24 号、pp. 55–63、明治維新史学会、3 月）
『JSPS 科研費 JP21K00824 科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 研究成果報告書 開国期・「虚像」による日本観の形成に関する基礎的研究：その方法論を中心に』（発行：嶋村元宏、3 月）
「異文化をまなざす」（『神奈川県立歴史博物館だより』通巻 226 号、pp. 2–5、神奈川県立歴史博物館、5 月）
- (イ) 「幕末における海外情報の入手実態—鍋島茂義の場合—」（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5 月）
- (ウ) 特別展図録『かながわへのまなざし』（神奈川県立歴史博物館、8 月）
「特別展「かながわへのまなざし」子ども向けワークブック 展示室で〇〇を探そう！」（神奈川県立歴史博物館、8 月）
- (エ) 「特別展 かながわへのまなざし①虚実入交じり劇的に/ペリー上陸描く「日本遠征画集」」（『毎日新聞 神奈川版』、8 月 21 日）
「特別展 かながわへのまなざし②日本正確に認識されず/想像の「久里浜上陸」（『毎日新聞 神奈川版』、8 月 28 日）
「特別展 かながわへのまなざし③旅行ガイドの役割も/開港後の「横浜周辺外国人遊歩区域図」（『毎日新聞 神奈川版』、9 月 4 日）
「特別展 かながわへのまなざし④日本独自の技術欧米へ/世界旅行家のお買い物」（『毎日新聞 神奈川版』、9 月 11 日）
- (オ) 明治維新史学会会誌編集委員
- (カ)a 神奈川県文化財協会第 3 回見学会「特別展 かながわへのまなざし」（神奈川県立歴史博物館、8 月 28 日、29 日）
第 1 回「神奈川県立歴史博物館 特別展 かながわへのまなざし～特別展ゆかりの地を巡る～関連企画バスツアー」講師（企画・主催：株式会社旅コレクション、9 月 12 日）
第 2 回「神奈川県立歴史博物館 特別展 かながわへのまなざし～特別展ゆかりの地を巡る～関連企画バスツアー」講師（企画・主催：株式会社旅コレクション、9 月 24 日）
「土曜講座「そうだ！！博物館へ行こう！」神奈川県立歴史博物館—絵画の読み解きを通して、歴史的思考を養おう—」講師（主催：逗子開成中学校・高等学校、神奈川県立歴史博物館、9 月 14 日）
「土曜講座「そうだ！！博物館へ行こう！」神奈川県立歴史博物館—絵画の読み解きを通して、歴史的思考を養おう— 事後学習」講師（主催：逗子開成中学校・高等学校、逗子開成中学校・高等学校、12 月 12 日）
- b 特別展記念講演会「ペリー艦隊随行画家が描いたニッポン・かながわ」（8 月 18 日）
展示解説 特別展「かながわへのまなざし 学芸員と語り合おう！」（8 月 10 日、30 日、9 月 7 日）

第4回「学芸員と語り合おう！ スペシャル 嶋村元宏×ジェイソン・ペトルリス」

(9月17日) ※日英通訳付き

第5回「学芸員と語り合おう！ スペシャル 嶋村元宏×ウィリアム・スティール」

(9月26日)

「子ども向けイベント 展示室で〇〇を探そう！」講師 (8月24日)

d 青山学院大学非常勤講師 「日本史特講(9)/(10)日本開国史の諸問題」

駒澤大学非常勤講師 「情報メディア論」

多摩美術大学非常勤講師 「博物館資料論」

- (キ) 「19世紀中葉における国際秩序の変容」をメインテーマに研究を進めている。JSPS 科研費 JP21K00824 「開国期・「虚像」による日本観の形成に関する基礎的研究」を本年度迄延長し、その経過を特別展及び関連行事ならびに論文等で広く公開した。また、今後の展開を見据え海外現地調査を実施し、アジア観の形成及び伝播について研究をする上での基礎とした。

山下 春菜 (非常勤学芸員・歴史)

- (ア)a 「【未文化財】歴史資料 演説指南書は人々に何を教えたのか」(会田康範、下山忍、島村圭一編『文化財が語る日本の歴史』政治・経済編、pp. 137-148、雄山閣、5月)
- b 資料選択・解説「清瀬村に侵入する自由党、対抗する国民協会・改進黨」他24件(清瀬市編『清瀬市史』6、資料編近代、清瀬市、3月)
- (イ) 「慰霊空間と党派性—明治・大正期における佐賀の政治情勢と慰霊祭—」(調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月)
- 「明治期の衆議院議員総選挙と旧藩秩序—佐賀県における進歩党系の形成過程—」(公益財団法人鍋島報効会 第23回研究助成研究報告会、6月2日)
- (オ) 清瀬市史編さん委員(近代部会)、さいたま市史編さん委員(現代部会)
- (カ)a 「横浜の自由民権運動」(雨岳民権の会博物館見学会、6月22日)
- b ミュージアムトーク「今月の逸品」(「明治のハウツー本、演説指南書」、7月)
- c 「自由民権運動と地域社会」(川崎市立南野川小学校、11月29日)
- (キ) 館蔵資料「民権双六」や「演説指南書」を中心に、主に自由民権運動関係の調査研究を行った。また年度前期は前年度から引き続き特別展「かながわへのまなざし」の資料撮影業務の補助業務を行った。

角田 拓朗 (主任学芸員・美術〔絵画〕)

- (ア)a 『列島の日本美術史 知られざる美の交錯』(ミネルヴァ書房、3月)
- 「明治・大正・昭和戦前期図画手工教科書データベースの拡充とその活用に向けた調査研究」(科学研究費成果報告書、3月)
- (イ) One More Golden Age in the History of Japanese Lacquerware The Characteristics of Modern Export Lacquerware: The Gap Between Modern Japanese Art and Industry (Symposium: Meiji Art and Visual Culture, Chicago University, 5月)
- 「山本芳翠研究—五姓田派の絵師/画家としての位置づけ—」(調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月)
- (ウ) 特別展図録『近代輸出漆器のダイナミズム—金子皓彦コレクションの世界』(共編著、神奈川県立歴史博物館、5月)
- 『PARALLEL MODE: 山本芳翠 多彩なるヴィジュアル・イメージ』(岐阜県美術館、9月)
- (オ) 明治美術学会監事・編集委員、松戸市美術品等選定委員会委員、馬車道日曜画家展審査委員
- (カ)a 明治美術学会40周年記念シンポジウム2日目次世代研究者フォーラム「視覚文化研究をひらく—近代・日本・美術を越えて」セッションA「時代」 チェア
- b 特別展 記念講演会「近代日本 美術というあきない」(6月16日)
- (キ) 令和6年度は、担当展の実施、延長して追加調査等に注力した。その上で、5月に海外学術会議での発表があった。これまで複数年度をかけておこなった共同調査による成果のひとつとして、岐阜県美術館で企画展を開催。分担する科学研究費に関して、最終年度にあたり、報告書を刊行した。

小川 咲良（非常勤学芸員・美術〔工芸〕）

- (ア)b 「常設展からのメッセージ 眞葛焼の釉下彩について」（『ボランティアニュース』96号、pp. 1-4、11月）
- c 「当館所蔵 松本コレクションにみる三代井上良斎の特徴」（『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第51号、pp. 63-68、神奈川県立歴史博物館、1月）
「資料紹介 三代井上良斎の神奈川焼」（『神奈川県立歴史博物館だより』通巻228号、pp. 6-7、神奈川県立歴史博物館、2月）
- (イ) 「初代井上良斎と隅田焼 立体・象嵌表現について」（明治美術学会2024年度第1回例会、神奈川県立歴史博物館、4月28日）
「明治の輸出陶磁制作から個人作家へ—井上良斎の三代にわたる作陶」（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月）
「さわって比べてわかる～陶磁器作品研究の楽しさ～」（東洋陶磁学会第50回大会3ポスターセッション、東京大学本郷キャンパス、8月24日）
「明治の輸出陶磁器にみられる立体装飾について 眞葛焼・隅田焼の高浮彫の比較を中心に」（工芸史研究会令和6年度第2回研究会、オンライン、3月23日）
- (ウ) コラム「輸出漆器と輸出陶磁器の比較」、図版解説「青貝細工花鳥図薬瓶箱」ほか3件（特別展図録『近代輸出漆器のダイナミズム—金子皓彦コレクションの世界—』、神奈川県立歴史博物館、5月）
- (カ)b ミュージアムトーク「今月の逸品」（「青磁貼花牡丹文花瓶」、8月）
- (キ) 昨年度に続き館寄託資料受入れのための整理、初代から三代までの井上良斎について、横浜市内に残る三代井上良斎の登り窯での作品の実見調査、および文献調査を行った。

（現代）

武田 周一郎（学芸員・歴史）

- (ア)b 「120年目の不安—コレクション展「横浜正金銀行」の開催にあたって—」（『神奈川県立歴史博物館だより』通巻227号、pp. 6-7、神奈川県立歴史博物館、8月）
「新刊案内 鈴木晶・小川輝光・藤田賀久編『神奈川の関東大震災—100年目の視点—』」（『地方史研究』432号、pp. 66-67、地方史研究協議会、12月）
- (イ) 「横浜歴史GISの構築と発信—1880年代の関内地区を対象に—」（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月）
「吉田初三郎・作「神奈川県鳥瞰図」の構図をCGで再現する」（新井田秀一氏と共同発表、日本地図学会2024年度定期大会、日本大学経済学部、8月25日）
「神奈川の関東大震災100年」（首都圏形成史研究会第130回例会、専修大学神田キャンパス、9月14日）
- (ウ) 首都圏形成史研究会常任委員、歴史地理学会編集委員、同評議員、同常任委員
- (カ)a 神奈川県文化財協会第7回見学会「コレクション展 本店本館創建120周年記念 「横浜正金銀行」」（神奈川県立歴史博物館、12月18日、19日）
- b ミュージアムトーク「今月の逸品」（「第三管区海上保安本部の「横浜港図」」、9月）
建物見学会「旧横浜正金銀行本店本館を観る」（11月17日、24日）
- c 「身近な地域の現代史」（横須賀市立常葉中学校、7月11日）
- (キ) 主に館蔵現代資料を対象として調査を進め、コレクション展「おひろめ!」及び「横浜正金銀行」を共同で担当した。また、科研費の研究課題として特に鳥瞰図に関する調査に取り組んだ。

（民俗）

新井 裕美（主任学芸員・民俗）

- (イ) 「多摩川流域の民俗—流域の開発・生業・治水・災害・信仰—多摩川流域における雨乞い習俗について」（調査研究成果報告会、神奈川県立歴史博物館、5月28日）

- (ウ) 「富岡八幡宮の湯立神楽」 (『(特別展図録) 慶珊寺と富岡八幡宮の名宝—『大般若経』が語る中世東国史—』、pp. 70-71、神奈川県立金沢文庫、2月)
- (オ) 秦野市文化財保護委員会委員
- (カ) a 特別講演会「金沢区の特色ある民俗事象について」 (神奈川県立金沢文庫、3月9日)
 - b 「博物館の展示ができるまで」 (神奈川大学国際日本学部、5月25日)
 - 「教員のための博物館講座」 (7月24日)
 - 夏休み子ども向け体験ワークショップ「石臼をまわしてみよう」 (7月28日)
 - 夏休み子ども向け体験ワークショップ「糸車をまわしてみよう」 (8月12日)
 - ボランティアフォローアップ研修「博物館の防災と当館の設備について」 (8月23日)
 - ミュージアムトーク「今月の逸品」 (「三浦市初声町三戸のセイトッコの活動とオミヒメサマ」、1月)
 - c 「博物館・学芸員の仕事」 (湘南白百合学園中学校、5月21日)
 - 「昔の道具を調べよう」 (神奈川県立横浜南支援学校小学部、1月24日)
 - 「昔の道具を調べよう」 (横浜市立浜小学校、1月28日)
 - 「昔の道具を調べよう」 (川崎市立南野川小学校、1月31日)
- (キ) 多摩川流域の民俗として、流域の開発・生業・治水・災害・信仰など多彩な視点がある。今年はその中でも多摩川流域の雨乞い習俗に着目し、事例を収集して分析を試みた。
県内の祭礼の現状を撮影して編集を行った。その成果は民俗展示室を充実させるためのグラフィックパネルに追加した。

三浦 麻緒 (非常勤学芸員・民俗)

- (ア) b 「神奈川県立歴史博物館の民俗展示室—映像コーナーについて—」 (『神・人・自然』第4号、pp. 64-69、「神・人・自然」研究会、10月)
- (イ) 「高座郡小出村遠藤の山講について—慶応3年～昭和35年の「山講中連名控帳」から—」 (調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月)
- (オ) 相模民俗学会運営委員
- (カ) b ミュージアムトーク「今月の逸品」 (「山の神講」、2月)
 - c 「昔の台所と食べ物」 (横浜国立大学附属特別支援学校中学部、11月26日)
 - 「昔の台所と食べ物」 (逗子市立逗子小学校、1月17日)
- (キ) 館所蔵の民俗資料の整理のほか、常設展示室のグラフィックパネル作成のために神奈川県内の祭礼行事の調査と記録撮影を行った。個人の研究としては、藤沢市遠藤の山の神講についての調査研究に取り組んだ。

市野 悦子 (非常勤学芸員・教育普及)

- (ア) b 「THE けんぱく PUNCH 博物館公用車ドライバーの仕事」 (『神奈川県立歴史博物館だより』通巻226号、p. 8、神奈川県立歴史博物館、5月)
 - 「THE けんぱく PUNCH 博物館休館のお知らせ」 (『神奈川県立歴史博物館だより』通巻227号、p. 8、神奈川県立歴史博物館、8月)
 - 「THE けんぱく PUNCH パンチの守からのご報告～館長トークを行いました。」 「2025年4月～6月の催し物情報」 (『神奈川県立歴史博物館だより』通巻228号、p. 8、神奈川県立歴史博物館、2月)

4 資料収集・修理・保管・利用

〈凡例〉

ア 購入、 イ 原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換、 ウ 修理、 エ 貸出、 オ 特別利用、
カ その他

(1) 考古資料

イ 原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換

(寄贈)

No.	資料名	寄贈主	寄贈年月日	数量
1	石鏃・手帳（森野コレクション）	個人	令和6年7月3日	2件130点
合計				2件130点

(借用)

No.	資料名	当初借用年月日	返却年月日	数量
1	壺（神奈川県立横須賀高等学校裏山遺跡）他	平成7年2月10日	-	1件3点
2	灰釉陶器碗（上浜田遺跡）他	平成30年4月12日	-	108件232点
合計				109件235点

エ 貸出

No.	資料名	申請者・目的	利用方法	利用期間	数量
1	小林幸雄氏コレクション	横浜市鶴見区役所・横浜市末吉地区センター1F ロビー 地域の文化財に対する啓発	展示	令和6年4月1日 ～令和7年3月31日	1件72点
2	埴輪 人物（女子半身像） 土偶レプリカ4点	横浜人形の家 企画展「ひとはなぜひとがたをつくるのか」に展示するため	展示	令和6年4月6日 ～6月30日	2件5点
3	間口洞穴遺跡 貝鏃 間口洞穴遺跡 骨鏃 間口洞穴遺跡 鏃形牙器 吉井城山横穴 鳴鏑	大田区立郷土博物館 特別展「矢を放て！」に展示するため	展示	令和6年10月8日 ～12月1日	4件7点
4	「桐蔭学園」縄文土器片・弥生土器片	大正大学 博物館実習での整理のため	洗浄・ 注記・ 接合	令和6年10月26日～ 令和7年2月28日	一括
5	埴輪（円筒）	神奈川県埋蔵文化財センター 3階 資料管理閲覧室に常設展示するため	展示	令和6年11月1日～ 令和7年3月31日	1件1点
6	三浦市間口洞穴出土 猪骨	個人・調査研究のため	資料の 炭素・ 窒素安 定同位 体分析 (資料 破壊を 含む)	令和6年12月10日 ～令和7年1月31日	1件4点

7	土製頭部片	横浜美術館 企画展「おかえり、ヨコハマ」に 展示するため	展示	令和7年2月8日 ～6月2日	1件1点
合計					10件90点他

オ 特別利用

No.	資料名	申請者・目的	利用 方法	利用期間	数量
1	三浦市間口洞窟遺跡出土動物遺体	個人・調査研究のため	学会 発表 での 画像 利用	令和6年7月5・6日	一括
2	毘沙門洞穴鹿角製品	個人・調査研究のため	熟覧 実測 撮影	令和6年8月28日	1件13点
3	三浦市間口洞窟遺跡出土動物遺体（動物骨）	個人・調査研究のため	熟覧 実測 撮影	令和6年11月8日	一括
合計					1件13点他

(2) 歴史資料

ア 購入

No.	資料名	概要	規格・寸法	数量
1	北条家朱印状	弘治四年（1558）	本紙（28.7 cm×38.8 cm）	1件1点
合計				1件1点

イ 原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換

(寄贈)

No.	資料名	寄贈主	寄贈年月日	数量
1	正友会旧蔵資料	正友会	令和6年4月16日	1件126点
2	石井泰助関係資料	個人	令和6年4月16日	1件28点
3	〔横浜正金銀行員三澤恭哉書簡〕	個人	令和6年4月18日	1件1点
4	〔横浜正金銀行員北島光二宛葉書〕	個人	令和6年4月18日	1件4点
5	軍隊手牒	個人	令和6年4月18日	1件2点
6	石井泰助書 徳川家康遺訓	個人	令和6年6月14日	1件1点
7	脇差 無銘（藤島）	個人	令和6年6月25日	1件1点
8	西巻豊佐久関係資料	個人	令和6年11月15日	1件266点
9	長崎剛十郎関係資料	個人	令和6年11月15日	1件130点
10	八木和子関係資料（ピアノ・ミシン）	個人	令和6年11月15日	1件2点
合計				10件561点

(寄託)

No.	資料名	当初寄託年月日	数量
1	帝政ロシア製32ポンド砲(旧居留地90番出土の大砲)	平成16年2月1日	1件1点
2	長谷川氏所蔵文書	平成23年2月17日	1件22点
3	岩松家文書	平成25年2月1日	210件350点

4	稲葉正則書状 他	平成30年7月1日	2件2点
5	栗木全図 他	令和5年8月6日	2件2点
6	三浦郡関係資料 他（椎橋文雄氏収集資料）	令和5年11月22日	2件405点
7	密教聖教類	令和6年6月1日	1件69点
8	脇差 銘「相州住廣次作」	令和6年7月10日	1件1点
9	横浜銀行協会関係資料	令和6年10月1日	1件1726点
合計			221件 2578点

(借用)

No.	資料名	当初借用年月日	返却年月日	数量
1	烏帽子形兜	昭和43年10月22日	-	1件1点
2	古瀬戸瓶子	昭和45年9月1日	-	1件1点
3	関山家文書	昭和47年9月8日	-	1件24点
4	久崎家文書 他	昭和47年9月13日	-	11件197点
5	瀬戸四耳壺 他	昭和48年7月1日	-	3件3点
6	渥美灰釉壺 他	昭和48年10月1日	-	1件6点
7	本多家文書	昭和49年3月1日	-	1件953点
8	嘆願書	昭和52年3月23日	-	1件1点
9	生麦村新地実測図(神奈川県令中島信行宛) 他	昭和52年12月1日	-	1件5点
10	舊荻野山中建物之繪図 他	昭和53年12月1日	-	1件19点
11	寺井家文書 他	昭和55年2月15日	-	11件16点
12	散弾銃	昭和55年4月1日	-	1件1点
13	羽柴秀吉知行充行状 天正十一年六月五日付	昭和58年5月20日	-	1件1点
14	平本家文書	昭和58年10月14日	-	1件1,309点
15	黒船来航絵巻	平成4年5月15日	-	1件1点
16	日月鳳凰螺鈿鞍	平成4年11月1日	-	1件1点
17	旧小田原城天守閣模型	平成5年12月15日	-	1件1点
18	辰御年貢可納割付之事 他	平成6年7月20日	-	2件2点
19	享保十四年九月酉之内検見引櫓 他	平成6年10月7日	-	22件23点
20	中国青磁碗 線描き蓮弁文 他	平成18年6月1日	-	1件50点
21	旧横浜正金銀行本店本館改修工事関係資料	平成20年9月1日	-	1件7点
22	旧横浜正金銀行本店本館彩色立面図 他	平成22年10月15日	-	1件119点
23	銅造 明治天皇立像 他	平成23年12月15日	-	1件3点
合計				67件 2,744点

エ 貸出

No.	資料名	申請者・目的	利用 方法	利用期間	数量
1	神奈川県鳥瞰図	府中市美術館 令和 6 年度企画展「Beautiful Japan 吉田初三郎の世界」に展示するため	展示	令和6年5月18日 ～7月7日	4件4点
	神奈川県観光図絵				
	箱根名所図絵				
	関東震災全地域鳥瞰図				
2	北条氏康判物	横浜市歴史博物館 「北条幻庵—横浜小机城と関東の戦国—(仮)」展(令和7年度)にかかると共同調査研究のため	資料 の調 査撮 影	令和6年12月26日～ 令和8年3月16日	6件6点
	北条氏政書状(源三殿宛)				
	北条氏政書状(遠山新四郎殿宛)				
	北条氏規掟書				
	船手形朱印状				
	北条氏政書状(治部少輔殿宛)				
合計					10件10点

オ 特別利用

No.	資料名	申請者・目的	利用 方法	利用期間	数量
1	桜井家文書	個人・調査研究のため	熟覧 撮影	令和 6 年 4 月 3 日	5 件 18 点
	金子家文書				
	曾我師助書下				
	土屋宗直軍忠状				
	左衛門尉頼季請文				
2	神奈川県庁新庁舎敷地内から出土した切石の壁	個人・調査研究のため	資料 画像 論文 掲載	令和 6 年 4 月 20 日	1 件 1 点
3	平本家文書 村政 27「俗名酒依清十郎信興御出棺御行烈諸御入用控帳」(当館借用資料)	個人・調査研究のため	資料 画像 書籍 掲載	令和 6 年 9 月 13 日	2 件 2 点
	平本家文書 村政 28「同右葬列控」(断簡綴) (当館借用資料)				
4	正智遺稿記念帖	個人・調査研究のため	熟覧 撮影	令和 6 年 11 月 20 日	2 件 15 点
	積塵雑記				
5	横は満みやけ	個人・調査研究のため	熟覧	令和 6 年 11 月 27 日	1 件 1 点
6	小田原城天守閣木組模型(当館借用資料) 一部部材	小田原市・調査研究のため	計測 撮影	令和 6 年 12 月 4 日	一括
7	帝政ロシア製 32 ポンド砲(当館寄託資料)	個人・調査研究のため	実測 撮影 論文 掲載	令和 6 年 12 月 17 日	1 件 1 点
8	小田原城天守閣木組模型(当館借用資料)	小田原市・調査研究のため	熟覧 計測 撮影	令和 7 年 2 月 12 日～ 2 月 25 日のうち 9 日間	1 件 1 点
合計					13 件 39 点

(3) 美術資料

ア 購入

No.	資料名	概要	規格・寸法	数量
1	松本民治 観音図	明治前期	本紙 (127.8 cm×50.2 cm)	1 件 1 点
合計				1 件 1 点

イ 原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換

(寄贈)

No.	資料名	寄贈主	寄贈年月日	数量
1	印判奉書 (本山免状)	個人	令和6年4月26日	1 件 3 点
2	大倉孫兵衛旧蔵錦絵画帖	個人	令和6年8月14日	2 件 9 点
3	毘沙門天立像 山崎朝雲作	個人	令和6年9月6日	1 件 1 点
4	出山釈迦図 伝幸翁 (直翁) 筆	個人	令和6年9月25日	1 件 1 点
合計				5 件 14 点

(寄託)

No.	資料名	当初寄託年月日	数量
1	重要文化財 木造他阿真教坐像	平成17年5月24日	1 件 1 点
2	束帯天神像 他	平成21年4月24日	1 件 12 点
3	巖中周璽賛 渡唐天神像 他	平成21年8月1日	76 件 88 点
4	眞葛焼 (高浮雕南天ニ鶉花瓶 他)	平成22年3月1日	37 件 53 点
5	潘閬図 右都御史筆	平成25年7月2日	1 件 1 点
6	齋藤俊吉氏旧蔵作品群	平成27年6月18日	1 件 63 点
7	仁阿弥道八作焼締急須 銘阿治王 他	平成27年6月26日	1 件 9 点
8	一遍他阿真教像 他	平成28年3月25日	6 件 6 点
9	渡辺幽香 山崎勢威子肖像	平成31年3月1日	1 件 1 点
10	絵瀬戸草文輪花皿 他	平成28年6月24日	26 件 68 点
11	近代絵画作品群	平成29年3月1日	37 件 37 点
12	下村観山筆 闘鶏 他	平成29年5月1日	11 件 15 点
13	本多錦吉郎 鍾馗図	平成30年4月1日	1 件 1 点
14	初代五姓田芳柳 婦人像 他	平成31年4月1日	18 件 21 点
15	新生紙パルプ商事株式会社寄託作品	平成31年5月31日	49 件 55 点
16	鐔 奈良利寿作	令和元年11月15日	1 件 1 点
17	蝶耳人物花鳥図香炉 他	令和元年11月15日	5 件 7 点
18	極彩色鳳凰花瓶	令和元年11月15日	1 件 2 点
19	彭城貞徳 海景図	令和2年4月1日	1 件 1 点
20	短刀 (ワーグマン使用)	令和3年3月1日	1 件 1 点
21	井上良斎関係資料	令和3年11月1日	1,063 件 1,657 点
22	井上良斎陶磁器	令和5年5月27日	17 件 18 点
23	山水図 伝江西龍派筆	令和5年7月25日	1 件 2 点
24	脇差 銘「相州住廣次作」	令和6年7月23日	1 件 1 点
25	金子皓彦コレクション	令和6年8月30日	1 件 169 点
26	伊良保写茶碗	令和6年10月1日	1 件 1 点
27	重要文化財 張良図沈金鞍	令和6年11月20日	1 件 1 点
28	静岡県指定文化財 王の舞面	令和6年12月27日	1 件 1 点
合計			1,362 件 2,293 点

(借用)

No.	資料名	当初借用年月日	返却年月日	数量
1	県指定重要文化財 紙本墨画淡彩 十六羅漢図 他	昭和44年3月1日	-	2件17点
2	県指定重要文化財 絹本著色 熊野権現影向図	昭和44年3月1日	-	1件1点
3	県指定重要文化財 絹本著色 両界曼荼羅図 他	昭和44年7月1日	-	1件37点
4	常滑印花文壺 他	昭和48年3月1日	-	11件12点
5	東海道図屏風	昭和49年7月1日	-	1件2点
6	絹本著色 七星如意輪曼荼羅図 他	昭和50年6月1日	-	1件24点
7	横浜浮世絵	昭和52年1月10日	-	1件473点
8	張交屏風	昭和52年7月15日	-	1件2点
9	県指定重要文化財 木造薬師如来坐像	昭和56年2月25日	-	1件1点
10	大小暦コレクション	昭和59年4月1日	-	1件40点
11	鴉図(以天宗清筆) 他	昭和63年7月7日	-	2件2点
12	江島金沢八景図屏風 他	平成4年12月1日	-	1件4点
13	本牧風景 他	平成5年6月15日	-	2件2点
14	鶴岡八幡宮境内出土品の内 板草履の芯 他	平成7年3月1日	-	8件19点
15	俵藤太絵巻 他	平成12年5月1日	-	2件6点
16	喜多川歌麿 好色十二候 他	平成12年12月20日	-	1件12点
17	箱根権現縁起絵巻 付 納入箱	平成13年8月1日	-	1件2点
18	賀茂真淵筆 伊勢物語古意 他	平成28年9月20日	-	12件20点
合計				50件676点

ウ 修理

No.	資料名	(備考)	数量
1	脇差	赤羽刀No. 1474、官報2700、銘「相州住助廣」	1件1点
2	脇差	赤羽刀No. 4331、官報1743、銘「廣政」	1件1点
3	初代五姓田芳柳《井田譲像》	絹本著色・額装	1件1点
4	初代五姓田芳柳《西洋老婦人図》	絹本著色・パネル装	1件1点
合計			4件4点

エ 貸出

No.	資料名	申請者・目的	利用方法	利用期間	数量
1	『横浜諸会社諸商店之図』井村彦次郎陶器店	横須賀美術館 企画展「驚異の細密表現展—江戸・明治の工芸から現代アートまで—」に展示するため	展示	令和6年4月20日～ 6月23日	11件20点
	『横浜諸会社諸商店之図』井村陶器画工場				
	『横浜諸会社諸商店之図』眞葛香山				
	井村彦次郎《山水花鳥人物図カップ&ソーサー》				
	初代 宮川香山《高浮彫水禽遊泳ランプ台》(当館寄託資料)				

1	初代 宮川香山《高浮彫桜ニ群鳩花瓶》(当館寄託資料)				
	初代 宮川香山《高浮彫長命茸採取花瓶》(当館寄託資料)				
	初代 宮川香山《高浮彫風神雷神花瓶》(当館寄託資料)				
	初代 宮川香山《高浮彫四窓遊蛙獅子蓋付壺》(当館寄託資料)				
	初代 宮川香山《紫釉盛絵杜若花瓶》(当館寄託資料)				
	初代 宮川香山《彩磁紫陽花透彫花瓶》(当館寄託資料)				
2	富士三十六景 駿河薩夕之海上	すみだ北斎美術館 特別展「北斎 グレートウェーブ・インパクト―神奈川沖浪裏の誕生と軌跡―」に展示するため	展示	令和6年6月18日 ～8月25日	4件4点
	本朝名所 相州七里ヶ浜				
	江の島参詣の図				
	江の島富士遠望				
3	平清盛怪異を見る図	那珂川町馬頭広重美術館 特別展「広重と国芳―同い年の絵師が描く、幕末浮世絵ワールド―」に展示するため	展示	令和6年7月6日 ～9月8日	10件10点
	南天竺班足太子 金毛九尾白面ノ狐				
	名所江戸百景 亀戸梅屋舗				
	雲上の大輪の月に雁三羽				
	源頼光公館土蜘蛛妖怪図				
	流行逢都絵希代稀物				
	東都名所 両国柳ばし				
	賢勇婦女鏡 中将姫				
	賢勇婦女鏡 近江金女				
	山海目出たい図会 くせが直したい 相州鯉魚釣				
4	(中天竺馬爾加国出生の大象)	静岡県東海道広重美術館 企画展「出張！日本平動物園 帰ってきた うきよえどうぶつ館」に展示するため	展示	令和6年7月30日 ～10月6日	4件4点
	人間万事愛婦美八卦意 駄 花鳥茶屋の夕照				
	横浜商家異人之図 天竺産尾長猿 一名ヲ ヲヲウタン				
	両国之虎豹乃生写略画				
5	寄木細工飾棚 (当館寄託資料)	大和市文化創造拠点シリウス 特別展「金子皓彦コレクション 知られざる寄木細工の世界」に展示するため	展示	令和6年9月7日 ～9月16日	31件48点
	寄木細工ライティングビューロー (当館寄託資料)				
	寄木細工飾棚 (当館寄託資料)				
	寄木細工屏風 (当館寄託資料)				
	寄木細工小箆筥 (当館寄託資料)				
	寄木細工花鳥図ネストテーブル (当館寄託資料)				
	寄木細工手元箆筥 (当館寄託資料)				
	寄木細工蒔絵銘木硯箱 (当館寄託資料)				
	寄木細工旅枕 (当館寄託資料)				

5	寄木細工レターボックス（当館寄託資料）				
	寄木細工レターボックス（当館寄託資料）				
	寄木青貝細工入子盆（当館寄託資料）				
	寄木細工盆（当館寄託資料）				
	寄木細工蒔絵入子硯蓋（当館寄託資料）				
	寄木細工蒔絵雀図宝石箱（当館寄託資料）				
	寄木細工文箱（当館寄託資料）				
	寄木細工文箱（当館寄託資料）				
	寄木細工文箱（当館寄託資料）				
	木象嵌富士図シガー&シガレットケース（当館寄託資料）				
	木象嵌牡丹に蝶図箱（当館寄託資料）				
	木象嵌牡丹に孔雀図箱（当館寄託資料）				
	木象嵌富士図箱（当館寄託資料）				
	木象嵌富士図ひみつ箱（当館寄託資料）				
	木象嵌水車小屋図箱（当館寄託資料）				
	木象嵌トランプケース（当館寄託資料）				
	木象嵌絵葉書（当館寄託資料）				
	寄木細工波に鶴図宝石箱（当館寄託資料）				
	木象嵌寄木細工硯箱（当館寄託資料）				
	寄木細工宝石箱（当館寄託資料）				
	寄木細工蒔絵桃に鳥図硯箱（当館寄託資料）				
	木象嵌騎牛帰家図硯箱（当館寄託資料）				
6	横浜波止場ヨリ海岸通異人館之真図	鹿沼市立川上澄生美術館 特別企画展「文明開化のニッポン 浮世絵師が描いた明治」に展示するため	展示	令和6年9月14日 ～11月17日	6件6点
	横浜亜三番商館繁栄之図				
	横浜海岸通り之真景				
	チャリネ大曲馬御遊覧ノ図				
	大日本婦人束髪図解				
	東京往来車盡				
7	浮絵東都 日本橋小田原町魚市之図	渋谷区立松濤美術館 特別展「空の発見」に展示するため	展示	令和6年9月14日 ～11月10日	10件10点

7	名勝八景 富士暮雪 下仙元從 宮中宿全図				
	名勝八景 玉川秋月 玉川鮎波 の図				
	木曾海道六拾九次之内 洗馬				
	東海道五拾三次之内 蒲原 夜 之雪				
	金沢八景 瀬戸秋月				
	近江八景 石山秋月				
	名所江戸百景 真乳山山谷堀夜 景				
	高祖御一代略図 九月十三夜依 智星降				
	諸国名所百景 東都青山百人町 星燈籠				
8	山本芳翠《神戸港》	岐阜県美術館 企画展「皇居三の丸尚蔵館特別 協力 PARALLEL MODE:山本芳翠 —多彩なるヴィジュアル・イメ ージ—」に展示するため	展示	令和6年9月27日 ～12月8日	7件7点
	山本芳翠《虹》				
	山本芳翠《婦女横笛図》				
	山本芳翠《印度洋覧》				
	山本芳翠《議會風景》				
	山本芳翠《富士山》				
	山本芳翠《虎》				
9	東都名所高輪廿六夜待遊興之図	MIHO MUSEUM 特別展「うまいうるはし日本の 食事（たべごと）」に展示するた め	展示	令和6年9月28日 ～12月15日	1件1点
10	東京府中橋通街之図	静岡県富士山世界遺産センター 特別展「転回点 幕末から明治へ —移動する徳川家茂、和宮、明治 天皇、そして彼らのみた富士山 —」	展示	令和6年9月28日 ～11月4日	3件3点
	其二 東京府京橋之図				
	其三 東京府銀座通之図				
11	大日如来坐像 横浜市寶生寺所 蔵（当館借用資料）	鎌倉国宝館 特集展示「鎌倉の伝運慶仏」に展 示するため	展示	令和6年10月19日 ～12月1日	3件3点
	阿弥陀如来坐像				
	阿弥陀如来立像				
12	巢父図 梅隠筆	サントリー美術館 「儒教のかたち こころの鏡 日本美術に見る儒教」に展示す るため	展示	令和6年11月27日 ～12月27日	5件6点
	三教図扇面 方外印				
	虎溪三笑図 啓孫筆				
	四季耕作図屏風 前島宗祐筆				
	四季耕作図屏風 狩野探幽筆				
13	薬師如来坐像 保木薬師信徒会 所蔵（当館借用資料）	横浜市歴史博物館 長期休館にともなう一時保管の ため	保管 ・展示	令和6年12月3日～ 令和8年11月30日	1件1点
14	草花禽虫写生図巻（卷子）1巻	東京国立近代美術館 下村観山展（令和7年度）にか かる共同調査研究のため	資料の 調査 および 研究、 撮影	令和6年12月11日～ 令和8年3月16日	154件154点 他
	小下画集（卷子）1巻				
	小下画集（卷子）1巻				
	印譜（卷子）1巻				
	意馬心猿図（軸）1幅				

14	山水図断片、女性頭部の図ほか (封筒入り、マクリ) 6 点			
	双六 (軸) 1 幅			
	西行 (軸) 1 幅			
	画稿貼込帳 (冊子) 1 冊			
	滞欧期スケッチブック (冊子) 1 冊			
	図案集 (和綴本) 1 冊			
	スクラップブック (冊子) 1 冊			
	和田英作《下村観山肖像》(額) 1 点			
	模本「熊谷直彦筆『日光地取』卷 一」(冊子) 2 分冊			
	模本「熊谷直彦筆『日光地取』卷 二」(冊子) 1 冊			
	模本「熊谷直彦筆『日光地取』卷 三」(冊子) 1 冊			
	模本「熊谷直彦筆『日光地取』卷 四」(冊子) 1 冊			
	模本「熊谷直彦筆『日光地取』卷 五」(冊子) 1 冊			
	模本「熊谷直彦筆『日光地取』卷 六」(冊子) 1 冊			
	模本「熊谷直彦筆『日光地取』卷 七」(冊子) 1 冊			
	斎藤千代氏婚礼時の写真 (二つ 折りの台紙に貼付) 1 点 (当館 寄託資料)			
	大礼服写真 (デュープ) 1 点			
	筆 一式			
	刷毛 一式			
	木炭 一式			
	硯 1 点			
	筆洗 (正方形、木製蓋と目録付) 1 点			
	粉絵具 一式			
	すり石棒 一式			
	絵具溶き皿 一式			
	アーサー・モリソンより受贈の 印 (朱肉、箱付) 一式			
	観山ロンドンより母上に送りし 便 (マクリ) 1 点			
	依頼美術審査委員会委員被免辞 令 (大正 3 年 8 月 22 日) (封筒 入り) 1 点			
	留学申報書 (封筒入り) 2 点			
	東京美術学校教授任命状 (明治 34 年 9 月 20 日) (封筒入り) 1 点			

14	留学出発辞令（封筒入り） 1 点			
	文部省外国留学生表ほか（封筒入り）一式			
	留学始末書草稿（複数枚綴、封筒入り） 1 点			
	明治神宮奉賛会壁画調整委員任命辞令（大正 12 年 8 月 18 日）（封筒入り） 1 点			
	常会優等賞札（封筒入り） 2 点			
	東京美術学校日本画家第三年担任任命書（明治 35 年 1 月 31 日）（封筒入り） 1 点			
	助教授依願免官辞令（明治 31 年 6 月 4 日）（封筒入り） 1 点			
	辞職御願（明治 31 年 3 月 26 日）（封筒入り） 1 点			
	写生帳／日本美術史講義ノート断片（封筒入り、冊子） 1 冊			
	日本美術院規則（封筒入り、冊子） 4 冊			
	下絵（白狐ほか）（封筒入り、マクリ・綴じ本）一式			
	観山大礼服写真（封筒入り、台紙貼付） 1 点			
	観山写真 晩年ほか（封筒入り、台紙貼付） 1 点			
	院葬の辞（木村武山）（封筒入り） 1 点			
	名刺類、欧州旅行中の切符、領収書等（封筒入り）一式			
	日本美術院組合契約書（封筒入り、綴じ本） 1 冊			
	借用証（清水源泉堂、孚水画廊より下村観山）（封筒入り） 1 点			
	観山画会会則 足利 下村観山画会（封筒入り） 1 点			
	浮世絵展覧会依頼 大隈伸常より下村観山（封筒入り） 1 点			
	天心書簡集（卷子） 1 巻			
	天心芳墨集（卷子） 1 巻			
	英国留学任命書 文部大臣菊池大麓より下村観山（封筒入り） 1 点			
	旅券			
	任命書 東京美術学校助教授（明治 27 年 3 月 6 日）（封筒入り） 1 点			

14	第一回文展審査委員任命書（明治40年8月13日）（封筒入り） 1点				
	免官書 東京美術学校教授（明治41年8月29日）（封筒入り） 1点				
	死後の後始末につき口上書（？） （封筒あり、綴り紙）1点				
	書簡 川端龍子より下村観山宛 （封筒あり）1点				
	誰が袖図裂地貼付屏風（仮）（屏風・四曲一隻）1点				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号1～9				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号11～13				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号15				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号17～18				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号20～22				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号24				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号26				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号28～45				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号47～49				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号51～58				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号60～74				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号303				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号307～310				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号334				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号338				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号341				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号352				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号354～361				

14	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号 363～365				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号 379				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号 398				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号 405～407				
15	長崎青貝細工ビューロー（当館 寄託資料）	箱根ガラスの森美術館 企画展「煌めきの競演 ガラス と貝細工、神秘の色彩」（令和 7 年度）に展示するため	展示	令和 6 年 12 月 23 日～ 令和 8 年 1 月 12 日	5 件 5 点
	青貝細工手元簞笥 （当館寄託 資料）				
	長崎青貝細工花蝶図箱 （当館 寄託資料）				
	横浜青貝細工 花鳥図額一対 （当館寄託資料）				
	横浜芝山漆器花蝶図飾盆 （当 館寄託資料）				
16	和装姿の米婦人	横浜市歴史博物館 企画展「横浜絵（仮）」展（令和 8 年度）にかかる共同調査研究の ため	資料 の調 査撮 影	令和 6 年 12 月 26 日～ 令和 8 年 3 月 16 日	18 件 21 点
	国府台風景図屏風				
	嘉兵衛義孝肖像				
	鶴沢作次郎肖像				
	賀来夫妻像				
	山崎勢威子像				
	西脇清十郎像				
	山内市郎治				
	藻谷伊作君故民女真像				
	街道（保土ヶ谷宿）				
	西洋婦人図				
	井田譲像				
	寸陰漫稿				
	高浮彫南天ニ鶉花瓶（当館寄託 資料）				
	高浮彫群鳩飛来花瓶（当館寄託 資料）				
	高浮彫葡萄ノ蔓ニ蜂ノ巣花瓶 （当館寄託資料）				
	高浮彫風神雷神花瓶（当館寄託 資料）				
	高浮彫長命茸採取花瓶（当館寄 託資料）				
17	五姓田一家之図	横浜美術館 企画展「おかえり、ヨコハマ」に 展示するため	展示	令和 7 年 2 月 8 日 ～6 月 2 日	3 件 3 点
	渡辺幽香像				
	老母図				
合計					276 件 306 点 他

オ 特別利用

No.	資料名	申請者・目的	利用 方法	利用期間	数量
1	蘆葉達磨図 祖栄筆	個人・調査研究のため	熟覧 撮影	令和6年6月5日	1件1点
2	平家物語図屏風	個人・調査研究のため	熟覧 撮影	令和6年8月24日	3件4点
	源平合戦図屏風				
	王哀図 石樵昌安筆				
3	東京名所三十六花撰（二代歌川 広重）	個人・調査研究のため	熟覧 採寸 撮影	令和6年10月2日	1件37点
4	農家耕作之図 歌川貞秀筆	個人・調査研究のため	閲覧 撮影	令和6年10月30日	3件6点
	四季耕作図屏風 狩野探幽筆				
	四季耕作図屏風 前島宗祐筆				
5	無題（二美人）	個人・調査研究のため	熟覧 撮影	令和6年11月12日	28件28点
	大文字屋内 一茂登				
	画				
	無題（山姥と金太郎）				
	無題（母と子）				
	青楼仁和嘉 里雀月宵中				
	無題（美人図）				
	松葉屋内之花				
	北廓全盛競 大文字屋内 一も と				
	相州鎌倉七里浜風景				
	若那屋内しら玉 かをる とめき				
	青楼七小町 玉屋内明石 うら 次 しま野				
	教訓親の目鑑 浮気者				
	武者絵 武田信玄と上杉謙信				
	朝鮮美人の歌舞を見る加藤清正				
	船遊び両国花火見物				
	南天に小鳥				
	孟宗竹の生花				
	陸奥玉川				
	当世子供六哥仙 文屋康秀				
	水門に鵜				
	柳下牛に乗り笛吹く牧童				
	柳に燕二羽				
	子抱き梅見美人				
	葡萄 歌麿筆				
	画本虫撰				
	雪中柳の老樹に白鷺				
	新吉原仁和嘉 女芸者之部 伊 達模様 五ツ廬				

6	菩薩半跏（遊戯）坐像 附像内納入品（布製五臓六腑等） （県指定重要文化財）	個人・調査研究のため	熟覧、 写真撮 影及び 蛍光エ ックス 線分析	令和6年11月29日	1件1点
合計					37件77点

(4) 民俗資料

イ 原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換

(寄贈)

No.	資料名	寄贈主	寄贈年月日	数量
1	石臼	個人	令和7年2月5日	3件4点
	糸車			
	座繰			
合計				3件4点

(寄託)

No.	資料名	当初寄託年月日	数量
1	ダイカイ 他	平成27年5月14日	2件3点
合計			2件3点

(借用)

No.	資料名	当初借用年月日	返却年月日	数量
1	お食初め膳 他	昭和46年10月23日	-	1件3点
2	燭台	昭和47年3月6日	-	1件1点
3	長持 他	昭和47年3月6日	-	1件2点
4	お歯黒の道具	昭和47年3月11日	-	1件1点
5	天狗の面 他	昭和48年2月27日	-	1件3点
6	帳場格子 他	昭和48年3月2日	-	1件15点
7	結納樽	昭和48年4月1日	-	1件1点
8	お馬板、ツノダル	昭和48年8月20日	-	1件3点
9	鏡台と鏡 他	昭和49年4月26日	-	1件5点
10	獅子頭 他	昭和54年3月1日	-	1件11点
11	婚礼用具	昭和54年3月1日	-	1件2点
12	足踏み脱穀機 他	平成6年4月15日	-	2件2点
13	渡辺紳一郎時計コレクション	平成28年7月1日	-	1件22点
合計				14件71点

オ 特別利用

No.	資料名	申請者・目的	利用 方法	利用期間	数量
1	お峰入り DVD 動画	個人・調査研究のため	学会 での 映像 放映	令和6年12月1日	3件3点
	国府祭 DVD 動画				
	鹿島踊り DVD 動画				

2	轆轤	個人・調査研究のため	熟覧 撮影	令和6年12月20日	5件5点
	手廻し轆轤				
	轆轤				
	弓旋盤				
	足踏旋盤				
合計					8件8点

(5) 写真資料

令和6年度写真撮影資料

ア 特別展図録用

かながわへのまなざし

仮面絢爛—中世音楽と芸能があらわす世界—

再開館後の特別展

イ コレクション展示用

おひろめ！—新しく博物館の仲間になったモノたち—

本店本館創建 120 周年記念 横浜正金銀行

ウ その他

当館所蔵資料、文化財保護ポスター 他

(6) 資料の燻蒸等

IPM(総合的病害虫管理 Integrated Pest Management)に基づき、日常的には「予防」の観点から資料保存活動を進めている。年に2回、文化財害虫調査ならびに空中浮遊菌調査を実施し、文化財害虫の生息状況やカビの発生危険度の把握に努めている。展示室等の空気改善に向けて、空気質環境調査を実施した。本年度は展覧会出品予定資料および新収蔵資料等に対し、6～7月と12月に炭酸ガス燻蒸を行った。

(7) その他資料の利用

ア 図書

令和6年度図書資料の状況は次のとおりである。全国の博物館・美術館等からの寄贈も多く、当館の貴重な資料として活用されている。

受入種別	受入			除籍数	総数	ライブラリー 公開数
	購入	寄贈	合計数			
図 書(冊)	0	390	390	0	24,183	4,950
図 録(冊)	0	521	521	0	19,459	899
埋蔵文化財発掘調査報告書	0	2,322	2,322	0	3,425	0
逐次刊行物(タイトル)	24	17	—	0	2,622	83

※逐次刊行物はタイトル数で、寄贈は新規のみの数値。誌名変更等による新規書誌作成分を含む。

イ 写真

展示・調査研究資料として、収蔵資料を中心に撮影したフィルム 132,898 件とデジタルカメラデータ 53,146 件を保存し、データベース化するとともに、写真の特別利用として貸出を行っている。

特別利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	23	11	17	21	19	15	23	22	19	17	21	13	221
点数	52	13	49	87	29	36	42	28	43	18	31	57	485

ウ 情報システム

(ア) システム整備の目的と背景

- a 学習の支援
- b 高度な知的ニーズへの対応
- c 博物館活動の活性化、効率化
- d 研究活動の高度化
 - (a) 各種アプリケーションの利用
 - (b) 博物館が所有する情報の活用
- e 情報公開

博物館の再編整備の方向（「県立博物館整備構想に関する提言」昭和 63 年度）

- (a) 高度情報化社会における自然・文化の情報センター
- (b) 映像資料等、新しい形態の資料の収集・保存と活用の拠点
- (c) 内外の博物館、学習文化施設等とのネットワークの拠点

(イ) システム開発と運用

- a システム基本設計・詳細設計 平成 5 年度
- b システム運用開始 平成 7 年度
- c システム更新 平成 13、18、23、28 年度、令和 4 年度

(ウ) 稼動しているシステム

- a 展示情報システム（デジタルミュージアム）の内容

ミュージアムライブラリーに設置された 2 台の来館者用端末と Web ページで提供している（No.2 絵馬、No.5 水墨画、No.12 収蔵コレクションは、来館者用端末のみで提供）。一部資料については高精細拡大画像も提供している。

No.	タイトル	内容
1	浮世絵	博物館所蔵の約 7,000 点ある浮世絵の中から、浮世絵の歴史、神奈川を描いた浮世絵、横浜浮世絵、著名な浮世絵師たち、一枚の絵から見る江戸時代の風俗など、テーマごとに選択した 230 点の浮世絵を紹介。
2	絵馬	神奈川県でよく見ることが出来る絵馬や珍しい絵馬など 125 点を紹介。
3	関東大震災	震災時の惨状等を伝える写真資料 70 点を紹介。
4	古地図・絵地図	当館収蔵の古地図の中から 50 点を紹介。館内端末では拡大画像により、細部まで見る事が可能。
5	水墨画	平成 10 年度に開催した水墨画の特別展に出品された作品の中から代表的な作品 85 点を紹介。
6	横浜正金銀行	かつて世界三大為替銀行の一つに数えられた横浜正金銀行の写真資料 221 点を紹介。
7	眞葛焼	かつて世界に名を知られた横浜のやきものの中から 46 点を紹介。
8	鎌倉彫	館蔵品の鎌倉彫の中から 32 点を紹介。
9	後北条氏関係文書	戦国大名北条氏の多様な文書の世界を人物などととも 118 点を紹介。
10	東海道分間絵図	東海道の情景を描いた道中案内記(1 件 5 冊)を紹介。拡大画像により、細部まで見る事が可能。

11	県有形民俗文化財 職人の道具コレクション	神奈川県指定有形民俗文化財「神奈川の職人の道具コレクション」(17 職種 1,982 点)のうち、大山木地師、小田原物差職人、下駄職人、傘職人の道具など、338 点を紹介。
12	収蔵コレクション	収蔵データベースの一部について、概要を一覧形式で提供する。 考古 206 点、中世文書 96 点、彫刻 14 点、中世絵画 80 点、 浮世絵 288 点、近代歴史資料 260 点、近代絵画 156 点、民俗 306 点
計 2,722 点		

b デジタルアーカイブの内容

収蔵資料管理システムに登録されている当館所蔵資料のデータベースを、当館 HP で検索・閲覧できるように令和 4 年 10 月より公開。令和 7 年 3 月末現在で約 49,400 件の収蔵資料情報を公開している。

c 業務システムの内容

- (a) 収蔵資料管理システム：収蔵品管理機能、画像登録機能、受入管理機能、特別利用管理運用機能、各種帳票ラベル出力機能
- (b) 図書システム：蔵書の登録管理機能、蔵書情報の検索機能

(エ) システム構成

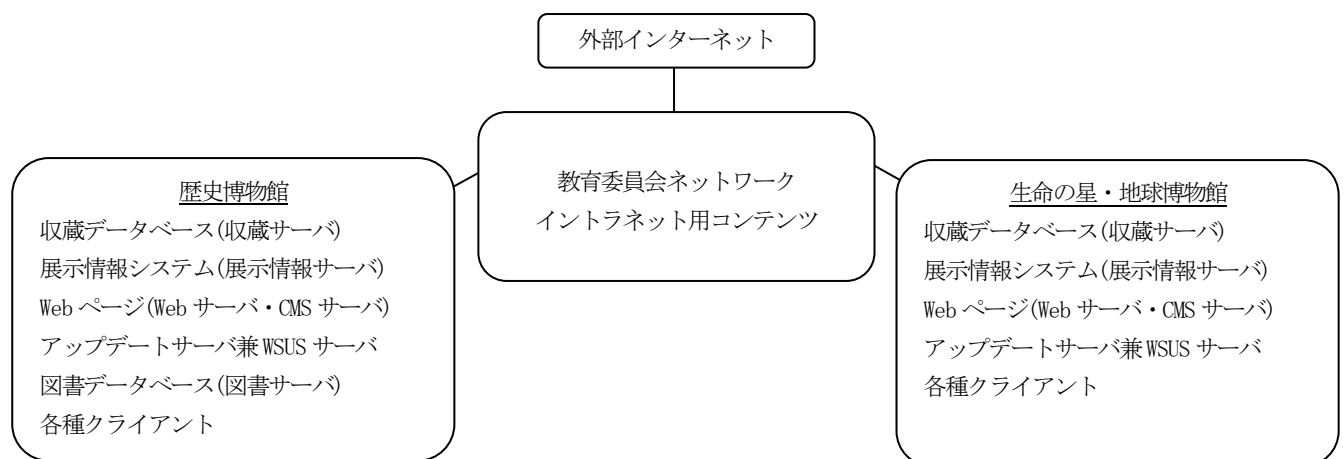
a 概要

館内 LAN 及び広域イーサネットを利用したサーバクライアントシステム

b 設置機器

- (a) サーバ室
ファイルサーバ等
- (b) ミュージアムライブラリー
来館者用パソコン、レファレンス用パソコン
- (c) 保存修復処置室／印刷室
画像入力用パソコン
- (d) 学芸部室・学芸部各資料整理室・管理課室・企画情報部室・図書整理室・写真整理室・写場
各室作業用パソコン

(オ) 歴史博物館システム機器構成図



(カ) ホームページアクセス件数 (再掲)

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
HP	291,817	653,533	1,698,348	341,026	350,264	386,492	343,297	400,000	290,377	257,307	378,548	311,713	5,702,722

参考 (内数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
デジタル ミュージアム	1,094	1,377	1,122	1,189	1,275	1,234	1,177	1,224	4,012	918	870	809	16,301
デジタル アーカイブ	5,553	10,775	9,601	7,926	12,723	11,241	8,998	8,481	6,349	11,214	5,559	4,411	102,831

5 展示・教育普及・学習支援・他機関との連携

(1) 総合テーマ展示（常設展）

ア 常設展の概要

当館の常設展示は「文化の交流と変容」という基本テーマに基づき、「かながわの文化と歴史」について、五つの時代に分け、それぞれのテーマのもとに、人々の生活や信仰、政治や経済の変化、外来文化の影響などを、さまざまな角度からとらえ、歴史的視点で展開している。

テーマ1 さがみの古代に生きた人びと

- ・大地に生きる狩人
- ・海への進出
- ・米づくり、はじまる
- ・古墳を築く
- ・都とさがみの国

テーマ2 都市鎌倉と中世びと

- ・鎌倉・相模・東国
- ・源頼朝と東国武士団
- ・戦国大名後北条氏
- ・掘り起こされた鎌倉
- ・唐物とその影響
- ・民衆と仏教

テーマ3 近世の街道と庶民文化

- ・宿場と関所
- ・庶民信仰と名所めぐり
- ・村の支配と生活
- ・相武の産物と江戸

テーマ4 横浜開港と近代化

- ・蒸気船が導いた新たな時代
- ・世界へ開かれたみなとYOKOHAMA
- ・文明開化の音
- ・近代化と神奈川
- ・横浜正金銀行
- ・横浜浮世絵
- ・かながわの近代絵画
- ・輸出工芸と横浜のやきもの

テーマ5 現代の神奈川と伝統文化

- ・関東大震災を越えて
- ・昭和恐慌と社会変化
- ・戦時体制と敗戦
- ・占領から講和へ
- ・高度経済成長と環境の変化
- ・変貌するムラとマチ
- ・イエと暮らし
- ・暮らしの中の祈り
- ・なりわいと儀礼
- ・伝承される技術と芸能

イ 常設展の展示替えと「トピック展示」の実施

常設展の展示資料のうち実物資料については、資料保存の観点から定期的な展示替えを行っており、資料整理休館日を中心に500件以上の展示替えを実施した。また、特定の小テーマによる「トピック展示」を随時行っており令和6年度は下記の通り実施した。

「清親から安治へ 師弟の描く光線画」2月17日～4月2日（担当 非常勤学芸員 山口希）

「描かれた街道」第一期 3月26日～6月5日（担当 学芸員 寺西明子）

「歌川国貞 風景への挑戦」4月3日～5月15日（担当 企画普及課長 桑山童奈）

「雨の浮世絵事典」5月16日～7月3日（担当 非常勤学芸員 山口希）

「描かれた街道」第二期 6月6日～8月23日（担当 学芸員 寺西明子）

「新紙幣発行記念 北斎が描いた美しい日本」7月4日～8月20日（担当 企画普及課長 桑山童奈）

「浮世絵とうつわ 染付」8月21日～10月1日（担当 非常勤学芸員 山口希）

「裁許絵図」8月24日～9月27日（担当 非常勤学芸員 根本佐智子）

「海の村の年貢」9月28日～11月22日（担当 学芸員 寺西明子）

「よむ浮世絵！百人一首」10月2日～11月21日（担当 非常勤学芸員 山口希）

「蔦屋重三郎の時代」11月22日～12月27日（担当 企画普及課長 桑山童奈）

「旗本の家」11月23日～12月27日（担当 非常勤学芸員 根本佐智子）

ウ 展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」

スマートフォン用の展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」を導入し、常設展および特別展で活用している。音声4言語（日本語・英語・中国語・韓国語）、文字5言語（日本語・英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語）及び画像による解説をしている。常設展の日本語・英語の音声解説は県内の高校生がナレーションをしており、令和5年度には、日本語の音声解説に新項目を追加した。

また、神奈川県立平塚盲学校と連携し、視覚障がいのある方がイメージを喚起しやすい文字解説を作成して、その文字解説を放送部に所属する県内の高校生が読み上げる音声解説を提供している。

(2) 特別展

ア 「近代輸出漆器のダイナミズム—金子皓彦コレクションの世界—」

会 期：4月27日（土）～ 6月30日（日）

主 催：神奈川県立歴史博物館

後 援：横浜芝山漆器研究会、静岡市産業振興課、箱根町教育委員会、明治美術学会、一般社団法人日本漆工協会、神奈川新聞社、朝日新聞横浜総局、毎日新聞社横浜支局、読売新聞横浜支局、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、共同通信社横浜支局、時事通信社横浜総局、tvk、ラジオ日本、FM ヨコハマ、J:COM

助 成：令和6年度芸術文化振興基金

展示資料件数：189 件

入 場 者 数：14,752 名（有料7,175 名、無料7,577 名）

担 当：学芸員 鈴木 愛乃、主任学芸員 角田 拓朗

概 要：日本の漆器がもつ滑らかで深みのある黒の質感、そこに施される蒔絵や螺鈿といった装飾の繊細な輝きは、古くは中世から世界の人々を魅了してきた。安政6(1859)年に横浜が開港し西洋との貿易が本格化すると、漆器は主要な輸出品になる。小箱やアルバムの表紙などの小さな土産物から、衝立や飾棚といった大型家具に至る様々なものが大量に作られ、海を渡った。西洋人の需要に応じて制作されたこれらの輸出漆器は、いずれも国内向けに作られたものとは異なる用途、意匠をもち、和洋の文化と嗜好が融合して生まれたデザインは、伝統的な漆器とは異なる魅力をたたえている。横浜は、そんな輸出漆器の中心地であった。国内各地で生産された漆器が集められ、輸出される貿易港だったためである。さらに、各地から漆器商や職人たちが移り住み、近代では有数の漆器の産地ともなっていく。なかでも貝や象牙を立体的に象嵌する芝山細工をほどこした漆器は、その花形だった。このように、各地で新たな展開を迎えた漆器は、近代の輸出工芸の大きな柱の一つに成長していった。本展覧会は、近代輸出工芸のコレクター・金子皓彦氏のコレクションを中心に構成される。なかでも芝山漆器や、静岡・会津などの産地で制作され、横浜を通じて海外へ渡った輸出漆器を中心に紹介する。あわせて、同時代に漆器と括られることもあった、寄木細工や木象嵌などの輸出向けの木工芸も展示する。知られざる近代輸出漆器の全貌に触れ、その魅力を発信するとともに、神奈川県における伝統工芸や地場産業を見直す機会とする。

関 連 行 事：・記念講演会「近代輸出工芸と私のコレクション」5月12日

・記念講演会「展覧会ができるまで—産地への旅と金子皓彦コレクションの修復—」
5月19日

・記念講演会「近代日本 美術というあきない」6月16日

・子ども向けワークショップ「麦わら細工で額絵を作ろう」5月4日

・子ども向けワークショップ「寄木細工のコースターを作ろう」5月5日

・現地見学会「横浜家具をめぐる山手西洋館ツアー」5月16日

・実演「芝山細工の実演」5月24日

・実演「木象嵌の実演」6月1日

・学芸員による展示解説 5月18日、6月7日、8日、9日、15日、22日、23日、29日、30日

・夜間開館展示解説 6月12日

出 品 目 録：（凡例）出品番号、作品・資料名称、作者等、材質・技法、制作年・制作年代、所蔵
 ・作品・資料名称は、従来の金子皓彦コレクションの表記等に準拠した。ただし一部改めたものもある。
 ・制作年・制作年代は、明らかになる場合、推定ができる場合のみ記載した。
 ・材質・技法は、伝承ならびに実見調査に基づく。

P-1	寄木細工飾棚 木、漆、寄木細工 明治5年頃 金子皓彦コレクション		皓彦コレクション
P-2	芝山細工飾棚 木、漆、芝山細工、蒔絵、木彫 金子皓彦コレクション	1-17	芝山細工飾棚 木、漆、芝山細工、蒔絵、木彫 金子皓彦コレクション
P-3	芝山細工藤に鯉図屏風 木、漆、芝山細工、蒔絵、木彫 金子皓彦コレクション	1-18	芝山細工飾棚 木、漆、芝山細工、蒔絵、木彫 金子皓彦コレクション
P-4	寄木細工ライティングビューロー 木、漆、寄木細工、木彫 金子皓彦コレクション	1-19	芝山細工桜に鷹図屏風 木、漆、芝山細工、透き絵、木彫 金子皓彦コレクション
1-1	芝山細工富士風俗図アルバム 木、漆、芝山細工、蒔絵、金子皓彦コレクション	1-20	芝山細工藤と紅葉に鳩図屏風 木、漆、芝山細工、木彫 金子皓彦コレクション
1-2	蒔絵菊に雀図アルバム 木、漆、蒔絵 金子皓彦コレクション	1-21	芝山細工檜に鷹図屏風 木、漆、芝山細工、木彫 金子皓彦コレクション
1-3	芝山細工藤に鶏図アルバム 木、漆、芝山細工、蒔絵、透き絵 金子皓彦コレクション	1-22	芝山細工花鳥図屏風 木、ボール紙、漆、芝山細工、透き絵、木彫 金子皓彦コレクション
1-4	芝山細工牡丹に鶏図オルゴールアルバム 木、漆、芝山細工、青貝細工、錫箔 金子皓彦コレクション	1-23	芝山細工藤に鳩図屏風 木、漆、芝山細工、蒔絵 金子皓彦コレクション
1-5	青貝細工風俗図アルバム 木、漆、蒔絵、青貝細工、錫箔 金子皓彦コレクション	1-24	芝山細工桜に雉図屏風 木、漆、芝山細工、蒔絵 金子皓彦コレクション
1-6	芝山細工梅に鷹図飾額 木、漆、芝山細工、透き絵 金子皓彦コレクション	1-25	芝山細工豊年満作図屏風 木、漆、芝山細工、蒔絵 金子皓彦コレクション
1-7	芝山細工富士に雉図飾額 木、漆、芝山細工、透き絵 金子皓彦コレクション	1-26	芝山細工花鳥図屏風 木、漆、芝山細工、透き絵、蒔絵 金子皓彦コレクション
1-8	芝山細工桜に尾長鶏図飾額 木、漆、芝山細工、透き絵 金子皓彦コレクション	1-27	芝山細工紅葉に大鷹図屏風 木、漆、芝山細工、蒔絵、木彫 金子皓彦コレクション
1-9	芝山細工桜に鷹図飾額 木、漆、芝山細工、透き絵 個人	1-28	芝山細工風俗図飾棚 木、漆、芝山細工 金子皓彦コレクション
1-10	芝山細工梅に雉図飾額 木、漆、芝山細工、透き絵 金子皓彦コレクション	1-29	芝山細工小箆筥 木、漆、芝山細工 金子皓彦コレクション
1-11	芝山細工双鷹図額 木、漆、芝山細工、透き絵 金子皓彦コレクション	1-30	芝山細工梅に小鳥図箱 木、漆、芝山細工、透き絵 金子皓彦コレクション
1-12	芝山細工婦人図額 木、漆、芝山細工、透き絵、木彫 金子皓彦コレクション	1-31	芝山細工藤に小鳥図箱 木、漆、芝山細工、透き絵 金子皓彦コレクション
1-13	芝山青貝細工富士風俗図飾額 木、漆、芝山細工、青貝細工、蒔絵、透き絵 金子皓彦コレクション	1-32	蒔絵花鳥風景図箱 木、漆、芝山細工、透き絵 金子皓彦コレクション
1-14	芝山細工富士山形風俗図壁飾 木、漆、芝山細工、透き絵 金子皓彦コレクション	1-33	芝山細工花虫図盆 木、漆、芝山細工 金子皓彦コレクション
1-15	芝山宗明関係資料 芝山昌能氏 ①パリ万国博覧会出品工芸作家集合写真 鶏卵紙、台紙付 明治33年（1900）頃 ②東京彫工会会員証 紙本墨書 明治26年（1893） ③東京彫工会第五回競技会賞状 紙本墨書 明治23年（1890） ④日本美術協会美術展覧会賞状 紙本墨書 明治25年（1892）	1-34	芝山細工花鳥図飾皿 金属、芝山細工 金子皓彦コレクション
1-16	芝山細工飾棚 木、漆、芝山細工、蒔絵、木彫 金子皓彦コレクション	1-35	芝山細工人物図チョコレート箱 木、漆、芝山細工、透き絵、蒔絵 金子皓彦コレクション
		1-36	芝山細工牡丹図衝立 木、漆、芝山細工、木彫 金子皓彦コレクション
		1-37	芝山細工花籠図額 木、漆、芝山細工、木彫 金子皓彦コレクション
		1-38	芝山細工菊に蝶図飾額 木、漆、芝山細工、木彫 金子皓彦コレクション

1-39 芝山細工牡丹に蝶図飾額 木、漆、芝山細工、木彫
金子皓彦コレクション

1-40 芝山細工花籠図小簞笥 象牙、木、芝山細工 金子
皓彦コレクション

1-41 象牙細工象置物 象牙、水晶、芝山細工 金子皓彦
コレクション

2-1 寄木細工飾棚 木、漆、寄木細工、蒔絵 金子皓彦
コレクション

2-2 寄木細工ライティングビューロー 木、寄木細工
金子皓彦コレクション

2-3 寄木細工ライティングビューロー 木、寄木細工、
木象嵌 金子皓彦コレクション

2-4 寄木細工飾棚 木、寄木細工、木彫 金子皓彦コレク
ション

2-5 寄木細工飾棚 木、寄木細工、木彫 金子皓彦コレク
ション

2-6 寄木細工飾棚 木、寄木細工、木彫 金子皓彦コレク
ション

2-7 寄木細工飾棚 木、寄木細工 金子皓彦コレクション

2-8 寄木細工小飾棚 木、寄木細工 金子皓彦コレクション

2-9 寄木細工屏風 木、寄木細工、木彫 金子皓彦コレク
ション

2-10 寄木細工簾扉付書架 木、寄木細工 金子皓彦コレク
ション

2-11 寄木細工小簞笥 木、寄木細工、木象嵌 金子皓彦
コレクション

2-12 寄木細工簞笥 木、寄木細工 金子皓彦コレクション

2-13 寄木細工棚 木、寄木細工 金子皓彦コレクション

2-14 日本百景（其五） 紙、写真銅版印刷 金子皓彦コレ
クション

2-15 寄木細工花鳥図ネストテーブル 木、漆、寄木細工、
蒔絵 金子皓彦コレクション

2-16 寄木細工チェステーブル 木、寄木細工 金子皓彦
コレクション

2-17 寄木細工飾簞笥 木、漆、寄木細工、青貝細工 金子
皓彦コレクション

2-18 寄木細工蒔絵松に鷹図小簞笥 木、漆、寄木細工、
蒔絵 金子皓彦コレクション

2-19 寄木青貝細工花鳥図小簞笥 木、漆、寄木細工、青貝
細工 金子皓彦コレクション

2-20 寄木細工小簞笥 木、漆、寄木細工、蒔絵 金子皓彦
コレクション

2-21 寄木細工蒔絵富士図簞笥 木、漆、寄木細工、蒔絵
金子皓彦コレクション

2-22 寄木細工手元簞笥 木、寄木細工 金子皓彦コレク
ション

2-23 寄木細工飾簞笥 木、漆、寄木細工、蒔絵 金子皓彦
コレクション

2-24 寄木細工家形簞笥 木、寄木細工 金子皓彦コレク
ション

2-25 寄木細工蒔絵銘木硯箱 木、漆、寄木細工、蒔絵
金子皓彦コレクション

2-26 寄木細工旅枕 木、寄木細工 金子皓彦コレクション

2-27 寄木細工レターボックス 木、漆、寄木細工、蒔絵、
青貝細工 金子皓彦コレクション

2-28 寄木細工レターボックス 木、漆、寄木細工、蒔絵
金子皓彦コレクション

2-29 寄木細工レターボックス 木、漆、寄木細工 金子
皓彦コレクション

2-30 寄木青貝細工入子盆 木、漆、寄木細工、青貝細工
金子皓彦コレクション

2-31 寄木細工盆 木、漆、寄木細工 金子皓彦コレク
ション

2-32 寄木細工蒔絵入子硯蓋 木、漆、寄木細工、蒔絵、
変塗 金子皓彦コレクション

2-33 寄木細工蒔絵雀図宝石箱 木、漆、寄木細工、蒔絵
金子皓彦コレクション

2-34 寄木細工文箱 木、漆、寄木細工、蒔絵 金子皓彦
コレクション

2-35 寄木細工文箱 木、寄木細工 金子皓彦コレクション

2-36 寄木細工文箱 木、寄木細工 金子皓彦コレクション

2-37 木象嵌抱一画貼交屏風 木、木象嵌、木彫 金子皓彦
コレクション

2-38 木象嵌富士図シガー&シガレットケース 木、木象嵌
金子皓彦コレクション

2-39 箱根細工製作用具（国指定登録有形民俗文化財）
箱根町立郷土資料館
①手動大型鉋 ②足踏み式糸鋸

2-40 木象嵌牡丹に蝶図箱 木、木象嵌 金子皓彦コレク
ション

2-41 木象嵌牡丹に孔雀図箱 木、木象嵌 金子皓彦コレク
ション

2-42 木象嵌富士図箱 木、木象嵌 金子皓彦コレクション

2-43 木象嵌富士図ひみつ箱 木、木象嵌 金子皓彦コレク
ション

2-44 木象嵌水車小屋図箱 木、木象嵌 金子皓彦コレク
ション

2-45 木象嵌トランプケース 金子皓彦コレクション
①(天板トランプ文、内箱回転開き) 木、木象嵌
②(菱つなぎ文、引き出し縦二段) 木、木象嵌
③(天板ダイヤのキング文、蝶番開き) 木、木象嵌
④(側面富士風景図、引き出し縦二段) 木、木象嵌
⑤(天板トランプ文、スライド式) 木、木象嵌

2-46 蒔絵トランプケース 金子皓彦コレクション
①(蒔絵トランプ文、口波形) 木、漆、蒔絵
②(蒔絵トランプ文、側面葵紋) 木、漆、蒔絵
③(蒔絵トランプ文、側面巴文) 木、漆、蒔絵
④(金属板装飾、葵紋) 木、漆、蒔絵

2-47 木象嵌絵葉書 木、紙、木象嵌 金子皓彦コレク
ション

2-48	三井常蔵商店資料 金子皓彦コレクション 前掛け 布	3-18	蒔絵菊に小鳥文箱 木、漆、変塗、蒔絵 金子皓彦 コレクション
2-49	ハリマ屋資料 金子皓彦コレクション ①荷印型付板（箱根物産 ハリマ屋）金属 ②荷印型付板（F・W・WOOLWORTH CO・STORE） 金属 ③荷印型付板（BSCO NEWYORK） 金属 ④荷印型付板（MADE IN JAPAN） 金属	3-19	蒔絵鶴図団扇形小箱 木、漆、透き絵、蒔絵 金子 皓彦コレクション
2-50	鍵和田商店資料 金子皓彦コレクション ①昭和二年五月九日付大和商会覚書 紙、印刷、ペン ほか ②昭和七年三月三日付大和商会覚書 紙、印刷、ペン ほか ③昭和七年九月二十二日付丹波商会註文書 紙、印刷、 ペンほか ④昭和七年三月一日付中村貿易商会註文書 紙、印刷、 ペンほか	3-20	蒔絵牡丹図扇形小抽斗 木、漆、青貝細工、蒔絵 金子皓彦コレクション
3-1	大鷲猿捕獲図蒔絵屏風 木、漆、蒔絵、透き絵 金子 皓彦コレクション	3-21	蒔絵花鳥図手袋入れ 木、漆、透き絵、蒔絵 金子 皓彦コレクション
3-2	透き絵菊に鶴図屏風 木、漆、蒔絵、透き絵 金子皓彦 コレクション	3-22	蒔絵花鳥図手袋入れ 木、漆、蒔絵 金子皓彦コレ クション
3-3	蒔絵獅子牡丹図簞笥 木、漆、寄木細工、蒔絵 金子 皓彦コレクション	3-23	蒔絵花鳥図手袋入れ 木、漆、透き絵、蒔絵 金子 皓彦コレクション
3-4	蒔絵富士山群鶴図小簞笥 木、漆、透き絵、蒔絵、変塗 金子皓彦コレクション	3-24	蒔絵和歌浦山水煙草盆セット 木、漆、蒔絵、青貝 細工 昭和30年代 個人
3-5	蒔絵花鳥図小簞笥 木、漆、透き絵、蒔絵 金子皓彦 コレクション	3-25	蒔絵雛道具 金子皓彦コレクション ①蒔絵山水鶴図簞笥 木、漆、蒔絵 ②蒔絵菊に鳥図簞笥 木、漆、蒔絵 ③蒔絵枝垂れ桜に鳥図簞笥 木、漆、蒔絵 ④蒔絵桜に鳥図丸小箱 木、漆、蒔絵
3-6	蒔絵竹に雀図小簞笥 木、漆、蒔絵 金子皓彦コレ クション	3-26	風景図飾額 木、漆、蒔絵 金子皓彦コレクション
3-7	蒔絵武具古銭図小簞笥 木、漆、蒔絵 金子皓彦コレ クション	3-27	富士図隅棚 木、漆、合成樹脂塗料 金子皓彦コレ クション
3-8	蒔絵花鳥果実図棚 木、漆、蒔絵、変塗 金子皓彦 コレクション	3-28	富士図隅棚 木、漆、合成樹脂塗料 金子皓彦コレ クション
3-9	漆塗り見本帖 木、紙、漆、蒔絵、寄木細工、変塗 静岡市産業振興課	3-29	蒔絵花鳥図カップ&ソーサー 木、漆、蒔絵 金子皓 彦コレクション
3-10	『少年工藝文庫第十四編 漆器の巻』 石井研堂（著） 桐谷洗鱗（画）、博文堂 紙、印刷、冊子、袋付 明治 36年（1903） 個人	3-30	蒔絵山水図カップ&ソーサー 木、漆、蒔絵 金子 皓彦コレクション
3-11	寄木細工波に鶴図宝石箱 木、漆、寄木細工、蒔絵 金子皓彦コレクション	3-31	変塗古銭図カップ 木、漆、蒔絵、変塗 金子皓彦 コレクション
3-12	木象嵌寄木細工硯箱 木、漆、寄木細工、木象嵌、 蒔絵、変塗 金子皓彦コレクション	3-32	蒔絵梅に尾長鶏図カクテルセット 木、漆、蒔絵 金子皓彦コレクション
3-13	蒔絵吉祥文様ゲーム箱 木、漆、蒔絵、変塗 金子 皓彦コレクション	3-33	沈金菊唐草図カクテルグラスセット 木、漆、沈金 金子皓彦コレクション
3-14	蒔絵扇散らし図箱 木、漆、蒔絵、卵殻塗 金子皓彦 コレクション	3-34	漆絵一輪挿 木か、漆、蒔絵 金子皓彦コレクション
3-15	蒔絵鶴図宝石箱 木、漆、透き絵、蒔絵 金子皓彦 コレクション	3-35	キリスト教教具 昭和20年代 金子皓彦コレクション ①木象嵌キリスト教教具キリスト像図壁掛 木、木象嵌 ②円形磔刑像壁掛け 木、漆、蒔絵 ③キリスト教教具聖書書見台 木、漆、蒔絵 ④金属象嵌葡萄文十字架 木、漆、蒔絵 ⑤漆絵衝立付十字架立 木、漆、蒔絵 ⑥十字架立 木、漆、蒔絵
3-16	青貝細工椿に鴨図箱 木、漆、青貝細工、蒔絵 金子 皓彦コレクション	3-36	青貝細工花鳥図ライティングビューロー 木、漆、青貝 細工、蒔絵 金子皓彦コレクション
3-17	蒔絵花鳥図箱 木、漆、蒔絵 金子皓彦コレクション	3-37	青貝細工蘭亭曲水図手元簞笥 木、漆、青貝細工 金子 皓彦コレクション
		3-38	青貝細工富士風俗図屏風 木、漆、青貝細工、透き絵、 蒔絵 金子皓彦コレクション
		3-39	貝象嵌孔雀図屏風 木、漆、貝細工 金子皓彦コレ クション

3-40	青貝細工梅に尾長鶏図額 木、漆、青貝細工、透き絵、蒔絵 金子皓彦コレクション	皓彦コレクション
3-41	青貝細工花鳥図薬瓶箱 木、漆、青貝細工、色絵磁器 江戸時代末～明治時代 金子皓彦コレクション	3-67 富士日本地図アルバム 木、漆、合成樹脂塗料 金子皓彦コレクション
3-42	青貝細工山水図ゲームセット 木、漆、青貝細工 金子皓彦コレクション	3-68 富士日本地図アルバム 木、漆、合成樹脂塗料 金子皓彦コレクション
3-43	青貝細工花鳥図レターボックス 木、漆、青貝細工 金子皓彦コレクション	I-1 寄木細工宝石箱 木、漆、寄木細工 金子皓彦コレクション
3-44	鼈甲細工鷹図箱 木、漆、鼈甲細工、蒔絵 金子皓彦コレクション	I-2 竹細工小簞笥 木、竹細工 金子皓彦コレクション
3-45	鼈甲細工蒔絵花鳥図小簞笥 木、漆、鼈甲細工、芝山細工、蒔絵 金子皓彦コレクション	I-3 麦わら細工小野道風図箱 木、麦わら細工 金子皓彦コレクション
3-46	鼈甲細工蒔絵花鳥図小簞笥 木、漆、鼈甲細工、蒔絵 金子皓彦コレクション	I-4 麦わら細工菊花図箱 木、麦わら細工 金子皓彦コレクション
3-47	鼈甲象牙細工万物斉同図飾棚 木、漆、鼈甲細工、象牙細工、蒔絵 金子皓彦コレクション	I-5 鏡台 木、寄木細工 金子皓彦コレクション
3-48	磁胎蒔絵獅子図花瓶 陶磁器、漆、蒔絵 金子皓彦コレクション	I-6 小抽斗 木、寄木細工 金子皓彦コレクション
3-49	蒔絵桜に鳥図花瓶 陶磁器、漆、蒔絵 金子皓彦コレクション	I-7 八角小箱 木、寄木細工 金子皓彦コレクション
3-50	蒔絵葡萄に鳥図花瓶 陶磁器、漆、蒔絵 金子皓彦コレクション	I-8 上絵金彩人物図壺 保土田太吉 陶磁器 金子皓彦コレクション
3-51	蒔絵鶴図花瓶 木、漆、蒔絵 金子皓彦コレクション	I-9 黒地菊図大花瓶 七宝 金子皓彦コレクション
3-52	漆絵巖島神社図盆 木、漆、錫箔 金子皓彦コレクション	I-10 麦わら細工シガー&シガレットケース 木、麦わら細工 金子皓彦コレクション
3-53	蒔絵桜図盆 木、漆、蒔絵 金子皓彦コレクション	I-11 竹細工家屋雛形 竹、木 金子皓彦コレクション
3-54	蒔絵桜に鳥図盆 木、漆、蒔絵 金子皓彦コレクション	I-12 寄木細工蒔絵桃に鳥図硯箱 木、寄木細工 文久2年(1862) 金子皓彦コレクション
3-55	蒔絵鴛鴦図盆 木、漆、蒔絵、錫箔 金子皓彦コレクション	I-13 西村莊一郎 木象嵌騎牛帰家図硯箱 木、木象嵌 明治前期 金子皓彦コレクション
3-56	蒔絵枝垂れ桜に鳥図盆 木、漆、蒔絵 金子皓彦コレクション	E-1 芝山細工花鳥図屏風 内山利八、広瀬英太郎、原栄次郎、荒井彦次郎、宮崎正徳、宮崎輝生、瀬川清一、瀬川昌也 木、漆、芝山細工、青貝細工、透き絵、木彫、蒔絵 昭和45年(1970) 神奈川県産業労働局 中小企業部中小企業支援課小田原駐在事務所(工芸技術所)
3-57	絵富士蝶図長手盆 木、漆、蒔絵、透き絵 金子皓彦コレクション	E-2 寄木細工「宝石箱」 篠田英治 木、寄木細工 平成28年(2016) 作家
3-58	蒔絵朝顔図角盆 金属、漆、蒔絵 金子皓彦コレクション	E-3 寄木細工「ちいさい秘密箱」 篠田英治 木、寄木細工 平成25年(2013) 作家
3-59	牡丹図トレイ ベークライト、漆か 個人	E-4 寄木細工「寄木小箱」 篠田英治 木、寄木細工 令和4年(2022) 作家
3-60	富士図オルゴール付アルバム 木、漆、合成樹脂塗料、青貝細工 金子皓彦コレクション	E-5 木象嵌「寄り添う薔薇」 浅野慶太 木、木象嵌 令和5年(2023) 作家
3-61	富士図オルゴール付アルバム 木、漆、合成樹脂塗料、青貝細工 金子皓彦コレクション	E-6 木象嵌「風神雷神図」 浅野慶太 木、木象嵌 令和4年(2022) 作家
3-62	富士図オルゴール付アルバム 木、漆、合成樹脂塗料 金子皓彦コレクション	E-7 木象嵌「浮揚の竜神」 浅野慶太 木、木象嵌 令和5年(2023) 作家
3-63	富士人力車図アルバム 木、漆、合成樹脂塗料、青貝細工 金子皓彦コレクション	E-8 鎌倉彫洋蘭図オルゴール箱 フジオルゴール製 木、漆、木彫 昭和30年代 個人
3-64	富士日本地図アルバム 木、漆、合成樹脂塗料 金子皓彦コレクション	E-9 蒔絵鶴図宝石箱 エンゼルオルゴール製 木、漆、木彫 昭和30年代 個人
3-65	富士と鷹図アルバム 木、漆、合成樹脂塗料 金子皓彦コレクション	E-10 『輸出向工芸品参考資料』 商工省貿易庁商工省工芸指導所編 紙、印刷、冊子 昭和22年(1947) 個人
3-66	富士と城郭図アルバム 木、漆、合成樹脂塗料 金子皓彦コレクション	

- E-11 芝山細工鷺に桜図漆額 宮崎輝生 木、漆、芝山細工、蒔絵 平成25年(2013)頃 作家
- E-12 芝山細工月下美人漆額 宮崎輝生 木、漆、芝山細工 平成25～29年(2013～17)頃 作家

- E-13 芝山細工山吹図漆額 宮崎輝生 木、漆、芝山細工 平成19年(2007) 作家

イ 「かながわへのまなざし」

会 期：8月10日(土)～ 10月6日(日)

主 催：神奈川県立歴史博物館

後 援：神奈川新聞社、朝日新聞横浜総局、毎日新聞社横浜支局、読売新聞横浜支局、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、共同通信社横浜支局、時事通信社横浜総局、NHK 横浜放送局、tvk(テレビ神奈川)、ラジオ日本、FM ヨコハマ、J:COM

助 成：令和6年度地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業

展示資料件数：95件

入 場 者 数：10,238名(有料6,135名、無料4,103名)

担 当：主任学芸員 嶋村 元宏

概 要：世界一周も夢ではなくなり、グローバル化が新たな局面を迎えた19世紀に来日した西洋人の眼を通して記録された絵画や写真、あるいは旅行記や滞在記を手掛かりに、当時の「かながわ」の原風景や人びとの暮らしぶりを中心に紹介した。私たちが当たり前であると感じていることを、他者のまなざしを通すことで、あらためて「かながわ」の魅力を再発見する機会とした。

※JSPS 科研費 JP21K00824 の成果の一部である。

関 連 行 事：・記念講演会「ペリー艦隊随行者画家が描いたニッポン・かながわ」8月18日

・記念講演会「異文化をまなざすとは？」9月22日

・子ども向けイベント「展示室で〇〇を探そう！」8月24日

・展示解説「学芸員と語り合おう！」8月10日、30日、9月7日、17日、26日

・夜間開館展示解説 8月14日

出 品 目 録：(凡例) No、名称、作成／発行、材質、時代、員数、所蔵

1-1 南蛮屏風 紙本金地着色 江戸時代 六曲一双 神奈川県立歴史博物館	1-12 日本図 シャトラン 銅版彩色 1719年 1枚 神奈川県立歴史博物館
1-2 世界図 ミュンスター 木版彩色 1550年 1枚 神奈川県立歴史博物館	1-13 日本図 シャトラン 銅版彩色 1719年 1枚 神奈川県立歴史博物館
1-3 アジア図 オルテリウス 銅版彩色 1570年 1枚 神奈川県立歴史博物館	1-14 日本図 ボーエン 銅版彩色 1747年頃 1枚 神奈川県立歴史博物館
1-4 中国図 メルカトル 銅版彩色 1606年か 1枚 神奈川県立歴史博物館	1-15 廻国奇観 ケンペル 印刷 1712年 1冊 神奈川県立歴史博物館
1-5 新アジア図 ホンディウス 銅版彩色 1623年 1枚 神奈川県立歴史博物館	1-16 日本誌 ケンペル 印刷 1727年 2冊 神奈川県立歴史博物館
1-6 日本・朝鮮図 コロネリ 銅版彩色 1692年 1枚 神奈川県立歴史博物館	1-17 日本風俗備考 フィッセル 印刷 1833年 1冊 神奈川県立歴史博物館
1-7 アジア図 デ・ウィット 銅版彩色 1680年頃 1枚 神奈川県立歴史博物館	2-1 〈ペリー日本遠征の石版画〉の内 琉球首里城のペリー ヴィルヘルム・ハイネ 石版彩色 1855年 1枚 印刷 博物館
1-8 アジア図 ホーマン 銅版彩色 1720年 1枚 神奈川県立歴史博物館	2-2 〈ペリー日本遠征の石版画〉の内 ルビコン河を渡る ヴィルヘルム・ハイネ 石版彩色 1855年 1枚 印刷博物館
1-9 世界図 ドゥリール 銅版彩色 1755年 1枚 神奈川県立歴史博物館	2-3 〈ペリー日本遠征の石版画〉の内 久里浜上陸 ヴィルヘルム・ハイネ 石版彩色 1855年 1枚 印刷博物館
1-10 日本図 ティシェイラ 銅版彩色 1595年 1枚 神奈川県立歴史博物館	2-4 〈ペリー日本遠征の石版画〉の内 横浜上陸 ヴィ
1-11 日本図 ヤンソン 銅版彩色 1628年 1枚 神奈川県立歴史博物館	

	ルヘルム・ハイネ 石版彩色 1855 年 1 枚 印刷博物館		
2-5	〈ペリー日本遠征の石版画〉の内 下田上陸 ヴィルヘルム・ハイネ 石版彩色 1855 年 1 枚 印刷博物館	2-25	神奈川条約締結直後の日本に滞在した 8 ヶ月 (グレンタ号日本通商記) リュードルフ 印刷 1857 年 1 冊 神奈川県立歴史博物館
2-6	〈ペリー日本遠征の石版画〉の内 下田寺院前の軍事演習 ヴィルヘルム・ハイネ 石版彩色 1855 年 1 枚 印刷博物館	2-26	中国・日本・オホーツク海遠征記 ヴィルヘルム・ハイネ 印刷 1858~59 年 3 冊 神奈川県立歴史博物館
2-7	ルビコン川を渡る ヴィルヘルム・ハイネ 石版彩色 1855 年 1 枚 神奈川県立歴史博物館	3-1	横浜周辺外国人遊歩区域図 A.G.S. ホーズ 編・図 石版彩色 1868 年頃 1 枚 神奈川県立歴史博物館
2-8	久里浜上陸 ヴィルヘルム・ハイネ 石版彩色 1855 年 1 枚 神奈川県立歴史博物館	3-2	横浜交易西洋人荷物運送之図 五雲亭貞秀 大錦 5 枚続 1861 年 神奈川県立歴史博物館
2-9	1854 年 3 月 8 日、ペリー提督と艦隊士官が (日本) 帝国委員との面会のために横浜に上陸する図 (ペリーの横浜上陸図) ヴィルヘルム・ハイネ 石版彩色 1855 年 1 枚 公益財団法人 東洋文庫	3-3	横浜開港見聞誌 五雲亭貞秀 木版 1862 年 3 冊 神奈川県立歴史博物館
2-10	1854 年 6 月 8 日、ペリー提督と艦隊士官が (日本) 帝国委員との面会のために下田に上陸する図 (ペリーの下田上陸図) ヴィルヘルム・ハイネ 石版彩色 1855 年 1 枚 公益財団法人 東洋文庫	3-4	金川日記 佐藤汶栖 自筆 1849~60 年 1 冊 個人
2-11	ペリー陸戦隊了仙寺調練の図 ヴィルヘルム・ハイネ 石版彩色 1855 年 1 枚 下田・了仙寺	3-5	大君の都 ラザフォード・オールコック 印刷 1863 年 2 冊 神奈川県立歴史博物館
2-12	ルビコン川を渡る ヴィルヘルム・ハイネ 水彩、紙 1853 年 1 枚 明星大学	3-6	幕末日本図絵 エメ・アンペール 印刷 1870 年 2 冊 神奈川県立歴史博物館
2-13	ペリー提督の久里浜上陸 ヴィルヘルム・ハイネ 水彩、紙 1853 年 1 枚 明星大学	3-7	日本 その日その日 エドワード・モース 印刷 1917 年 2 冊 神奈川県立歴史博物館
2-14	ペリー提督の横浜上陸 ヴィルヘルム・ハイネ 水彩、紙 1854 年 1 枚 明星大学	3-8	ウィリアムス女史日本旅行記念蒐集資料 ルーズ・M・ウィリアムス 1897 年 神奈川県立歴史博物館
2-15	ペリー提督の下田上陸 ヴィルヘルム・ハイネ 水彩、紙 1854 年 1 枚 明星大学	3-9	世界周遊日記 アリス・M・レイ 自筆 1881 年~82 年 1 冊 横浜開港資料館
2-16	ペリー提督 首里城より帰還の図 伝ヴィルヘルム・ハイネ 油彩、カンヴァス 19 世紀末頃 1 点 慶應義塾	3-10	相州江の島弁才天開帳詣本宮岩屋の図 歌川広重 (初代) 大錦三枚続 1851 年頃 神奈川県立歴史博物館
2-17	ペリー提督横浜上陸の図 伝ヴィルヘルム・ハイネ 油彩、カンヴァス 1854 年以降 1 点 横浜美術館	3-11	江の島弁才天開帳詣 歌川広重 (初代) 大錦 3 枚続 1851 年頃 神奈川県立歴史博物館
2-18	ペリー提督 黒船陸戦隊訓練の図 伝ヴィルヘルム・ハイネ 油彩、カンヴァス 19 世紀末頃 1 点 慶應義塾	3-12	東海道五拾三次之内 箱根 歌川広重 (初代) 大錦 1833 年頃 神奈川県立歴史博物館
2-19	ペリー提督日本遠征記 フランシス・L・ホークス編 印刷 1856 年 3 冊 神奈川県立歴史博物館	3-13	東海道五拾三次之内 箱根 歌川広重 (初代) 大錦 1833 年頃 神奈川県立歴史博物館
2-20	グレンソズ・ピクトリアル 印刷 1854 年 7 月 22 日 1 部 神奈川県立歴史博物館	3-14	大山良弁滝之図 歌川国芳 大錦 天保末期 神奈川県立歴史博物館
2-21	ハーパーズ・ニュー・マンズリー・マガジン 印刷 1856 年 1 部 神奈川県立歴史博物館	3-15	五十三次名所図会 八 平塚 馬入川の渡し 大山 遠望 歌川広重 (初代) 大錦 1855 年 神奈川県立歴史博物館
2-22	世界主要国の有名な旅行家の探険と旅行 ヘンリー・ハウ 印刷 1856 年 1 冊 神奈川県立歴史博物館	3-16	相模国大隅郡大山寺雨降神社真景 五雲亭貞秀 大錦 3 枚続 1858 年 神奈川県立歴史博物館
2-23	日本遠征石版画集 ヴィルヘルム・ハイネ 石版彩色 1856 年 1 件 10 枚 神奈川県立歴史博物館	3-17	神奈川 フェリーチェ・ベアトか アルビューメンブリント 江戸時代末期 1 枚 神奈川県立歴史博物館
2-24	世界周遊日本への旅 ヴィルヘルム・ハイネ 印刷 1856 年 3 冊 神奈川県立歴史博物館	3-18	鎌倉 フェリーチェ・ベアトか アルビューメンブリント 江戸時代末期 1 枚 神奈川県立歴史博物館
		3-19	526. 100 STEPS, YOKOH[AMA] (横浜百段) アルビューメンブリント、彩色 明治時代中期 1 枚 神奈川県立歴史博物館
		3-20	542. Mississippi Bay Near Yokohama (根岸) アルビューメンブリント、彩色 明治時代中期 1 枚 神奈川県立歴史博物館

3-21	984 MISSISSIPPIBAY YOKOHAMA. (横浜根岸) アル ビューメンプリント、彩色 明治時代中期 1枚 神奈川県立歴史博物館	鎌倉の大仏) アルビューメンプリント、彩色 明治時代中期 1枚 神奈川県立歴史博物館
3-22	56 CHERR BLOSSOMS AT PARK YOKOHAMA (野毛山の桜) アルビューメンプリント、彩色 明治時代中期 1枚 神奈川県立歴史博物館	3-37 1028. Large Bill KAMAKURA (鎌倉の大鐘楼) アル ビューメンプリント、彩色 明治時代中期 1枚 神奈川県立歴史博物館
3-23	561 CHERRY BLOSSOMS NOGE HILL YOKOHAMA (横浜野 毛山の桜) アルビューメンプリント、彩色 明治 時代中期 1枚 神奈川県立歴史博物館	3-38 B 8** KAGO TRAVELLING CHAIR. (駕籠・旅行用椅子 箱根ハフヤホテル前) アルビューメンプリント、 彩色 明治時代中期 1枚 神奈川県立歴史博物館
3-24	A 248 HILL OF NOGE YOKOHAMA (野毛山の桜) アル ビューメンプリント、彩色 明治時代中期 1枚 神奈川県立歴史博物館	3-39 2023 WISTERIA BLOSSOMS at KAMEIDO, TOKYO (亀戸 天神の藤棚) アルビューメンプリント、彩色 明治時代中期 1枚 神奈川県立歴史博物館
3-25	A 266 TAKASHIMA'S GARDEN AT YOKOHAMA. アル ビューメンプリント、彩色 明治時代中期 1枚 神奈川県立歴史博物館	3-40 608 Temple Gate Shiba Tokio (東京、芝、増上寺 大猷院門) アルビューメンプリント、彩色 明治 時代中期 1枚 神奈川県立歴史博物館
3-26	No. 598 SUGITA. (杉田の梅林) アルビューメンプ リント、彩色 明治時代中期 1枚 神奈川県立歴史 博物館	3-41 637. Autumn View of Maples, OJI TOKIO (東京王子 の秋の紅葉) アルビューメンプリント、彩色 明治時代中期 1枚 神奈川県立歴史博物館
3-27	467 VIEW OF ENOSHIMA (江の島北側対岸から望む) アルビューメンプリント、彩色 明治時代中期 1枚 神奈川県立歴史博物館	3-42 横浜写真アルバム (貼り混ぜ写真) 漆、アルビュー メンプリント、紙 明治時代中期 1点 神奈川県立 歴史博物館
3-28	70 (YENOCIMA) (海上からの江の島) アルビューメ ンプリント、彩色 明治時代中期 1枚 神奈川県立 歴史博物館	3-43 『日本絵入り商人録』の内 ファーサリ商会 佐々木 茂市 銅版 1886年 1枚 神奈川県立歴史博物館
3-29	1103 CAVE AT ENOSHIMA (江の島の洞窟) アルビュー メンプリント、彩色 明治時代中期 1枚 神奈川県立 歴史博物館	3-44 横浜写真アルバム (江の島の海岸で貝を捕る女性と 子どもたち) 漆、アルビューメンプリント、紙 明治時代中期 1点 神奈川県立歴史博物館
3-30	(江の島) アルビューメンプリント、彩色 明治時 代中期 1枚 神奈川県立歴史博物館	3-45 日下部金兵衛のスタンプ インク、紙 明治時代 中期 神奈川県立歴史博物館
3-31	675. DAIBUTSU AT KAMAKURA (鎌倉大仏) アル ビューメンプリント、彩色 明治時代中期 1枚 神奈川県立歴史博物館	3-46 『横浜諸会社諸商店の図』の内 井村彦次郎商店 銅版 明治時代中期 1点 (2枚) 神奈川県立歴史 博物館
3-32	(鎌倉の大仏) アルビューメンプリント、彩色 明治時代中期 1枚 神奈川県立歴史博物館	3-47 『横浜諸会社諸商店の図』の内 眞葛香山 銅版 明治時代中期 1点 神奈川県立歴史博物館
3-33	74 DAIBUTSU KAMAKURA (鎌倉の大仏) アルビュー メンプリント、彩色 明治時代中期 1枚 神奈川県 立歴史博物館	3-48 横浜焼カップ&ソーサー 井村彦次郎商店、中島 則親 明治時代中期 20点 神奈川県立歴史博物館
3-34	(109) GREATEST IDOL DAIBUTSU, KAMAKURA (最大の 偶像 鎌倉の大仏) アルビューメンプリント、 彩色 明治時代中期 1枚 神奈川県立歴史博物館	3-49 山水之図花瓶 宮川香山 明治時代後期～大正時代 初期 1点 神奈川県立歴史博物館
3-35	Buddha near Yokohama (横浜近郊の大仏) アル ビューメンプリント、彩色 明治時代中期 1枚 神奈川県立歴史博物館	3-50 青華岩ニ竹之図蓋付壺 宮川香山 明治時代後期～ 大正時代初期 1点 神奈川県立歴史博物館
3-36	1021. Daidutsu Bronze Image Kamakura. (銅像	参考 釉裏紅百鬼夜行図花瓶 宮川香山 明治時代後期～ 大正時代初期 1点 神奈川県立歴史博物館
		参考 釉下彩山水図香炉 宮川香山 明治時代後期～大正 時代初期 1点 神奈川県立歴史博物館

ウ 「仮面絢爛—中世音楽と芸能があらわす世界—」

会 期：10月26日(土)～12月8日(日)

主 催：神奈川県立歴史博物館

後 援：民俗芸能学会、神奈川新聞社、朝日新聞横浜総局、毎日新聞社横浜支局、読売新聞横浜
支局、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、共同通信社

横浜支局、時事通信社横浜総局、NHK 横浜放送局、tvk(テレビ神奈川)、ラジオ日本、FM
ヨコハマ、J:COM

展示資料件数：95 件

入場者数：14,257 名（有料4,287 名、無料9,970 名）

担当：学芸員 渡邊 浩貴

概要：古来より日本では、人が仮面をかぶり仮装する宗教演劇が営まれてきた。それは、現世のわたしたちが知覚することのできない極楽や地獄の世界を、行道面や舞楽面・鬼面によって分かりやすく顕したり、あるいは当時の世相や権力者たちの有り様を、能面や狂言面によって戯画化するものでもあった。今日まで列島各地に残る多くの、そして多彩な仮面群は、まさにそうした人々の営みを雄弁に物語ろう。神奈川の地にも、鶴岡八幡宮や大山阿夫利神社に様々な仮面が伝わり、全国各地には鎌倉御家人ゆかりの中世仮面が伝世している。鎌倉幕府の成立とともに、鎌倉御家人として活躍した武士が豊かな音楽文化を各地に広げていった様子が、これら仮面資料よりうかがえる。そして中世仮面たちは、やがて地域の民俗芸能のなかで姿を変えながらも今に伝えられていく。

本展では、神奈川の鎌倉と深く関わる仮面や、中世の武士たちが邂逅し、親しんだ仮面の数々を集めることで、単に造形や機能だけではなく、仮面の背後にある地域に息づく豊饒な音や音楽の存在を発見し、またこうした文化を利用しながら地域を支配しようとした領主たる武士たちの姿をも捉えたい。そして、その後の流転を経て、仮面が地域の民俗芸能のなかで当初の意味を変えながら再生していく歴史的変遷までも見通していく。

関連行事：・記念講演会「日本の仮面 伎楽面から能狂言面」11 月 30 日

・連続講座「仮面と音楽の地域史」11 月 9 日、16 日

・入門講座「日本中世の音と音楽と仮面の世界」11 月 2 日

・学芸員による展示解説 10 月 26 日、11 月 20、23 日、12 月 7 日

・夜間開館展示解説 10 月 30 日

出品目録：（凡例）No.、名称、材質、員数、時代、所蔵者・所蔵機関

＊資料名の前に付した記号のうち、◎は重要文化財、○は県指定文化財、□は市・町指定文化財を示す。

- | | |
|--|---|
| 1 □弾琴男子椅座像埴輪 土製 1 体 古墳時代 横須賀市
自然・人文博物館 | 18 □久能寺縁起 紙本墨書 1 巻 康永元年（1342） 鉄舟寺 |
| 2 星谷寺梵鐘銘拓本 紙製 1 枚 現代（原品：嘉禄3年
（1227）） 神奈川県立歴史博物館 | 19 ○王の舞面 木造彩色 1 面 鎌倉時代 津毛利神社 |
| 3 東漸寺梵鐘銘拓本 紙製 1 枚 現代（原品：永仁6年
（1298）） 神奈川県立歴史博物館 | 20 広綱寄進状 紙本墨書 1 通 大永8年（1528） 頭陀寺 |
| 4 梵鐘鋳型片 土製 一式 鎌倉時代 埼玉県教育委員会 | 21 今川義元判物 紙本墨書 1 通 天文8年（1539） 頭陀寺 |
| 5 木製面 木製 2 面 鎌倉時代 鎌倉市教育委員会 | 22 今川氏真判物 紙本墨書 1 通 永禄3年（1560） 頭陀寺 |
| 6 山猫形木偶 木製 1 点 鎌倉時代 鎌倉市教育委員会 | 23 今川氏真判物 紙本墨書 1 通 永禄7年（1564） 頭陀寺 |
| 7 五常樂急 紙本墨書 1 通 享保15年（1730） 上野
学園短期大学日本音楽史研究所 | 24 今川氏真判物 紙本墨書 1 通 永禄10年（1567）
頭陀寺 |
| 8 ◎菩薩面 木造 1 面 鎌倉時代 鶴岡八幡宮 | 25 獅子頭 木造 1 頭 室町時代 賀久留神社 |
| 9 ◎舞楽面散手 木造 1 面 鎌倉時代 鶴岡八幡宮 | 26 舞楽面陵王 木造彩色 2 面 室町時代 賀久留神社 |
| 10 ◎舞楽面貴徳鯉口 木造 1 面 鎌倉時代 鶴岡八幡宮 | 27 舞楽面納曾利 木造彩色 1 面 鎌倉時代 賀久留神社 |
| 11 ◎舞楽面貴徳番子 木造 1 面 鎌倉時代 鶴岡八幡宮 | 28 棟札 木製墨書 1 枚 応永26年（1419） 賀久留神社 |
| 12 ◎舞楽面二ノ舞咲面 木造 1 面 鎌倉時代 鶴岡八幡宮 | 29 楽人補任記（春日大社本系） 紙本墨書 2 冊 江戸時代
上野学園短期大学日本音楽史研究所 |
| 13 □鶴岡八幡宮境内図 紙本著色 1 紙 享保17年
（1732） 鶴岡八幡宮 | 30 楽人補任記（芝則行本系） 紙本墨書 2 巻 江戸時代
上野学園短期大学日本音楽史研究所 |
| 14 相模国鎌倉鶴岡八幡宮一社明細書上 紙本墨書 1 冊
明治4年（1871） 鶴岡八幡宮 | 31 音楽相承次第第二神楽血脈 紙本墨書 1 冊 江戸時代
上野学園短期大学日本音楽史研究所 |
| 15 文化度神器等焼失調査 紙本墨書 1 冊 文化13年
（1816） 鶴岡八幡宮 | 32 音楽相承次第第四楽道相伝系図 紙本墨書 1 冊 江戸時代
上野学園短期大学日本音楽史研究所 |
| 16 菩薩面 木造 1 面 長久3年（1071） 阿弥陀寺 | 33 ○菩薩面 木造 4 面 鎌倉時代 建暦寺 |
| 17 ○舞楽面陵王 木造 1 面 鎌倉時代 鉄舟寺 | 34 濱古山畧縁起 紙本墨書 1 巻 文化元年（1804）
建暦寺 |
| | 35 ○菩薩面 木造 4 面 鎌倉時代 米山寺 |

- | | | | |
|----|----------------------------------|----|---|
| 36 | ○天童面 木造 2面 鎌倉時代 米山寺 | 67 | ○善俱 木造 1面 江戸時代 浄福寺 |
| 37 | ○糞 木造彩色 1点 鎌倉時代 米山寺 | 68 | ○大王 木造 1面 江戸時代 浄福寺 |
| 38 | ○旗竿付龍頭 木造彩色 1点 鎌倉時代 米山寺 | 69 | ○菩薩面 木造 4面 鎌倉時代 浄福寺 |
| 39 | ○蓮華 木造漆箔 1点 鎌倉時代 米山寺 | 70 | ○鬼来迎問答脚供養(跋文あり) 紙本墨書 1巻
寛政9年(1797) 浄福寺 |
| 40 | ○鼓 木造彩色 1点 鎌倉時代 米山寺 | 71 | ○鬼来迎問答脚供養(跋文なし) 紙本墨書 1巻 江戸時代 浄福寺 |
| 41 | □小早川隆景坐像 木造 1軀 文禄5年(1596)
米山寺 | 72 | ○鬼来迎問答引接脚供養記 紙本墨書 1巻 正徳2年
(1712) 浄福寺 |
| 42 | 米山寺書記 紙本墨書 1冊 江戸時代 米山寺 | 73 | 能面般若 木造 1面 江戸時代 大山阿夫利神社 |
| 43 | 東廬山米山寺由来書 紙本墨書 1巻 江戸時代 米山寺 | 74 | 能面翁 木造 1面 江戸時代 大山阿夫利神社 |
| 参考 | 土肥小早川系図 紙本墨書 1巻 江戸時代 米山寺 | 75 | 能面大癡見 木造 1面 江戸時代 大山阿夫利神社 |
| 参考 | 米山寺伽藍墓所宝物見取図 紙本彩色 1枚 明治時代
米山寺 | 76 | 能面曲見 木造 1面 江戸時代 大山阿夫利神社 |
| 44 | ◎菩薩面 木造 2面 鎌倉時代 御調八幡宮 | 77 | 能面童子 木造 1面 江戸時代 大山阿夫利神社 |
| 45 | ◎如来面 木造 1面 鎌倉時代 御調八幡宮 | 78 | 能面顰尉 木造 1面 江戸時代 大山阿夫利神社 |
| 46 | ◎比丘面 木造 1面 鎌倉時代 御調八幡宮 | 79 | □舞楽面陵王 木造 1面 享禄3年(1530) 光前寺 |
| 47 | ○閻魔大王 木造 1面 江戸時代 迎接寺 | 80 | 大般若波羅蜜多經 紙本墨書 2冊 正和5年(1316)
光前寺 |
| 48 | ○赤鬼 木造 1面 江戸時代 迎接寺 | 81 | 舞楽面還城楽 木造 1面 鎌倉時代 高部屋神社 |
| 49 | ○青鬼 木造 1面 江戸時代 迎接寺 | 82 | 舞楽面陵王 木造 1面 室町時代 高部屋神社 |
| 50 | ○黒鬼 木造 1面 江戸時代 迎接寺 | 83 | 癡見 木造 1面 江戸時代 高部屋神社 |
| 51 | ○黄鬼 木造 1面 江戸時代 迎接寺 | 84 | □阿弥陀画像 絹本著色 1幅 江戸時代 三福寺 |
| 52 | ○白鬼 木造 1面 江戸時代 迎接寺 | 85 | □阿弥陀如来立像 木造 1軀 明治時代 三福寺 |
| 53 | ○三途河の姥 木造 1面 江戸時代 迎接寺 | 86 | □堰守弥陀本尊由緒書 紙本墨書 1通 江戸時代
三福寺 |
| 54 | ○幽霊 木造 1面 江戸時代 迎接寺 | 87 | □口演 紙本墨書 1通 寛政4年(1792) 三福寺 |
| 55 | ○伎楽面 木造 1面 江戸時代 迎接寺 | 88 | □証 紙本墨書 1通 明治38年(1905) 三福寺 |
| 56 | ○悪童子 木造 1面 江戸時代 迎接寺 | 89 | ○ずずい子 木造 1軀 室町時代 油日神社 |
| 57 | ○善童子 木造 1面 江戸時代 迎接寺 | 90 | ○福太夫面 木造 1面 永正5年(1508) 油日神社 |
| 58 | ○影向の観世音 木造 1面 江戸時代 迎接寺 | 91 | 翁面 木造 1面 江戸時代 油日神社 |
| 59 | ○洒水観世音 木造 1面 江戸時代 迎接寺 | 92 | 初申稻子光次第 木製墨書 1点 宝暦4年(1754)
油日神社 |
| 60 | ○奪魂鬼 木造 1面 江戸時代 浄福寺 | 93 | ささら竹 竹製 1点 江戸時代 油日神社 |
| 61 | ○悪俱 木造 1面 江戸時代 浄福寺 | | |
| 62 | ○懸衣 木造 1面 江戸時代 浄福寺 | | |
| 63 | ○奪精鬼 木造 1面 江戸時代 浄福寺 | | |
| 64 | ○伝死鬼 木造 1面 江戸時代 浄福寺 | | |
| 65 | ○脱衣婆 木造 1面 江戸時代 浄福寺 | | |
| 66 | ○罪人 木造 1面 江戸時代 浄福寺 | | |

(3) コレクション展

ア おひろめ!—新しく博物館の仲間になったモノたち—

会 期:7月20日(土)～9月16日(月・祝)

会 場:コレクション展示室

主 催:神奈川県立歴史博物館

展示資料件数:39件

担 当:館長 望月 一樹、主任学芸員 新井 裕美、学芸員 武田 周一郎、学芸員 佐藤 兼理

概 要:博物館活動の大きな柱の一つに、資料の収集がある。当館は多くの方々の支援に支えられ、県立博物館時代(1967年[昭和42年]3月開館)から現在の県立歴史博物館(1995年[平成7年]3月～)に至るまで、継続的に寄贈・購入・採取によって収集を行い、博物館資料の充実をはかってきた。そして今日では当館が所蔵する資料は6万6千点を超えるまでになった。当館ではこれを基に調査研究を行い、常設展示・特別展示に活かしている。資料をじっくりと調査することで、新たな発見や疑問が生まれること

がある。本展は近年、新しく博物館の仲間になった資料を通じて、当館の収集活動の一端を紹介した。

出 品 目 録：（凡例）No.、資料名、作成年代 *資料はすべて神奈川県立歴史博物館所蔵

1 ナイフ形石器 旧石器時代	23 長谷川家関係資料 明治10年代～昭和20年代
2 縄文土器 縄文時代	24 岩橋教章・章山関係資料群 明治～昭和戦前期
3 石鏃、手帳 縄文時代	25 梶山良助関連資料 明治～大正時代
4 焼き鰻 （年代不明）	25-1 肖像画 明治～大正時代
5 祝儀・不祝儀帳 明治36（1903）年ほか	25-2 筆合戦図扇子 明治～大正時代
6 大絵馬 飾り馬 天保11（1840）年	25-3 翁雀図扇子 明治～大正時代
7 大絵馬 元寇 宝暦8（1758）年	26 三浦乾也作 江戸時代後期～明治時代
8 豊臣秀吉朱印状 天正18（1590）年	26-1 茶碗・盆 江戸時代後期～明治時代
9 曾我師助書下 暦応2（1339）年	26-2 色絵金彩花卉文盃 江戸時代後期～明治時代
10 銭枰（渋谷剛一家資料） 天保15（1844）年	26-3 色絵金彩花卉文盃 江戸時代後期～明治時代
11 田代克己家資料 天正12（1584）～昭和50（1975）年	26-4 染付雲堂文盃 江戸時代後期～明治時代
12 質屋算用留（渋谷政雄家資料） 元禄7（1694）～明和3（1766）年	26-5 染付花鳥文盃 江戸時代後期～明治時代
13 唐船騒略記 江戸時代末期	26-6 灰釉盃 江戸時代後期～明治時代
14 嘉永六年対外関係「聞書」 江戸時代末期	27 如来坐像 室町時代
15 船将より 領事官江差出候船中行状書添書横文字和解 江戸時代末期	28 阿弥陀如来立像 付属文書 江戸時代
16 守正写 御固図写 江戸時代末期	29 渡辺幽香 西脇清十郎像 明治14（1881）年
17 ペリー等肖像 江戸時代末期	30 青木文庫 明治～昭和戦前期
18 宮地正彰関係資料 明治～大正時代	31 島崎清海氏旧蔵 図画手工教科書群 明治～昭和戦前期
18-1 肖像写真 大正8（1919）年	32 眞葛焼 陶片 明治～昭和時代前期
18-2 給与・賞与 明治～大正時代	33 眞葛焼 大正～昭和時代初期
18-3 辞令 明治時代	34 祖栄筆 蘆葉達磨図 室町時代
19 神奈川県庁新築工事概要 昭和3（1928）年	35 琴高仙人 江戸時代後期
20 駅弁掛け紙スクラップブック 昭和時代～平成31（2019）年	36 鍾馗 江戸時代後期
21 横浜指路教会銘板 1930年代半ば以降	37 大倉孫兵衛旧蔵錦絵画帖 明治時代前期
22 石井泰助関係資料 明治40年代～昭和40年代	38 松本民治 観音図 明治20年代
	特別出品 新日本銀行券千円券 記番号「AA000002AA」 令和6（2024）年

イ 本店本館創建120周年記念 横浜正金銀行

会 期：11月9日（土）～12月22日（日）

会 場：コレクション展示室

主 催：神奈川県立歴史博物館・横浜国立大学大学院都市イノベーション学府

展示資料件数：41件

担 当：学芸員 武田 周一郎、学芸員 佐藤 兼理、主任学芸員 新井 裕美、学芸部長 丹治 雄一

概 要：横浜正金銀行は、1880（明治13）年に開業した日本を代表する国際金融機関であった。その本店本館として1904（明治37）年7月に創建された建物は、後に東京銀行横浜支店、そして神奈川県立博物館となり、1995（平成7）年からは神奈川県立歴史博物館の旧館部分として使われている。当館では、この横浜正金銀行に関する資料の収集に取り組んできた。また、建物を保存しながら将来にわたって活かしてゆくための研究も進められている。近年では、横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院・学府との連携のもと、大学院生による実測調査や活用プランの提案などがおこなわれている。本展では、旧横浜正金銀行本店本館創建120周年を記念して、建物の魅力とそこに勤めた銀行員たちの姿について、当館の収蔵資料や横浜国立大学大学院による調査成果などを通じて紹介した。

関 連 行 事：・県博セミナー「旧横浜正金銀行本店本館の現在と未来」12月1日，8日，15日

・建物見学会「旧横浜正金銀行本店本館を観る」 11月17日、24日

出品目録：(凡例) No.、名称、時代、所蔵

1-1	横浜正金銀行開業免状 1880 (明治13) 年2月23日 神奈川県立歴史博物館 (東京三菱銀行寄贈)		(平成6) 年 神奈川県立歴史博物館
1-2	横浜諸会社諸商店之図のうち横浜正金銀行 明治20年代ごろ 神奈川県立歴史博物館	1-21	神奈川県立博物館開館記念アルバム 1967 (昭和42) 年 神奈川県立歴史博物館
1-3	竣工直後の横浜正金銀行本店本館 1904 (明治37) 年 撮影 神奈川県立歴史博物館 (東京銀行寄贈)	2-1	西巻豊佐久関係資料 明治時代 神奈川県立歴史博物館 (西巻虎彦氏寄贈)
1-4	横浜正金銀行建築要覧 1904 (明治37) 年 神奈川県立歴史博物館	2-2	長崎剛十郎関係資料 明治時代 神奈川県立歴史博物館 (長崎隆氏・長崎美恵子氏寄贈)
1-5	横浜正金銀行本支店アルバム 1908 (明治41) 年ごろ 神奈川県立歴史博物館 (東京三菱銀行寄贈)	2-3	分島藤吉関係資料 大正時代～昭和時代 神奈川県立歴史博物館 (分島英二氏寄贈)
1-6	妻木頼黄坐像 1916 (大正5) 年ごろ 神奈川県立歴史博物館 (妻木家旧蔵 藤森照信氏寄贈)	2-4	海上浩関係資料 大正時代～昭和時代 個人
1-7	関東大震災前後の横浜正金銀行本店本館 明治時代後半～大正時代 神奈川県立歴史博物館	2-5	八木和子関係資料 大正時代～昭和時代 神奈川県立歴史博物館 (八木宏美氏寄贈)
1-8	関東大震災で被災した横浜正金銀行本店本館 1923 (大正12) 年 神奈川県立歴史博物館	2-6	神田騰一関係資料 明治時代～昭和時代 神奈川県立歴史博物館 (小池邦子氏寄贈)
1-9	「大正の改修工事」の工事内容がわかる見積書 1924～1925 (大正13～14) 年 神奈川県立歴史博物館 (東京銀行寄贈)	2-7	行員が英語で書いた手紙 1907 (明治40) 年10月18日 神奈川県立歴史博物館 (野田光氏寄贈)
1-10	「大正の改修工事」後の横浜正金銀行本店本館 昭和戦前期 神奈川県立歴史博物館 (東京銀行寄贈)	2-8	新入行員の辞令 1921 (大正10) 年5月2日 神奈川県立歴史博物館 (児玉祐一郎氏寄贈)
1-11	「大正の改修工事」後の第一営業室 1925 (大正14) 年 神奈川県立歴史博物館	2-9	上海支店運動会の写真 1932・1933 (昭和7・8) 年 神奈川県立歴史博物館 (河村洋三氏寄贈)
1-12	横浜正金銀行東京支店姿図 大正時代～昭和戦前期 神奈川県立歴史博物館 (正友会寄贈)	2-10	藤井直一関係資料 大正時代～昭和時代 神奈川県立歴史博物館 (藤井茂氏寄贈)
1-13	東京銀行本店建物アルバム 1975 (昭和50) 年11月 神奈川県立歴史博物館 (正友会寄贈)	2-11	釣り好きな行員への葉書 1928 (昭和3) 年 神奈川県立歴史博物館 (個人寄贈)
1-14	東京銀行横浜支店から神奈川県立博物館へ 1963 (昭和38) 年 神奈川県立歴史博物館	2-12	行員から家族への葉書 1928～1947 (昭和3～22) 年 神奈川県立歴史博物館 (小笠原貞氏寄贈)
1-15	「昭和の改修工事」の写真 1966 (昭和41) 年 神奈川県立歴史博物館	2-13	職員が集めた外国切手 昭和戦前期 (1920～1930年代) 神奈川県立歴史博物館 (櫛田俊子氏寄贈)
1-16	ドーム復元の図面 1963 (昭和38) 年 神奈川県立歴史博物館	3-1	横浜正金銀行本店本館の歩みを知るパンフレット 横浜国立大学大学院制作
1-17	旧横浜正金銀行本店本館重要文化財指定書 1969 (昭和44) 年3月12日 神奈川県立歴史博物館	3-2	創建時と現代における使われ方の比較 横浜国立大学大学院制作
1-18	県立博物館から人文系の博物館へ 1988 (昭和63) 年 神奈川県立歴史博物館	3-3	建物時代比較・断面模型 横浜国立大学大学院制作
1-19	「平成の改修工事」で復元した旧第一営業室 1994 (平成6) 年 神奈川県立歴史博物館	3-4	関東大震災横浜市写真帳 1923 (大正12) 年9月 神奈川県立歴史博物館
1-20	「平成の改修工事」の旧第一営業室の装飾復元 1994	3-5	碇鉄構法原理模型 横浜国立大学大学院制作
		3-6	ドルフィンと背比べしてみよう 横浜国立大学大学院制作
		3-7	建築を学ぶ学生が考えるこれからの神奈川県立歴史博物館 横浜国立大学大学院制作

(4) その他の展示

ア パネル展示

かながわの近代建築

概 要：神奈川県内には、現在も明治・大正・昭和戦前期に建てられた数多くの近代建築が残されている。これらの近代建築の多くは、横浜における開港場や居留地に由来する建築、湘南地域に幅広く分布する避暑・避寒のための別荘建築、海軍の軍都として発展した横須賀などに見られる軍事関連の建築、箱根を中心とした観光地に建てられた旅館やホテル

ル建築、京浜工業地帯の一角を占める横浜・川崎の臨海部の工場建築という、五つの要素に大別してとらえることができる。これは神奈川県内の近代建築の特色を表現しているだけでなく、神奈川県の近代の歩みを考える上で重要な要素でもある。本展示では、神奈川県内に現存する近代建築のうち、当館の建物である旧横浜正金銀行本店本館や「キングの塔」と通称される神奈川県庁本庁舎をはじめとする24棟の建物を取り上げ、その魅力を紹介した。

会 期：通年

会 場：1階 フリーゾーン 廊下

展示資料点数：25点（番外のマップを含む）

出 品 目 録：（いずれも写真パネル）（凡例） No.、名称、所在地、竣工年月

番外 かながわの近代建築 MAP(神奈川県内の近代建築のうち60棟を地図上に示し、各建物の写真と概要データを紹介したもの。)	12 横浜税関本関庁舎 横浜市中区海岸通 1934年(昭和9)3月
1 旧横浜正金銀行本店本館(神奈川県立歴史博物館) 横浜市中区南仲通 1904年(明治37)7月	13 横浜郵船ビル(日本郵船歴史博物館) 横浜市中区海岸通 1936年(昭和11)10月
2 神奈川県庁舎(神奈川県庁本庁舎) 横浜市中区日本大通 1928年(昭和3)10月	14 旧内田家住宅(外交官の家) 横浜市中区山手町 1910年(明治43)
3 旧新港埠頭煉瓦二号倉庫(横浜赤レンガ倉庫2号館) 横浜市中区新港 1911年(明治44)5月	15 旧英国総領事公邸(横浜市イギリス館) 横浜市中区山手町 1937年(昭和12)
4 旧三井物産横浜支店(三井物産横浜ビル) 横浜市中区日本大通 1号ビルー1911年(明治44)8月、2号ビルー1927年(昭和2)	16 旧大倉精神文化研究所(横浜市中倉山記念館) 横浜市港北区大倉山 1932年(昭和7)4月
5 旧開港記念横浜会館(横浜市開港記念会館) 横浜市中区本町 1917年(大正6)6月	17 福住旅館金泉楼・萬翠楼 足柄下郡箱根町湯本 1877年(明治10)・1878年(明治11)
6 旧川崎銀行横浜支店(日本興亜馬車道ビル) 横浜市中区弁天通 1922年(大正11)	18 富士屋ホテル本館 足柄下郡箱根町宮ノ下 1891年(明治24)
7 旧生糸検査所(横浜第2合同庁舎) 横浜市中区北仲通 1926年(大正15)2月	19 旧日本爆発物製造株式会社支配人執務室(旧海軍火薬廠将校クラブ、旧横浜ゴム平塚製造所記念館) 平塚市浅間町 1912年(明治45)頃
8 ホテルニューグランド本館 横浜市中区山下町 1927年(昭和2)11月	20 旧木下邸 中郡大磯町大磯 明治時代末期
9 旧横浜商工奨励館(横浜情報文化センター) 横浜市中区日本大通 1929年(昭和4)4月	21 旧近藤邸 藤沢市鵠沼東(同市内より移築) 1925年(大正14)
10 旧三井銀行横浜支店(三井住友銀行横浜支店) 横浜市中区本町 1931年(昭和6)3月	22 旧華頂家住宅主屋(旧華頂宮邸) 鎌倉市浄明寺 1929年(昭和4)
11 旧横浜英国総領事館(横浜開港資料館旧館) 横浜市中区日本大通 1931年(昭和6)	23 旧藤沢ゴルフ倶楽部クラブハウス(神奈川県立体育センター食堂) 藤沢市善行 1932年(昭和7)
	24 旧前田家別邸(鎌倉文学館本館) 鎌倉市長谷 1936年(昭和11)8月

(5) 教育普及・学習支援事業

広く県民の学習ニーズに応えるべく学習の機会を提供し、博物館で行う講座・講演会や各種行事などへの参加を通して、神奈川の歴史・文化や文化財についての知識・関心を深めることを目的として実施した。

ア 県立社会教育施設公開講座

生涯学習課主管の有料の連続講座(各回1,000円、全回申込者を優先するが、定員に達しない場合は各回単独受講可能)

県博セミナー「旧横浜正金銀行本店本館の現在と未来」

(定員60名 応募者133名〈単回を含む事前申込者〉、13:30～15:30)

概 要：横浜国立大学との共同研究の成果を示し建物のこれからを展望する機会とした。

・第1回 12月1日(日) (受講者37名)

「旧横浜正金銀行本店本館研究の最前線～博物館と大学の博学連携を通して～」

横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授 大野 敏 氏

- ・第2回 12月8日(日) (受講者29名)
「大学院生の考える旧横浜正金銀行本店本館の魅力と展望」
横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授 守田 正志 氏
- ・第3回 12月15日(日) (受講者50名)
「旧横浜正金銀行本店本館の意匠について：古典主義建築としての特徴と魅力」
横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院特別研究教員 菅野 裕子 氏
※担当(普及担当)：学芸部長 丹治 雄一(非常勤学芸員 市野 悦子)

イ 特別展等関連行事(特別展等のテーマに沿った内容の講演会等の実施)

(ア) 特別展「近代輸出漆器のダイナミズム—金子皓彦コレクションの世界—」

a 記念講演会(無料、ただし特別展の観覧券が必要)

(a)「近代輸出工芸と私のコレクション」

開催日：5月12日(日) 13:30～15:00 (定員60名 応募者69名 受講者51名)

概要：国内外有数の輸出工芸品のコレクター金子皓彦氏が、作品との出会いや収集の楽しみについて話した。

講師：國學院大學客員教授 金子 皓彦 氏

※担当(普及担当)：学芸員 鈴木 愛乃(非常勤学芸員 大柳 麻美)

(b)「展覧会ができるまで—産地への旅と金子皓彦コレクションの修復—」

開催日：5月19日(日) 13:30～15:00 (定員60名 応募者44名 受講者37名)

概要：象嵌細工技術者として活躍されている石幡氏をお招きし、特別展の担当学芸員と対談形式で展覧会ができるまでの過程や本展のみどころなど、さまざまなトピックを論じた。

講師：学芸員 鈴木 愛乃、ゲスト：石幡 賢治 氏(象嵌細工)

※担当(普及担当)：学芸員 鈴木 愛乃(非常勤学芸員 市野 悦子)

(c)「近代日本 美術というあきない」

開催日：6月16日(日) 13:30～15:00 (定員60名 応募者103名 受講者57名)

概要：近代横浜を舞台に行われた美術というあきないを多くの資料や写真をもとに解説した。

講師：主任学芸員 角田 拓朗

※普及担当：非常勤学芸員 市野 悦子／金子 あゆみ

b 現地見学会(無料)

「横浜家具をめぐる山手西洋館ツアー」

(共催：特定非営利活動法人 横浜山手アーカイブス、協力：公益財団法人 横浜市緑の協会)

開催日：5月16日(木) 14:30～16:30 (定員20名 応募者69名 参加者17名)

概要：近代横浜居留地の洋家具の歴史を、山手西洋館の館長らから建築の見所とともに伝えた。

ガイド：特定非営利活動法人 横浜山手アーカイブス

※担当(普及担当)：学芸員 鈴木 愛乃(非常勤学芸員 市野 悦子)

c 子ども向けワークショップ

(a)「麦わら細工で額絵を作ろう」(参加費550円)

開催日：5月4日(土・祝) ①10:30～12:30 ②13:30～15:30

(定員各回20名 参加者 ①10名 ②10名)

概要：近代に外国へ向けて盛んに輸出された麦わら細工を知り、額絵を作る体験を行った。

講師：國學院大學客員教授 金子 皓彦 氏

大森麦わら細工の会代表 藤塚 悦司 氏

※担当(普及担当)：学芸員 鈴木 愛乃(非常勤学芸員 市野 悦子)

(b)「寄木細工のコースターを作ろう」(参加費小サイズ550円、大サイズ1,100円)

開催日：5月5日(日・祝) ①10:30～12:30 ②13:30～15:30

(定員なし、参加者 ①21名 ②35名)

概要：精密な幾何学模様が特徴である寄木細工を手軽に体験できる機会とした。

講師：寄木工房 銀 篠田 英治 氏

※担当（普及担当）：学芸員 鈴木 愛乃（非常勤学芸員 大柳 麻美）

d 実演

(a)「芝山細工の実演」(無料)

開催日：5月24日(金) ①10:30～12:30 ②13:30～15:30 (定員なし、随時見学)

概要：貝や象牙の華やかな装飾が特徴の芝山細工について、糸鋸で貝を切り出して文様を作る技法を実演した。

実演：横浜芝山漆器研究会

※担当（普及担当）：学芸員 鈴木 愛乃（非常勤学芸員 大柳 麻美）

(b)「木象嵌の実演」(無料)

開催日：6月1日(土) ①10:30～12:30 ②13:30～15:30 (定員なし、随時見学)

概要：様々な色の木材を別の板にはめ込んで作る木象嵌を、足踏み式の糸鋸ミシンを使って板を切り出す工程を実演し解説した。

実演：木象嵌 Atelier k 浅野 慶太 氏

※担当（普及担当）：学芸員 鈴木 愛乃（非常勤学芸員 市野 悦子）

e 夜間開館展示解説(無料、ただし特別展観覧券が必要)

開催日：6月12日(水) 18:00～18:30 (夜間開館の来館者 79名)

概要：開館を2時間延長して19時閉館とする夜間開館を実施。展示室内でギャラリートークを行った。

(イ) 特別展「かながわへのまなざし」

a 記念講演会(無料、ただし特別展観覧券が必要)

(a)「ペリー艦隊随行画家が描いたニッポン・かながわ」

開催日：8月18日(日) 13:30～15:30 (定員60名 応募者86名 受講者47名)

概要：ヴィルヘルム・ハイネらによって描かれた石版画をとおして、日本、特にこの“かながわ”地域がどのように描かれ、西洋へ伝えられていったのかを検証した。

講師：主任学芸員 嶋村 元宏

※普及担当：非常勤学芸員 金子 あゆみ

(b)「異文化をまなざすとは？」

開催日：9月22日(日) 13:30～15:30 (定員60名 応募者86名 受講者52名)

概要：異文化を見ることは、自らの文化を見つめ直すことでもある。交錯するまなざしについて、文化人類学者の吉田憲司氏にお話いただいた。

講師：国立民族学博物館 館長 吉田 憲司 氏

※担当（普及担当）：主任学芸員 嶋村 元宏（非常勤学芸員 金子 あゆみ）

b 子ども向けイベント(無料)

「展示室で〇〇(まるまる)を探そう！」

開催日：8月24日(日) 13:30～15:30 (定員20名 応募者12名 受講者11名)

概要：歴史を描いた絵画作品にかくされたモチーフを探し、資料をよく見る力を養った。

講師：主任学芸員 嶋村 元宏

※普及担当：非常勤学芸員 市野 悦子

c 夜間開館展示解説(無料、ただし特別展観覧券が必要)

開催日：8月14日(水) 18:00～18:30 (夜間開館の来館者 39名)

概要：開館を2時間延長して19時閉館とする夜間開館を実施。展示室内でギャラリートークを行った。

(㍑) 特別展「仮面絢爛—中世音楽と芸能があらわす世界—」

a 記念講演会（無料、ただし特別展観覧券が必要）

「日本の仮面 伎楽面から能狂言面」

開催日：11月30日（土）13:30～15:30（定員60名 応募者122名 受講者53名）

概要：舞楽面・行道面・鬼面・能面など、中世仮面にあらわされる美と技術の系譜について、仮面研究の第一線で活躍する研究者にお話いただいた。

講師：東京国立博物館 副館長 浅見 龍介 氏

※担当（普及担当）：学芸員 渡邊 浩貴（非常勤学芸員 金子 あゆみ）

b 入門講座（無料、ただし特別展観覧券が必要）

「日本中世の音と音楽と仮面の世界」

開催日：11月2日（土）13:30～15:30（定員60名 応募者74名 受講者57名）

概要：仮面を用いた音楽芸能について、展示資料を示しながら平易に分かりやすく中世の音楽文化や民俗芸能の特徴、仮面の役割を解説した。

講師：学芸員 渡邊 浩貴

※普及担当：非常勤学芸員 金子 あゆみ

c 連続講座（全2回、無料、ただし特別展観覧券が必要）

「仮面と音楽の地域史」

（定員各回60名 応募者 第1回67名 第2回64名、13:30～15:30）

概要：中世仮面と音楽芸能を歴史学、民俗学、美術史学の立場から分かりやすく解説した。

・第1回 11月9日（土）（受講者53名）

「音楽で治める—中世武士団と音楽—」学芸員 渡邊 浩貴

・第2回 11月16日（土）（受講者41名）

「仮面で演じる—舞楽面・行道面・能面—」主任学芸員 神野 祐太

※普及担当：非常勤学芸員 市野 悦子

d 夜間開館展示解説（無料、ただし特別展観覧券が必要）

開催日：10月30日（水）18:00～18:30（参加者24名、夜間開館の来館者39名）

概要：開館を2時間延長して19時閉館とする夜間開館を実施。展示室内でギャラリートークを行った。

(㍔) コレクション展「本店本館創建120周年記念 横浜正金銀行」

a 建物見学会（無料、ただし常設展観覧券が必要）

「旧横浜正金銀行本店本館を観る」

概要：コレクション展を見学しながら解説した後、国の重要文化財である旧横浜正金銀行本店本館とバックヤードについて案内・解説した。

開催日：11月17日（日） ①10:30～12:00（定員20名 応募者39名 受講者18名）

②14:00～15:30（定員20名 応募者31名 受講者16名）

11月24日（日） ①10:30～12:00（定員20名 応募者62名 受講者21名）

②14:00～15:30（定員20名 応募者52名 受講者16名）

講師：学芸員 武田 周一郎

※普及担当：非常勤学芸員 市野 悦子／大柳 麻美

ウ 学芸員による展示解説

特別展・特別陳列の担当職員による展示解説

展覧会名	開催日	時間	会場	解説者	受講者（名）
特別陳列「戦国大名 北条氏と西相模・伊 豆」	4月4日(木)	13:30 ～ 14:00	講堂	学芸員 梯 弘人	50
	4月13日(土)				60
小計					110
特別展「近代輸出漆 器のダイナミズムー 金子皓彦コレクション の世界ー」	5月18日(土)	13:00 ～ 13:30	特別 展示室	学芸員 鈴木 愛乃	27
	6月7日(金)				43
	6月15日(土)				59
	6月22日(土)				51
	6月23日(日)				32
	6月29日(土)				35
	6月30日(日)				42
	6月8日(土)				34
	6月9日(日)	38			
	6月12日(水)	18:00 ～ 18:30		学芸員 鈴木 愛乃	79
小計					440
特別展「かながわへ のまなざし」	8月10日(土)	13:00 ～ 13:30	特別 展示室	主任学芸員 嶋村 元宏	20
	8月30日(金)				10
	9月7日(土)				25
	9月17日(火)				45
	9月26日(木)				25
	8月14日(水)	18:00 ～ 18:30			39
小計					164
特別展「仮面絢爛ー 中世音楽と芸能があ らわす世界ー」	10月26日(土)	13:00 ～ 13:30	特別 展示室	学芸員 渡邊 浩貴	36
	11月20日(水)				31
	11月23日(土祝)				46
	12月7日(土)				36
	10月30日(水)	18:00 ～ 18:30			24
小計					173

エ ミュージアムトーク「今月の逸品」

常設展展示資料より毎月逸品をピックアップし、展示室内で学芸員が解説を行うもの。

※展示室内の混雑緩和および令和7年1月以降は休館のため、ウェブサイトのみでの展開とし、詳しい解説を掲載した。

開催月	逸品テーマ	解説者
4	歌川国貞 風景への挑戦	桑山 童奈
5	横浜正金銀行建築要覧	丹治 雄一
6	弥生土器からのメッセージ	佐藤 兼理

7	明治のハウツー本、演説指南書	山下 春菜
8	青磁貼花牡丹文花瓶	小川 咲良
9	第三管区海上保安本部の「横浜港図」	武田 周一郎
10	海の村の年貢	寺西 明子
11	戦国大名北条氏歴代当主の判物―北条氏によって守られた「須崎大慶寺分」―	梯 弘人
12	旗本の家	根本 佐智子
1	三浦市初声町三戸のセイトッコの活動とオミヒメサマ	新井 裕美
2	山の神講	三浦 麻緒
3	戦国遺臣たちの再就職活動―「我等はしりめくり之覚」から―	渡邊 浩貴

オ その他の行事

(ア) 旧横浜正金銀行本店本館 建物見学会（無料、ただし常設展観覧券が必要）

概 要：国の重要文化財である旧館部分について、学芸員が案内・解説した。

開催日：7月14日（日） ①10:30～12:00（定員20名 応募者37名 受講者20名）

②14:00～15:30（定員20名 応募者27名 受講者19名）

講 師：学芸部長 丹治 雄一

※普及担当：非常勤学芸員 金子 あゆみ

(イ) 博物館入門講座（無料、ただし常設展観覧券が必要）

受講者の博物館利用がより豊かなものになることを目指し、当館の様々な活動や学芸員の仕事について、講義・見学・体験を交えて紹介した。

開催日：7月7日（日）13:30～15:00（定員30名 応募者32名 参加者25名）

館内見学と講義「学芸員の目と技（古文書）」学芸員 梯 弘人

※普及担当：非常勤学芸員 大柳 麻美

(ウ) 連続古文書講座（全2回、無料、ただし初回受講日のみ常設展観覧券が必要、13:30～15:00）

「博物館の古文書を読む 幕末の日記」（定員45名 応募者50名〈単回含む事前申込者〉）

概 要：幕末を生きた2人（鈴木藤助、松平造酒助）の日記を読み解き、当時の人々の暮らしや考え方などを解説した。

・第1回 10月12日（土）（受講者41名）

「幕末 農民の日記」学芸員 寺西 明子

・第2回 10月19日（土）（受講者45名）

「幕末 武士の日記」非常勤学芸員 根本 佐智子

※普及担当：非常勤学芸員 大柳 麻美

(エ) 館長トーク

a 「古代南武蔵の様相―橘花屯倉と橘樹郡―」（無料、ただし常設展観覧券が必要）

概 要：2015年に国史跡に指定された川崎市の橘樹官衙遺跡群に、史跡整備の一環として本年5月に7世紀段階の倉庫が復元された。この地域の6～8世紀における在地社会の様相を、「屯倉」と「評・郡」をキーワードに紹介した。

開催日：7月21日（日）13:30～15:00（定員60名 応募者79名 受講者42名）

講 師：館長 望月 一樹

※普及担当：非常勤学芸員 大柳 麻美

b 「近代の川崎・鶴見の産業史～川崎運河をさぐる」（無料）

概 要：川崎市と横浜市の市境にかつて存在した川崎運河の歴史を中心に、川崎・鶴見の沿岸地域の近代産業史について紹介した。

開催日：令和7年1月28日（火）10:00～11:30（定員30名 応募者100名 受講者32名）

会 場：鶴見公会堂
講 師：館長 望月 一樹

※普及担当：非常勤学芸員 金子 あゆみ

c 館長と散策！「かながわの“平安・京”～川崎運河の遺構を歩く」（無料）

概 要：市境をはさんで隣接する「平安町」（横浜市）と「京町」（川崎市）。その市境にかつて存在した産業遺構である川崎運河跡を散策しながら、近代の川崎・鶴見の沿岸地域の近代産業史について学んだ。

開催日：令和7年3月13日（木）13:15～15:30（定員25名 応募者83名 受講者20名）

講 師：館長 望月 一樹

※普及担当：非常勤学芸員 金子 あゆみ

(d) 講演会

a 「御家人サミット 鎌倉御家人について語りつくそう」（無料）

概 要：鎌倉武士にまつわる様々なトピック、最新研究を複数の研究者からトーク形式で解説した。

開催日：令和7年2月16日（日）13:00～16:00（定員100名 応募者228名 受講者94名）

会 場：神奈川県庁本庁舎

講 師：愛川町郷土資料館 岩田 慎平 氏

藤沢市生涯学習部郷土歴史課 宇都 洋平 氏

鎌倉市教育委員会 押木 弘己 氏

鎌倉考古学研究所 松吉 大樹 氏

学芸員 渡邊 浩貴

※担当（普及担当）：学芸員 渡邊 浩貴（非常勤学芸員 市野 悦子）

b 「間口洞穴掘ってみた」（無料）

概 要：三浦半島の南端にある間口洞穴を中心に、洞穴遺跡研究の最前線を鼎談形式で紹介した。

開催日：令和7年3月29日（土）13:00～15:00（定員60名 応募者66名 受講者52名）

会 場：ヴェルクよこすか（横須賀市立勤労福祉会館）

講 師：東京大学特任研究員 杉山 浩平 氏

横浜ユーラシア文化館主任学芸員 高橋 健 氏

学芸員 佐藤 兼理

※普及担当：非常勤学芸員 大柳 麻美

(e) ミュージアムコンサート（無料、ただし常設展観覧券が必要）

「クラシック・ヨコハマ2024 ミュージアムコンサート in 神奈川県立歴史博物館」

開催日：12月22日（日）14:00～14:45（定員60名 応募者79名 参加者61名）

演奏者：横浜市民広間演奏会＜フルート四重奏＞

佐々木 ふみ 氏／松田 梨沙 氏／篠塚 紗織 氏／礒部 友美 氏

概 要：「クラシック・ヨコハマ2024」（クラシック・ヨコハマ推進委員会、毎日新聞社、横浜市主催）の一環として、室内楽（フルート四重奏）を実施。

※担当：非常勤学芸員 大柳 麻美

(f) 無料観覧日

概 要：「文化の日」に、特別展及び常設展の無料観覧と通常非公開の屋上ドーム・通称「エースのドーム」の特別公開を実施するとともに、地元の馬車道商店街が同時期に主催する「馬車道まつり」に参加して地域への貢献を図った。

開催日：11月3日（金・祝）

入館者：8,258人

カ 子ども・青少年向け教育普及事業

(ア) ミュージアム・ミッション 2024

2003 年からはじまった地域連携イベントが元になっており、みなとみらい・関内・山手地区にある博物館を巡っていく、夏休みの子どもの向け事業。クイズ等の課題(ミッション)をクリアしながら現地を巡ることで、博物館に親しむ機会を創出することをねらいとしたもの。令和2年度からは新型コロナ対策のため特設サイト上でのイベントをメインに行ってきたが、令和5年度から従来の参加館園を巡りシールを集めるラリー形式で実施している。

開催期間：7月20日(土)～9月1日(日)

参加者数：延べ4,161名

開催館園：(11館)大佛次郎記念館、県立神奈川近代文学館、JICA 横浜 海外移住資料館、シルク博物館、ニュースパーク(日本新聞博物館)、野毛山動物園、放送ライブラリー、三菱みなとみらい技術館、横浜税関資料展示室「クイーンのひろば」、横浜人形の家、当館

※担当：非常勤学芸員 市野 悦子

(イ) おうちでかながわけんぱく

新型コロナウイルス感染症の影響による休校等でおうち時間が増えた子どもたちが楽しめるよう、令和2年4月下旬にホームページ上に新たに開設した子ども向けWEBコンテンツ。当初は子どもを対象としていたが、大人も楽しめるようなコンテンツも作成し、実際の展示の内容とも関連するコンテンツも作成する等、WEBだけで楽しむのではなく、来館にもつながるような内容になるよう工夫している。

閲覧数：44,951回

(ウ) 大学生向け体験講座

「博物館の裏側を知ろう」(無料、ただし常設展観覧券が必要)

開催日：6月30日(日)13:00～15:30(定員10名 応募者14名 受講者10名)

概要：展示室やバックヤード見学に加え、学芸員の仕事の一部である調書作成・梱包を体験する大学生向けの体験講座であり、博物館の役割を学びながら若年層に博物館活動についてより深く知ってもらう機会とした。

講師：主任学芸員 神野祐太・非常勤学芸員 大柳 麻美

※担当：非常勤学芸員 大柳 麻美

(エ) 高校生向け講座

「浮世絵に親しむ」(無料、ただし常設展観覧券が必要)

開催日：8月3日(土)13:30～16:00(定員8名 応募者14名 受講者12名)

概要：浮世絵に関心を持った高校生に向け、浮世絵を展示室で鑑賞する他、歴史や作り方などに着目し、浮世絵をより深く知る機会とした。

講師：企画普及課長 桑山 童奈

※担当：非常勤学芸員 大柳 麻美

(オ) 学んでたのしむ博物館(自由参加、子ども向け)

内容：展示資料に関するワークシートを配布。参加者には記念品を配布。

開催期間：4月2日(火)～12月27日(金)実施日数232日間(無料観覧日は除く)

参加者：938名

※担当：非常勤学芸員 大柳 麻美

(カ) 子ども向け体験ワークショップ(無料)

a 「石臼をまわしてみよう」

開催日：7月28日(日)14:00～15:30(定員親子10組 応募者21名 参加者19名)

概要：臼の構造などを学び、実際に石の摺り臼をまわして穀物等をすりつぶす体験をおこなった。

講師：野木 初男 氏

※担当(普及担当)：主任学芸員 新井 裕美(非常勤学芸員 金子 あゆみ)

b 「糸車をまわしてみよう」

開催日：8月12日（月・祝）14:00～15:30（定員親子10組 応募者63名 参加者31名）

概 要：糸車の仕組みを学び、実際に糸車を回して綿から糸をつむぐ体験をおこなった。

講 師：野木 初男 氏

※担当（普及担当）：主任学芸員 新井 裕美（非常勤学芸員 大柳 麻美）

キ 学校連携事業の状況

(ア) 小・中・高等学校及び特別支援学校等の利用状況

	県 内											
	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校・学級		その他		県内合計	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
4 月	1	81	1	15	9	126	0	0	1	8	12	230
5 月	1	10	24	918	3	14	0	0	0	0	28	942
6 月	3	371	19	490	3	234	1	47	0	0	26	1,142
7 月	3	345	2	28	4	23	0	0	1	11	10	407
8 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9 月	3	130	6	179	2	82	0	0	1	0	12	391
10 月	5	527	1	156	2	37	0	0	0	0	8	720
11 月	19	1,463	7	596	0	0	1	6	1	0	28	2,089
12 月	6	368	8	304	0	0	0	0	1	7	15	691
1 月												
2 月												
3 月												
合計	41	3,295	68	2,686	23	516	2	53	5	59	139	6,609

※ 網掛け部分は館内改修工事により休館

	県 外											
	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校・学級		その他		県外合計	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
4 月	0	0	15	191	11	197	0	0	0	0	26	383
5 月	0	0	26	319	16	756	0	0	1	22	43	1,097
6 月	0	0	8	186	6	297	0	0	0	0	14	483
7 月	1	95	4	191	2	12	0	0	0	0	7	298
8 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9 月	0	0	10	367	1	5	0	0	0	0	11	372
10 月	4	143	11	313	3	262	0	0	0	0	18	718
11 月	1	27	17	557	6	79	1	6	0	0	25	669
12 月	0	0	9	287	2	30	0	0	0	0	11	317
1 月												
2 月												
3 月												
合計	6	265	100	2,411	47	1,638	1	6	1	22	155	4,342

※ 網掛け部分は館内改修工事により休館

	令和6年度総計		令和5年度総計		令和4年度総計		令和3年度総計		令和2年度総計	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
4月	38	618	26	623	26	732	16	535	休館	
5月	71	2,039	66	1,943	66	2,263	10	567	休館	
6月	40	1,625	38	1,410	48	1,928	12	702	0	0
7月	17	705	10	349	11	375	8	339	1	2
8月	0	0	8	205	5	112	1	21	0	0
9月	23	772	25	1,202	21	971	0	0	6	199
10月	26	1,438	26	890	23	815	12	411	9	288
11月	53	2,758	60	3,315	52	1,982	49	2018	17	708
12月	26	996	13	578	34	1,174	36	1999	7	372
1月	休館		28	1,411	25	1,303	7	250	0	0
2月	休館		37	1,680	43	1,388	6	100	休館	
3月	休館		14	321	16	507	54	2177	7	142
合計	294	10,951	351	13,926	370	13,550	211	9119	47	1,711

※ 網掛け部分の令和6年度は館内改修工事による休館、令和2年度は新型コロナウイルス感染症まん延防止のため休館

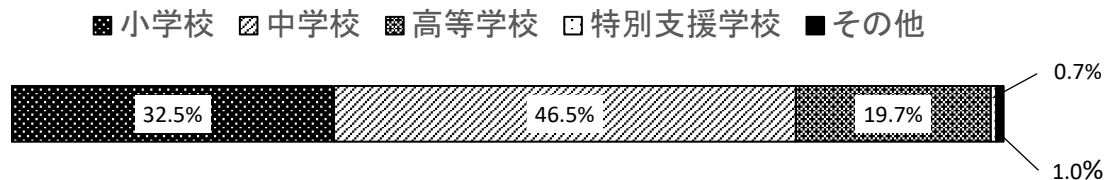
来館児童・生徒の県内外の内訳



総数 10,951名

来館児童・生徒の校種別内訳

総数 10,951名



(イ) 当館の利用目的

(単位：校数)

	利用目的	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校・学級
県内	教科学習(社会科等)	17(33.3%)	2(4.7%)	3(27.3%)	1(50.0%)
	総合的な学習の時間	1(2%)	10(23.2%)	1(9%)	0(0%)
	学校・学年行事(遠足等)	33(64.7%)	31(72.1%)	7(63.7%)	1(50.0%)
	その他(部活動等)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
	合 計	51	43	11	2
県外	教科学習(社会科等)	0(0%)	1(2.2%)	0(0%)	0(0%)
	総合的な学習の時間	2(33.3%)	2(4.4%)	0(0%)	0(0%)
	学校・学年行事(遠足等)	5(83.3%)	44(95.7%)	12(100%)	1(100%)
	その他(部活動等)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
	合 計	7	47	12	1

※事前連絡校による統計

※義務教育学校、中等教育学校は課程により分類

(ウ) 学校の博物館利用の状況

(単位：校数)

校 種	事前準備			博物館活用			利用形態			付帯施設利用		
	FAX連絡校	電話連絡校	下見来館校	ボランティア解説	ワークシート活用	特別依頼	全員一斉	グループ	その他	駐車場	講堂・会議室	その他
小学校	47	47	32	3	36	0	42	5	0	7	25	2
中学校	77	85	15	3	6	0	11	73	1	3	8	11
高等学校	23	23	6	2	0	1	15	8	0	2	5	2
特別支援学校・学級	3	3	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0
合 計	150	158	53	8	42	1	72	86	1	12	38	15

※事前連絡校による統計

※「ワークシート活用」＝館提供のワークシートを活用して見学。

※「特別依頼」＝学芸員による館の概要説明や建物の解説など。

※付帯施設利用の「その他」＝ライブラリーの利用、エントランスでのチェックポイント設置など。

(エ) ボランティア、学芸員等による解説へのテーマ別対応状況(複数選択あり)

(単位：延べ校数)

依頼テーマ	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校・学級	その他
テーマ1 さがみの古代に生きた人びと	0	1	0	0	0
テーマ2 都市鎌倉と中世びと	0	1	0	0	0
テーマ3 近世の街道と庶民文化	0	0	0	0	0
テーマ4 横浜開港と近代化	3	2	2	0	0
テーマ5 現代の神奈川と伝統文化	0	0	0	0	0
特別展示・その他 (含む専門解説)	0	0	1	0	1

(オ) 教員、児童・生徒に向けた資料等の提供

小・中学生向けの「小・中学生の歴史学習に関連した展示資料」と、小学校及び中学校教員向けの「歴史学習に対応した主な展示資料」を引き続きホームページに掲載するとともに、下見に来館した教員へ配付するなど、展示の内容を紹介する資料として活用した。また、「高校生インターンシップ」・「中学生職業体験」を実施し、博物館活動の体験機会を提供した。

「高校生インターンシップ」

8月1日（木）・2日（金）・3日（土） 9:00～17:00 参加者4名

「中学生職業体験」

7月21日（日） 鎌倉市立第二中学校2年 4名 9:00～12:00

7月25日（木） 川崎市立豊学校中学2年 1名 9:00～12:00

11月28日（木） 横浜市立岩井原中学校2年 5名 9:00～15:00

12月11日（水）・12日（木） 川崎市立犬蔵中学校2年 5名 9:00～15:00

(カ) ワークシートの作成と活用

児童・生徒向けに「けんぱく見学シート」、「けんぱくクイズ」、「けんぱくミッション」をホームページに掲載し提供した。課題を持って見学するうえで効果的であった。展示替えがあればその都度ワークシートの更新をした。

(キ) 教員対象の講座の実施

令和6年度に神奈川県教員研修体系が変更され、「自己研鑽のための研修」に位置づけられた「教員のための博物館講座」を実施した。

日 時 7月24日（水）10:00～16:30 参加者12名

内 容 バックヤードツアー、学芸員による常設展展示解説、常設展見学、コレクション展展示解説、コレクション展見学、学芸員による展示資料を活用した教材化のワークショップ

※なお、前述の研修体系の変更により、これまで実施してきた社会体験研修は廃止になった。

(ク) 出張講座

休館中の学校連携の一環として開始した、学芸員が講師となり県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に出張して講義をする「出張講座」を実施した。

日付	学校名	講座名	概要	講師名	対象学年 授業時限数 受講者数
5月21日 （火）	湘南白百合学園中学校	博物館・学芸員の仕事	博物館という施設とそこで働く様々な職種の職員や学芸員の仕事について実体験に基づき紹介した。	主任学芸員 新井 裕美	中2 1時限 183名
6月25日 （火）	川崎市立西御幸小学校	知っているようで知らない考古学の世界	縄文土器の縄文原体の作成や土器等を身近に感じながら、モノから歴史を考える‘考古学’の世界を紹介した。	学芸員 佐藤 兼理	小6 2時限 54名
6月28日 （金）	逗子市立沼間中学校	鎌倉大仏をもっと知る！	鎌倉大仏の手や足、服装を実際に体験することにより、仏像のかたちをわかりやすく紹介した。	主任学芸員 神野 祐太	中1 1時限 73名
7月5日 （金）	大和市立福田小学校	鎌倉大仏をもっと知る！	鎌倉大仏の手や足、服装を実際に体験することにより、仏像のかたちをわかりやすく紹介した。	主任学芸員 神野 祐太	小6 3時限 83名

7月9日 (火)	大和市立 緑野小学 校	江戸時代の 浮世絵を学 ぶ	浮世絵の歴史や木版画の技術、 題材、歌麿、北斎、広重など浮 世絵師の魅力と地域ゆかりの浮 世絵を紹介した。	企画普及課長 桑山 童奈 非常勤学芸員 山口 希	小6 4時限 131名
7月10日 (水)	川崎市立 東小田小 学校	知っている ようで知ら ない考古学 の世界	縄文土器の縄文原体の作成や土 器等を身近に感じながら、モノ から歴史を考える‘考古学’の 世界を紹介した。	学芸員 佐藤 兼理	小6 2時限 38名
7月11日 (木)	横須賀市 立常葉中 学校	身近な地域 の現代史	学校周辺の空中写真や、昭和初 期に描かれた‘神奈川県鳥瞰 図’の複製などを見ながら、地 域の現代史を紹介した。	学芸員 武田 周一郎	中3 2時限 120名
7月11日 (木)	横須賀市 立長浦小 学校	鎌倉大仏を もっと知 る！	鎌倉大仏の手や足、服装を実際 に体験することにより、仏像の かたちをわかりやすく紹介し た。	主任学芸員 神野 祐太	小6 1時限 30名
7月12日 (金)	鎌倉市立 第一小学 校	鎌倉大仏を もっと知 る！	鎌倉大仏の手や足、服装を実際 に体験することにより、仏像の かたちをわかりやすく紹介し た。	主任学芸員 神野 祐太	小6 2時限 114名
9月10日 (火)	厚木市立 上依知小 学校	博物館・学 芸員の仕事	博物館という施設とそこで働く 様々な職種の職員や学芸員の仕 事について実体験に基づき紹介 した。	学芸員 鈴木 愛乃	小6 1時限 37名
9月12日 (木)	横浜市立 浅間台小 学校	知っている ようで知ら ない考古学 の世界	縄文土器の縄文原体の作成や土 器等を身近に感じながら、モノ から歴史を考える‘考古学’の 世界を紹介した。	学芸員 佐藤 兼理	小6 2時限 57名
9月12日 (木)	川崎市立 四谷小学 校	鎌倉大仏を もっと知 る！	鎌倉大仏の手や足、服装を実際 に体験することにより、仏像の かたちをわかりやすく紹介し た。	主任学芸員 神野 祐太	小6 2時限 55名
9月27日 (金)	茅ヶ崎市 立汐見台 小学校	江戸時代の 浮世絵を学 ぶ	浮世絵の歴史や木版画の技術、 題材、歌麿、北斎、広重など浮 世絵師の魅力と地域ゆかりの浮 世絵を紹介した。	企画普及課長 桑山 童奈	小6 2時限 46名
10月29日 (火)	大和市立 文ヶ岡小 学校	絵図で見る 江戸時代	江戸時代の武蔵国相模国絵図な ど地域が描かれた絵図を見なが ら、今も残る寺社や石物などを 通じて地域の歴史を紹介した。	非常勤学芸員 根本 佐智子	小6 2時限 76名
10月29日 (火)	平塚市立 大原小学 校	かながわの 地質と歴史 を学ぶ	学校周辺の岩石・石材を素材に した地質の特徴と、その地の石 に纏わる人間の営みを地域の歴 史として一体的に紹介した。	学芸部長 丹治 雄一 生命の星・地 球博物館 企画普及課長 山下 浩之	小6 2時限 39名

11月26日 (火)	横浜国立 大学附属 特別支援 学校(中学 部)	昔の台所と 食べ物	当館展示室内の古民家の台所の 様子や昔の食べ物の複製資料の 画像を通じて、昔と今の食生活 の変化を紹介した。	非常勤学芸員 三浦 麻緒	中1～3 1時限 19名
11月29日 (金)	川崎市立 南野川小 学校	自由民権運 動と地域社 会	自由民権運動の基本的な流れや 神奈川県と学校のある地域の運 動を比較しながら、自由民権運 動と地域について紹介した	非常勤学芸員 山下 春菜	小6 2時限 50名
1月14日 (火)	神奈川県 立横浜南 支援学校	江戸時代の 浮世絵を学 ぶ	浮世絵の歴史や木版の技術、 題材、歌麿、北斎、広重など浮 世絵師の魅力と地域ゆかりの浮 世絵を紹介した。	企画普及課長 桑山 童奈	特支5・6 1時限 7名
1月17日 (金)	逗子市立 逗子小学 校	昔の台所と 食べ物	当館展示室内の古民家の台所の 様子や昔の食べ物の複製資料の 画像を通じて、昔と今の食生活 の変化を紹介した。	非常勤学芸員 三浦 麻緒	小3 2時限 119名
1月24日 (金)	神奈川県 立横浜南 支援学校	昔の道具を 調べよう	高度経済成長期以前に使用され ていた‘食’に纏わる道具の変遷 やそれに伴う生活の変化につい て紹介した。	主任学芸員 新井 裕美	特支3 1時限 3名
1月28日 (火)	横浜国立 大学附属 南小学校	昔の道具を 調べよう	高度経済成長期以前に使用され ていた‘食’に纏わる道具の変遷 やそれに伴う生活の変化につい て紹介した。	主任学芸員 新井 裕美	小3 1時限 134名
1月31日 (金)	川崎市立 南野川小 学校	昔の道具を 調べよう	高度経済成長期以前に使用され ていた‘食’に纏わる道具の変遷 やそれに伴う生活の変化につい て紹介した。	主任学芸員 新井 裕美	小6 2時限 50名
2月7日 (金)	フェリス 学院女学 校・高 等学校	中世武士の 鎌倉	絵巻物や生徒に身近なアニメ ーション等をモチーフに、中世 の武士が果たした役割について 紹介した。	学芸員 渡邊 浩貴	中2 2時限 183名
合 計					41時限 1,701名

(ケ) 大学団体利用

授業内容等の専門性を高めるため、常設展または特別展等の見学及び解説を行う。

【受入実績】

	見 学 日	大 学 名	人 数 (名)
1	4月9日 (火)	東京都市大学	82
2	4月20日 (土)	鶴見大学	31
3	5月12日 (日)	日本女子大学	11
4	5月24日 (金)	横浜国立大学	20
5	5月25日 (土)	神奈川大学	17
6	5月26日 (日)	日本女子大学	88
7	5月26日 (日)	明治学院大学	24
8	5月29日 (水)	関東学院大学	11
9	5月31日 (金)	神奈川大学	83

10	6月6日(木)	早稲田大学	26
11	6月6日(木)	ノースカロライナ州立大学	18
12	6月7日(金)	横浜国立大学大学院	15
13	8月2日(金)	湘北短期大学	9
14	8月3日(土)	横浜国立大学	14
15	8月3日(土)	東洋英和女学院大学	12
16	8月21日(水)	政策研究大学院大学	30
17	9月6日(金)	京都女子大学	9
18	9月7日(土)	横浜国立大学	7
19	9月27日(金)	防衛大学校	11
20	11月1日(金)	横浜国立大学	14
21	11月5日(火)	明海大学	12
22	11月14日(木)	瀋陽市城市学院大学	17
23	11月20日(水)	防衛大学	26
24	12月8日(日)	東京家政学院大学	7
合 計			594

(6) ミュージアムライブラリー

県民の学習活動を支援する場として、1階フリーゾーンにミュージアムライブラリーを設置している。

図書、情報システム端末（デジタルミュージアム・蔵書検索・デジタルアーカイブ用）などがあり、展示を中心とした神奈川の歴史や文化について学ぶことができる。

職員1名以上が常駐し、質問等を受け付けるなど、生涯学習の場として広く利用されるように運営している。（図書、情報システムの内容についてはそれぞれの項目に記載）

令和6年度の利用者総数は8,938名で、フリーゾーンを含めた入館者に対する比率は8.0%。

ア 閲覧用座席数

16席、来館者用情報システム端末：2台

イ 利用者数

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
小学生	156	100	128	236	398	212	134	136	139				1,639
中学生	8	202	14	10	29	14	16	20	2				315
高校生	6	11	4	11	14	3	23	10	1				83
大学生	11	6	33	15	35	18	13	27	27				185
一般成人	410	447	504	494	649	424	416	538	487	休館			4,369
65歳以上	208	257	268	170	226	238	280	312	265				2,224
生徒引率	1	10	0	45	0	31	9	1	26				123
合計	800	1,033	951	981	1,351	940	891	1,044	947				8,938
開館日数(日)	24	28	26	24	27	27	25	27	22				230
1日平均	33.3	36.9	36.6	40.9	50.0	34.8	35.6	38.7	43.0				38.9

ウ 利用形態

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
図書閲覧	291	489	343	319	359	310	353	504	421				3,389
情報システム端末	8	12	14	14	23	24	22	22	8	休館			147
各種照会※	282	466	302	305	351	275	369	268	241	131	168	132	3,290

ワークシート		138	87	117	227	416	170	113	102	126				1,496
コピー	(件数)	23	35	20	17	19	15	22	33	22		休館		206
サービス	(枚数)	233	316	137	214	134	210	492	429	319				2,484

※レファレンス、写真資料の特別利用、ポスター掲出・チラシ配架、周辺施設案内など

(7) 普及印刷物

ア 図録等

- ・「近代輸出漆器のダイナミズム—金子皓彦コレクションの世界—」
会場内配布目録&解説「Yokohama Lacquer News」
子供向け冊子「探検！漆器ワールド！」
4月27日神奈川県立歴史博物館発行
- ・特別展図録「近代輸出漆器のダイナミズム—金子皓彦コレクションの世界—」
5月31日神奈川県立歴史博物館発行
- ・特別展図録「かながわへのまなざし」
8月8日神奈川県立歴史博物館発行
- ・「かながわへのまなざし」解説冊子(英文/簡体字中文/繁体字)
8月8日神奈川県立歴史博物館発行
- ・特別展図録「仮面絢爛—中世音楽と芸能があらわす世界—」
10月26日神奈川県立歴史博物館発行

イ 広報印刷物

- ・特別展「近代輸出漆器のダイナミズム—金子皓彦コレクションの世界—」ポスター・チラシ
- ・特別展「かながわへのまなざし」ポスター・チラシ
- ・特別展「仮面絢爛—中世音楽と芸能があらわす世界—」ポスター・チラシ
- ・コレクション展「本店本館創建 120 周年記念 横浜正金銀行」ポスター・チラシ
- ・「催し物のご案内（2025 年 4 月～2026 年 3 月）」

ウ 神奈川県立歴史博物館だより

- 『神奈川県立歴史博物館だより』VOL. 30 No. 1 通巻 226 号 令和 6 年 5 月 28 日 (2,000 部)
- 『神奈川県立歴史博物館だより』VOL. 30 No. 2 通巻 227 号 令和 6 年 8 月 16 日 (2,000 部)
- 『神奈川県立歴史博物館だより』VOL. 30 No. 3 通巻 228 号 令和 7 年 2 月 17 日 (2,000 部)

(8) ボランティアの活動

博物館ボランティアについては、展示解説ボランティアの活動を平成 9 年度から開始し、平成 13 年度から活動年数を最長 5 年とした。また、写真職が撮影したフィルムをスキャンしデジタル化する作業に従事するボランティアもいた。平成 22 年度からは行事補助ボランティアを導入して活動を拡大した。

令和 6 年度のボランティア人数は 116 名（令和 7 年 3 月末日現在）である（詳細は下記「(イ) ボランティア数」参照）。ボランティアの通常任期が 5 年のところ、18 期と 19 期については任期延長を複数回依頼し既に休館期間を除いた実活動期間は、6 年目、7 年目となっていること、令和 7 年 1 月から長期休館に入ることから、令和 6 年度末で退任とした。また、新規ボランティアの募集についても休館に入るため実施しなかった。

ア 活動状況及び実績

展示解説ボランティアは、常設展見学者に対する解説を行うほか、特別展の展示解説を 11 時からと 14 時 30 分からの 1 日 2 回、各回 40 分程度実施した。

行事ボランティアは、催し物の受付・案内の補助、子ども向けワークショップ等では工作などの指導補助を行っている。

(ア) 活動日数及び人数

月	活動日数(日)	延べ活動人数(名)
4	26	312
5	28	383
6	26	363
7	26	326
8	28	339
9	27	365
10	27	325
11	27	373
12	23	263
1	1	2
2	1	2
3	2	4
合計	242	3,057

※ 1月～3月は休館のため「展示解説ボランティア」の活動なし。「行事補助ボランティア」の活動のみカウント。

(イ) ボランティア数(令和7年3月末現在)

展示解説ボランティア 計95名

火曜班：17名、水曜班：15名、木曜班：15名、金曜班：15名、土曜班：16名、日曜班：17名

行事補助ボランティア 計21名

年代別・男女別人数等

年代	男	女	計
20	0	1	1
30	0	1	1
40	2	3	5
50	1	8	9
60	17	15	32
70	50	16	66
80	1	1	2
合計	71	45	116
平均年齢	70.97歳	63.78歳	68.18歳

イ 専門研修

翌年度の登録採用ボランティアを対象として、展示解説に必要な常設展示に関する知識や資料の保存、教育普及活動について解説する専門研修は、今年度新規登録がなかったため実施しなかった。

ウ その他の研修

(ア) 特別展勉強会

特別展「近代輸出漆器のダイナミズム—金子皓彦コレクションの世界—」・特別展「かながわへのまなざし」・特別展「仮面絢爛—中世音楽と芸能があらわす世界—」・コレクション展「おひろめ！—新しく博物館の仲間になったモノたち—」・コレクション展「本店本館創建120周年記念 横浜正金銀行」開催にあたり、看視活動・解説に備えるため、展示関係資料を配布するとともに講堂及び展示室内で展示解説を行った。

(イ) フォローアップ研修

常設展示等解説のフォローアップとして、例年、常設展等からテーマを決めて研修講座を実施している。令和6年度は下記の通り実施した。

第1回 テーマ：博物館の防災と当館の設備について

8月23日（金）15:00～15:40、16:00～16:40（主任学芸員 新井 裕美・事務補助員 竹内 廣一）

第2回 テーマ：神奈川県立歴史博物館の中世絵画―仏教美術と絵巻物―

1月15日（水）・1月18日（土） 各日 14:00～15:30（臨時学芸員 樋口 美咲）

(ウ) 館長講話

テーマ：絵図・地図にみる開港地

3月22日（土）14:15～15:45（館長 望月 一樹）

(9) 博物館実習生の受入れ

「神奈川県立歴史博物館博物館実習生受入要領」に基づき、見学実習と実務実習を受け入れた。

ア 見学実習

当館の概要（歴史・施設・組織・展示や事業概要など）について学芸員が説明した後、展示室、バックヤード等の見学を行った。

【受入実績】

	見 学 日	大 学 名	人 数 (名)
1	4月3日（水）	大東文化大学	17
2	6月2日（日）	國學院大學	30
3	6月29日（土）	日本大学	8
4	6月29日（土）	松蔭大学	3
5	7月15日（月）	フェリス女学院大学	11
6	7月28日（日）	お茶の水女子大学	7
7	7月31日（水）	日本女子大学	15
8	8月3日（土）	日本女子大学	25
9	8月10日（土）	日本女子大学	14
10	9月1日（日）	日本女子大学	22
11	10月1日（火）	國學院大學大学院	8
12	10月12日（土）	武蔵大学	7
13	10月26日（土）	昭和音楽大学	6
14	10月29日（火）	神奈川大学	24
15	11月17日（日）	鎌倉女子大学	8
16	12月8日（日）	女子美術大学	18
17	12月21日（土）	日本大学	24
合 計			247

イ 実務実習

博物館運営に関わる業務や教育普及事業、博物館の資料の取扱いや整理の方法などについて学ぶ全6日間の実習を行った。

○応 募 数：28 大学 39 名

○受 入 数：12 大学 12 名

○実 受 入 数：12 大学 12 名

○実受入大学名：跡見学園女子大学、京都芸術大学、国土館大学、実践女子大学、大正大学、東京女子大学、東京大学、東洋大学、日本大学、法政大学、明治大学、立命館大学

(1 大学につき 1 名)

【実習内容】

	日 付	内 容
第1日	9月11日(水)	ガイドンス、当館の概要、館内・バックヤード見学、博物館の広報とデザイン、学校連携、最終日の課題について
第2日	9月12日(木)	ボランティア活動、資料の収集と収蔵資料データベース（情報システム）、写真資料の活用と保存、写場見学・撮影体験、資料保存と環境
第3日	9月13日(金)	考古資料の取扱い方（展示・梱包・調書の取り方） 民俗資料の取扱い方（展示・梱包）
第4日	9月18日(水)	美術資料の取扱い方 （立体資料の展示・梱包、平面資料の調書の取り方）
第5日	9月19日(木)	歴史資料の取扱い方 （中世資料の調書の取り方と運搬、近代資料の整理と運搬）
第6日	9月20日(金)	教育普及の実践 （工芸資料の子ども向けキャプション作成と発表）

(10) 他機関との連携

海図の歴史―第153回水路記念日―

概 要：海上保安庁第三管区海上保安本部海洋情報部と連携し、同部作成のパネルを1階会議室前の廊下に展示した。9月12日の水路記念日にちなみ、「今月の逸品 第三管区海上保安本部の「横浜港図」」の関連企画として実施した。

会 期：9月5日(木) ～ 9月20日(金)

会 場：1階 廊下フリーゾーン

主 催：海上保安庁第三管区海上保安本部海洋情報部、神奈川県立歴史博物館

展 示 点 数：合計8点

6 資料

(1) 条例・規則

ア 神奈川県立の博物館条例

〔 昭和 41 年 10 月 7 日 〕
条例第 43 号

最終改正 平成 28 年 10 月 21 日条例第 77 号

(趣旨)

第 1 条 この条例は、神奈川県立の博物館の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第 2 条 博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)に基づき、次のとおり神奈川県立の博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

名 称	位 置	目 的
神奈川県立歴史博物館	横浜市中区南仲通 5 丁目 60 番地	神奈川の文化及び歴史に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。
神奈川県立生命の星・地球博物館	小田原市入生田 499 番地	地球及び生命の営みに関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。

(職員)

第 3 条 博物館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(観覧料の納付)

第 4 条 博物館に展示している博物館資料を観覧する者(以下「観覧者」という。)は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している博物館資料の観覧については、この限りでない。

2 前項本文の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会(以下「教育委員会」という。)がその都度定めることができる。

3 教育委員会は、第 1 項本文及び前項に規定する観覧料を納めた者に観覧券を交付するものとする。

4 観覧者(別表備考 2 に規定する者を除く。)は、入館する際に、前項に規定する観覧券又はこれに代わるものとして教育委員会が認めたものを提出し、又は提示しなければならない。

(観覧料の減免)

第 5 条 前条第 1 項本文及び第 2 項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

(1) 教育委員会が開催する行事に参加する者

(2) 教育課程に基づく教育活動として入館する高校生(学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号。別表備考において「法」という。)第 1 条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者という。別表において同じ。)並びに児童及び生徒の引率者

(3) その他教育委員会が適当と認めた者

(観覧料の不還付)

第 6 条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りでない。

(資料の特別利用)

第 7 条 博物館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第 8 条 教育委員会は、博物館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

(1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

(2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。

(3) 施設、博物館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。

(4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第 9 条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から起算して6月をこえない範囲内で教育委員会規則で定める日から施行する。（昭和41年11月18日教育委員会規則第8号で、同41年11月21日から施行。ただし、第4条から第9条までの規定の施行期日にあつては昭和42年3月22日とし、第10条の規定の施行期日にあつては昭和42年4月1日とする。）

(略)

附 則(平成28年10月21日条例第77号)

この条例は、平成28年12月1日から施行する。

別表(第4条関係)(抄)

区 分		個 人	20人以上の団体
神奈川県立歴史博物館	20歳以上65歳未満の者 (学生及び高校生を除く。)	1人につき 300円	1人につき 250円
	20歳未満の者(高校生を除く。)	同 200円	同 150円
	学生(65歳以上の者を除く。)		
	65歳以上の者	同 100円	同 100円
	高 校 生		

備考 1 学生とは、法第1条に規定する大学及び高等専門学校、法第124条に規定する専修学校並びに法第134条第1項に規定する各種学校に在学する者をいう。

2 学齢に達しない者並びに法第1条に規定する小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

イ 神奈川県立の博物館組織規則

昭和41年11月18日
教育委員会規則第10号

最終改正 平成18年3月31日教育委員会規則第13号

(趣旨)

第1条 この規則は、神奈川県立の博物館の組織に関し必要な事項を定めるものとする。

(部等の設置)

第2条 神奈川県立の博物館に、次の部及び課を置く。

管理課

企画情報部

企画普及課

情報資料課

学芸部

(管理課の事務)

第3条 管理課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 公印に関すること。
- (2) 文書の收受、発送、保存、閲覧等に関すること。
- (3) 個人情報の開示、訂正、利用停止等に関すること。
- (4) 人事に関すること。
- (5) 財産の管理及び館内の秩序の維持に関すること。
- (6) 予算の経理に関すること。
- (7) 観覧料の徴収に関すること。
- (8) 物品の調達及び処分に関すること。
- (9) 寄贈品の受納並びに寄託品の受納及び返納に関すること。
- (10) その他他部課の主管に属しないこと。

第4条 削除

(企画普及課の事務)

第5条 企画普及課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館活動の企画及び調整に関すること。
- (2) 博物館活動の普及及び広報に関すること。
- (3) 博物館活動に関する講演会、講習会、研究会等の開催に関すること。
- (4) 他の博物館その他教育、学術又は文化に関する施設、団体等との連絡、協力及び情報の交換に関すること。

(情報資料課の事務)

第6条 神奈川県立歴史博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 人文科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
- (2) 博物館情報システムの運用に関すること。

2 神奈川県立生命の星・地球博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 自然科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
- (2) 博物館情報システムの総合的企画及び調整並びに運用に関すること。

(学芸部の事務)

第7条 学芸部においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館資料の収集、製作、整理、保管、展示、解説及び指導に関すること。
- (2) 博物館資料の専門的及び技術的な調査研究に関すること。

(委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、神奈川県教育委員会教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和41年11月21日から施行する。

(略)

附 則(平成18年3月31日教育委員会規則第13号)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

ウ 神奈川県立の博物館の利用等に関する規則

昭和41年11月18日
教育委員会規則第9号

最終改正 令和5年3月31日教育委員会規則第15号

(趣旨)

第1条 この規則は、神奈川県立の博物館の利用等に関し必要な事項を定めるものとする。

(権限の委任)

第2条 次に掲げる神奈川県教育委員会の権限は、神奈川県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)に委任する。

- (1) 神奈川県立の博物館条例(昭和41年神奈川県条例第43号。以下「条例」という。)第4条第2項の規定により観覧料を定めること。
- (2) 条例第4条第3項の規定により観覧券を交付すること。
- (3) 条例第4条第4項の規定により観覧券に代わるものを認めること。
- (4) 条例第5条の規定により観覧料を減免すること。
- (5) 条例第6条ただし書の規定により観覧料の還付を認めること。
- (6) 条例第7条の規定により利用を承認すること。
- (7) 条例第8条の規定により利用を制限すること。

(休館日等)

第3条 神奈川県立歴史博物館及び神奈川県立生命の星・地球博物館(以下「博物館」という。)の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「国民の祝日等」という。)に当たるときを除く。)
- (2) 国民の祝日等の翌日(土曜日、日曜日又は国民の祝日等に当たるときを除く。)
- (3) 12月28日から翌年の1月4日まで
- (4) その他教育長が定める日

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、臨時に博物館を開館することができる。

(開館時間等)

第4条 開館時間は、次のとおりとする。

名 称	開 館 時 間
神奈川県立歴史博物館	午前9時30分から午後5時まで。ただし、午後4時30分以降は、入館することができない。
神奈川県立生命の星・地球博物館	午前9時から午後4時30分まで。ただし、午後4時以降は、入館することができない。

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(観覧券の様式)

第5条 条例第4条第3項に規定する観覧券は、神奈川県立歴史博物館にあつては第1号様式とし、神奈川県立生命の星・地球博物館にあつては第2号様式とする。

(観覧料の減免申請)

第6条 観覧料の減免を受けようとする者は、あらかじめ、観覧料減免申請書を教育長に提出し、観覧料減免承認書の交付を受けなければならない。

(観覧料の還付申請)

第7条 観覧料の還付を受けようとする者は、観覧料還付申請書に観覧券を添えて教育長に提出し、観覧料還付承認書の交付を受けなければならない。

(資料の特別利用)

第8条 条例第7条の規定により博物館資料の特別利用の承認を受けようとする者は、特別利用承認申請書を教育長に提出し、特別利用承認書の交付を受けなければならない。

(利用の方法)

第9条 博物館を利用する者は、博物館の管理上必要な事項を守り、職員の指示に従わなければならない。

(資料の館外貸出し)

第10条 次に掲げるものは、教育長の承認を受けて博物館資料の館外貸出しを受けることができる。

- (1) 国立の博物館、博物館法（昭和26年法律第285号）第2条第1項に規定する博物館及び同法第31条第1項の規定により文部科学大臣の指定した博物館に相当する施設
- (2) 社会教育法（昭和24年法律第207号）第21条に規定する公民館
- (3) 国立の図書館及び図書館法（昭和25年法律第118号）第2条第1項に規定する図書館
- (4) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する学校
- (5) その他教育長が適当と認めるもの

2 前項の規定による承認を受けようとするものは、館外貸出承認申請書を教育長に提出し、館外貸出承認書の交付を受けなければならない。

(館外貸出しの期間)

第11条 博物館資料の館外貸出しの期間は、30日以内とする。ただし、教育長は、特に必要があると認めるときは、これを延長することができる。

2 前項の館外貸出しの期間は、博物館が当該博物館資料を引き渡した日から起算してその返還を受ける日までの日数により算定するものとする。

3 教育長は、館務の都合により必要があるときは、博物館資料の館外貸出しの期間中であつても、当該博物館資料の返還を求めることができる。

(館外貸出しをした資料の利用方法)

第12条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所で、利用してはならない。

(資料滅失等の届出)

第13条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちに資料滅失（損傷）届出書を教育長に提出しなければならない。

(寄託を受けた資料の利用の制限)

第14条 寄託を受けた博物館資料の館外展示及び館外貸出しは、寄託者の承諾がある場合のほかは、行なうことができない。

(委任)

第15条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和41年11月21日から施行する。ただし、第2条から第9条までの規定は、昭和42年3月22日から施行する。

(略)

附 則（令和5年3月31日教育委員会規則第15号）

この規則は、令和5年4月1日から施行する。

(2) 利用案内

- 1 名 称：神奈川県立歴史博物館 (Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History)
2 所 在 地：横浜市中区南仲通 5-60 〒231-0006
3 電 話：045-201-0926(代表)
4 F A X：045-201-7364
5 ホームページ：<https://ch.kanagawa-museum.jp/>
6 交 通：みなとみらい線「馬車道駅」3・5 番出口から徒歩 1 分、
横浜市営地下鉄「関内駅」9 番出口から徒歩 5 分、JR「桜木町駅」新南口（IC カード専用）
から徒歩 5 分
7 休 館 日：月曜日（ただし、祝日の場合は開館）、資料整理休館日、年末年始
8 観 覧 料：○常設展
・20 歳以上(学生を除く)：300 円(250 円)（ ）内は 20 名以上の団体
・20 歳未満及び学生：200 円(150 円)
・高校生及び 65 歳以上：100 円(100 円)
・中学生以下及び障害者手帳等をお持ちの方は無料
○特別展
・常設展とは別料金となり、金額は展示ごとに別途定める。
○コレクション展
・無料
9 団 体 見 学：事前にご連絡ください。
10 地 図



神奈川県立歴史博物館年報 令和6年度

令和7(2025)年8月15日

編集・発行 〒231-0006

横浜市中区南仲通5-60

神奈川県立歴史博物館

本書の無断転載を禁ず

ISSN 1346-6127

Kanagawa Kenritsu Rekishi Hakubutsu-kan

Nen-po

Annual Report of the Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

(2024.4~2025.3)

Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

Naka-ku, Yokohama, Kanagawa, JAPAN